

令和 2 年度実施
西条市の教育に関するアンケート調査
報告書（小学校教員向け調査）

令和 3 年 2 月

西条市経営戦略部政策企画課

目 次

1 本調査の概要	1
2 基本情報	2
(1) 男女別	2
(2) 年齢.....	2
(3) 所属する小学校の地区別	3
3 学校教育について	4
(1) 小学校がどのようなところであるべきか.....	4
(2) 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度	7
(3) (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策.....	11
(4) 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの.....	14
(5) 教育環境として望ましいと思う小学校の規模	18
4 図書館について	22
(1) 小学校教員における図書館の利用状況	22
(2) 小学校教員における図書館の利用環境に対する満足度.....	24
(3) 小学校教員が主に利用している図書館	27
(4) 小学校教員が図書館を利用した主な目的.....	29
5 公民館について	36
(1) 小学校教員における公民館の利用状況	36
(2) 小学校教員における公民館の利用環境に対する満足度.....	39
(3) 小学校教員が公民館に期待する事業.....	41
6 地域文化・歴史文化について	48
(1) 小学校教員における芸術文化に対する興味関心.....	48
(2) 小学校教員における芸術文化に触れる機会の充実度	51
(3) 小学校教員におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度	56
(4) 小学校教員におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度	59
(5) 小学校教員におけるふるさとの先人に対する知識.....	61
7 参考資料（アンケート用紙）	67

1 本調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、令和2年度が本市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改訂する年度にあたるため、小学校教員の方々のご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的として実施しました。

(2) 調査の方法と実施時期

この調査は、市内25の市立小学校に勤務されている教員を対象に実施しました。具体的には、令和2年11月13日に市役所から各小学校宛に調査票を発送し、教員1名につき1通の調査票を配布した上で、12月9日までに各学校で集約して提出いただく方法を採用しました。

(3) 調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和2年4月1日現在における市内25市立小学校の勤務されている教員（校長・教頭・主幹教諭・教諭・助教諭・講師・非常勤講師・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭）は485名であり、そのうち回収した調査票は437通、回収率は90.1%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いということが言えます。

(4) 調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

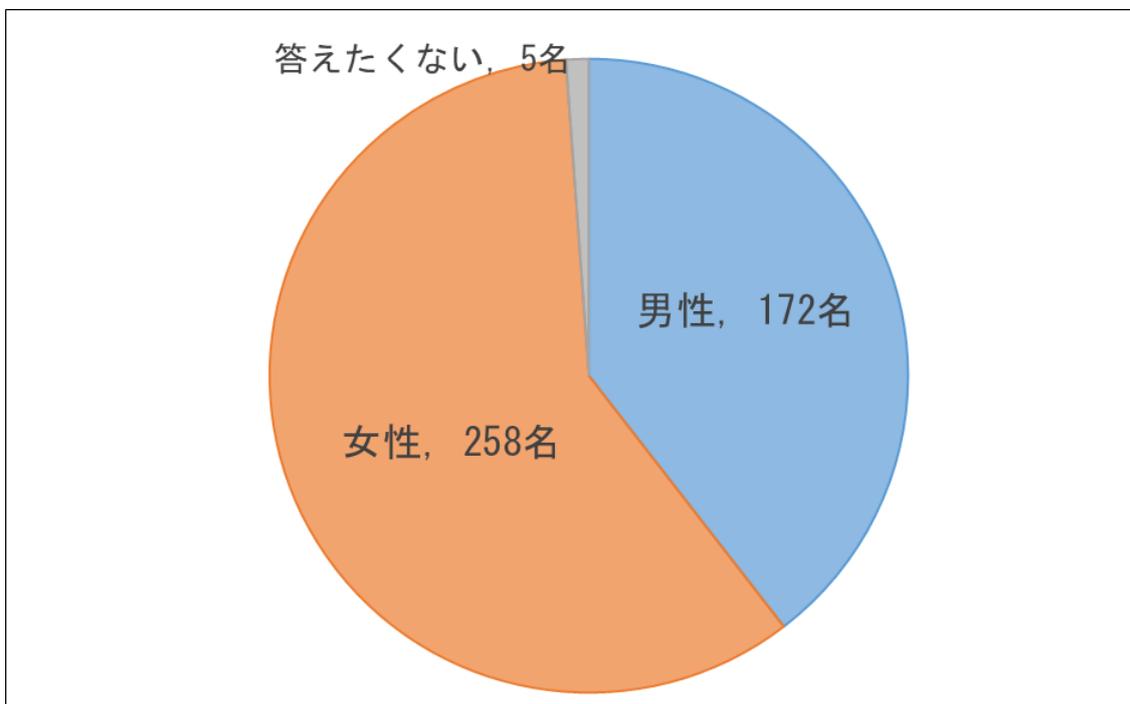
(5) その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第2位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が100%になるとは限りません。

2 基本情報

(1) 男女別

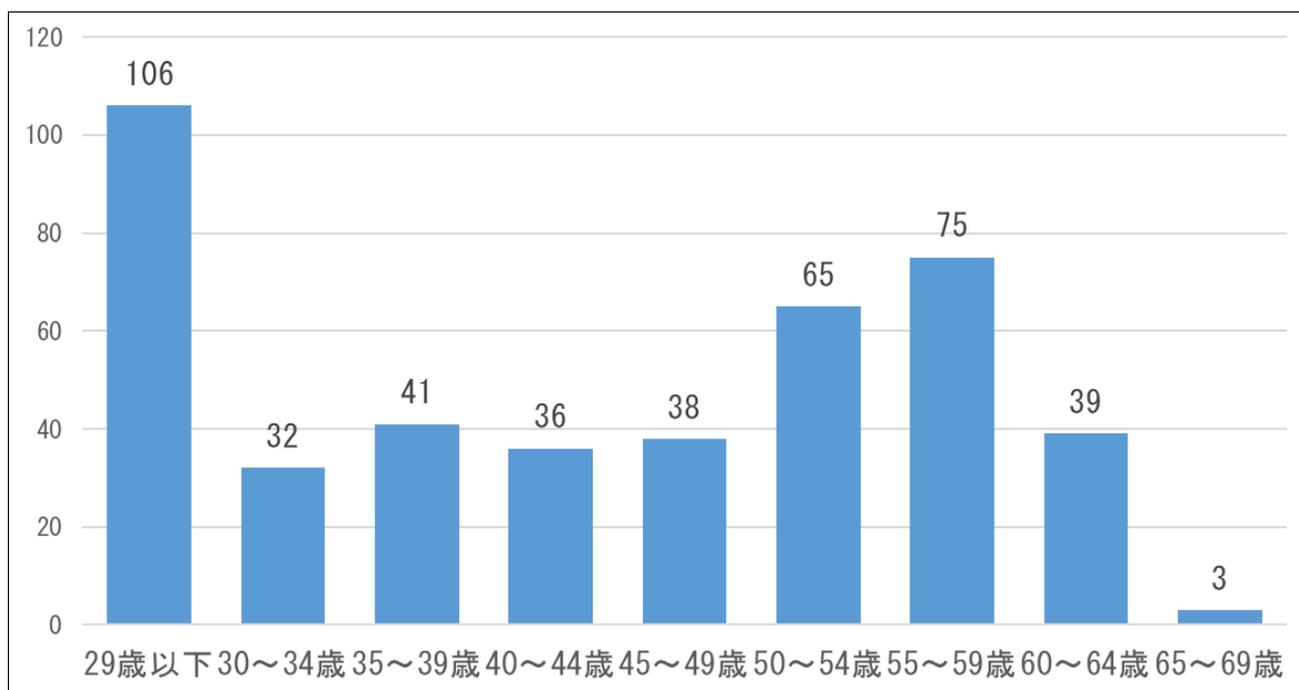
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 172 名、女性は 258 名、答えたくないが 5 名となりました。



図表 2 - 1 回答者の男女別 (N = 4 3 5)

(2) 年齢

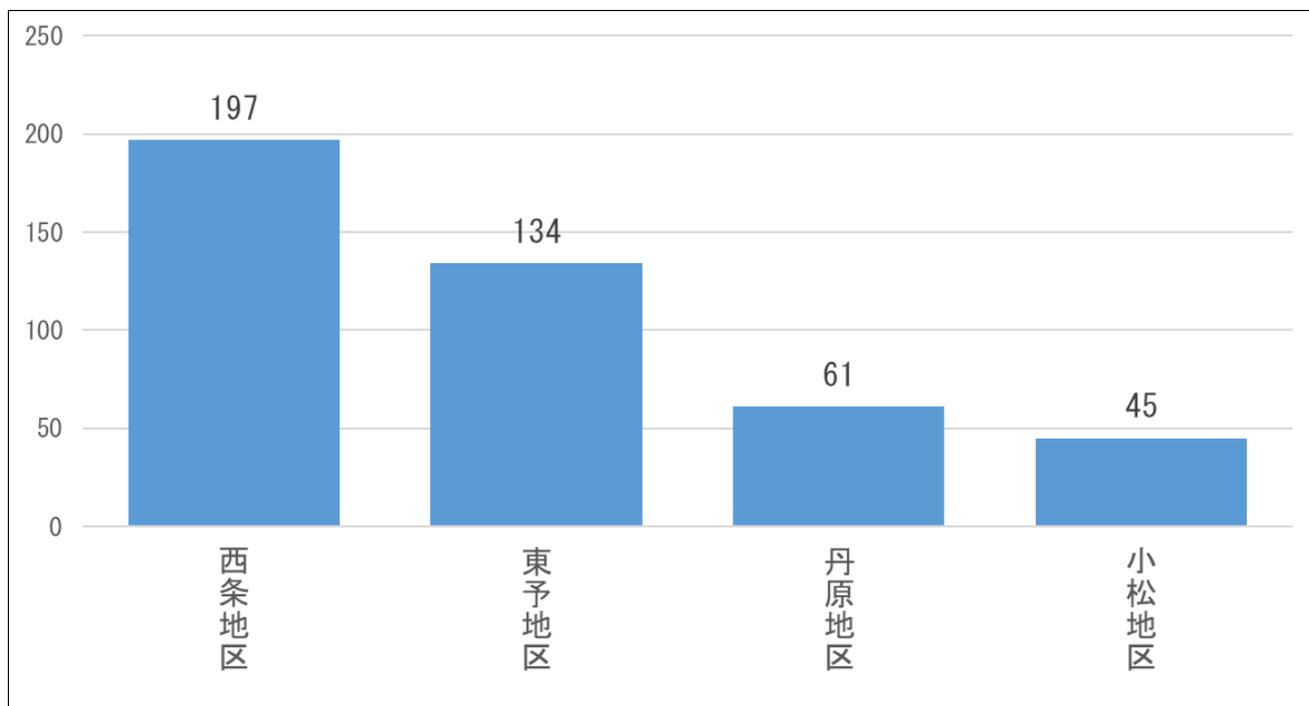
図表 2-2 によると、29 歳以下の教員からの回答が最も多くなりました。



図表 2 - 2 回答者の年齢 (N = 4 3 5)

(3) 所属する小学校の地区別

図表 2-3 によると、回答者は西条地区の小学校に勤務する教員が最も多く、次いで東予地区、丹原地区、小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 25 の市立小学校に勤務されている教員の意見がバランスよく反映されています。



図表 2 - 3 所属する小学校の地区別 (N = 4 3 7)

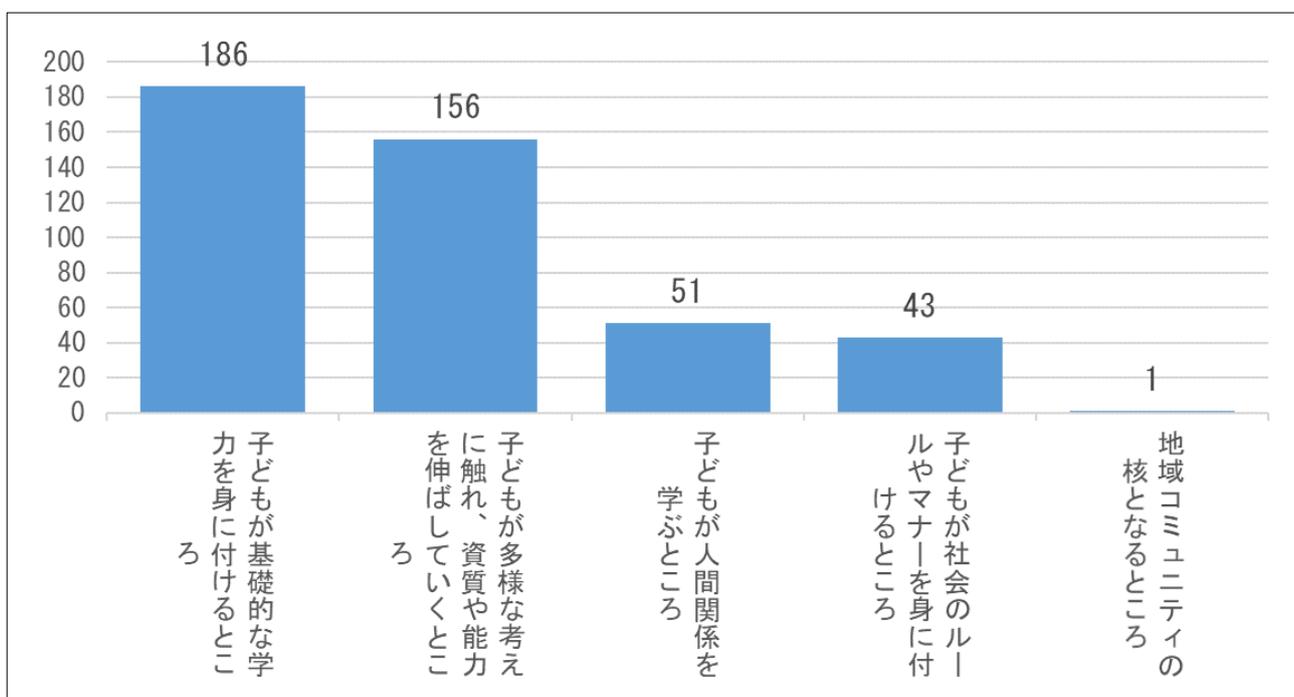
3 学校教育について

(1) 小学校がどのようなところであるべきか

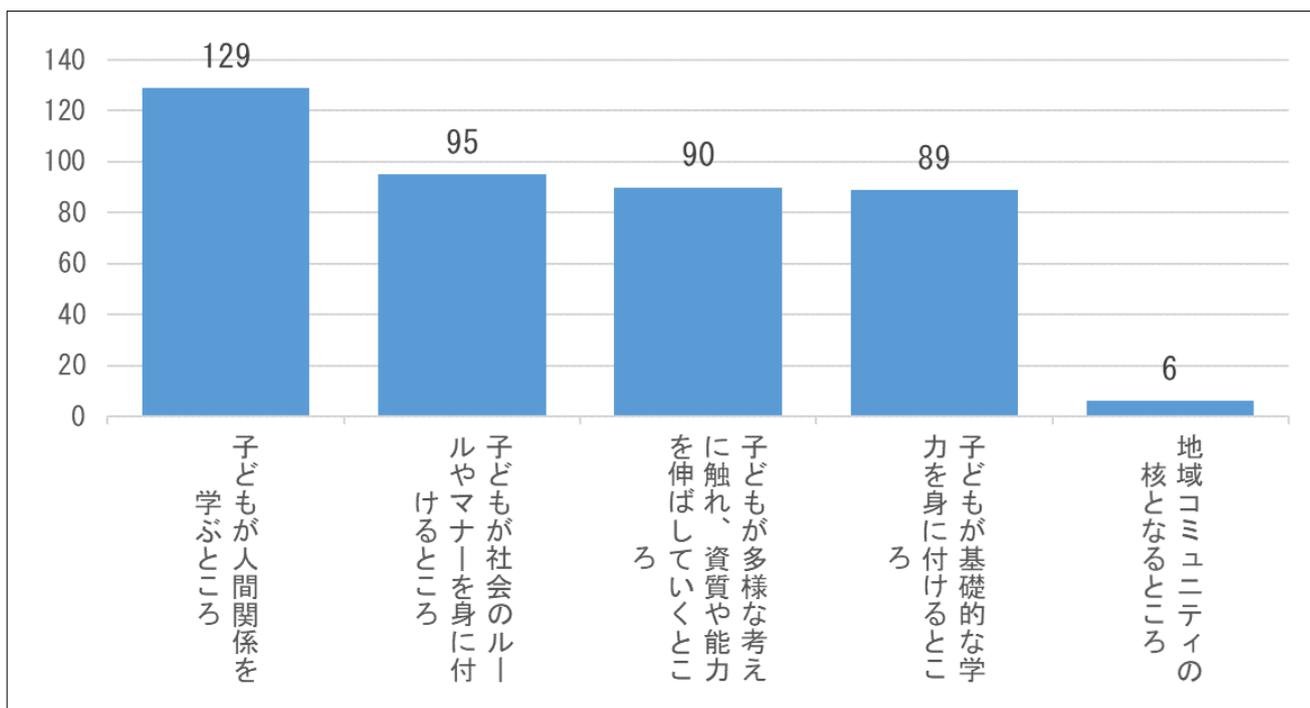
【結果概要】

- 小学校が子どもの基礎学力、人間関係形成能力、社会ルールなどを学ぶ場としてあるべきと感じている方が多い一方で、地域コミュニティや避難所など、小学校としての副次的機能を期待する方が少ない傾向がみられました。(図表 3-1、3-2 参照)
- 全年齢を通じて子どもの基礎学力の向上を重視する傾向がみられましたが、29 歳以下では、子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくことに重点を置く傾向がみられました。(図表 3-4)
- 比較的人口の集中している地区や大規模な小学校で、子どもの基礎学力の向上を重視する傾向がみられる一方で、人口規模が小さい地区や小規模な小学校では、子どもの資質向上を重視する傾向がみられました。(図表 3-5、3-6 参照)

図表 3-1 によると、第 1 選択では「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-2 によると、第 2 選択では「子どもが人間関係を学ぶところ」「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」と回答した方が多くなりました。なお、第 1 選択と第 2 選択の双方において、「避難所や体育施設としての機能のあるところ」と回答した方はいませんでした。

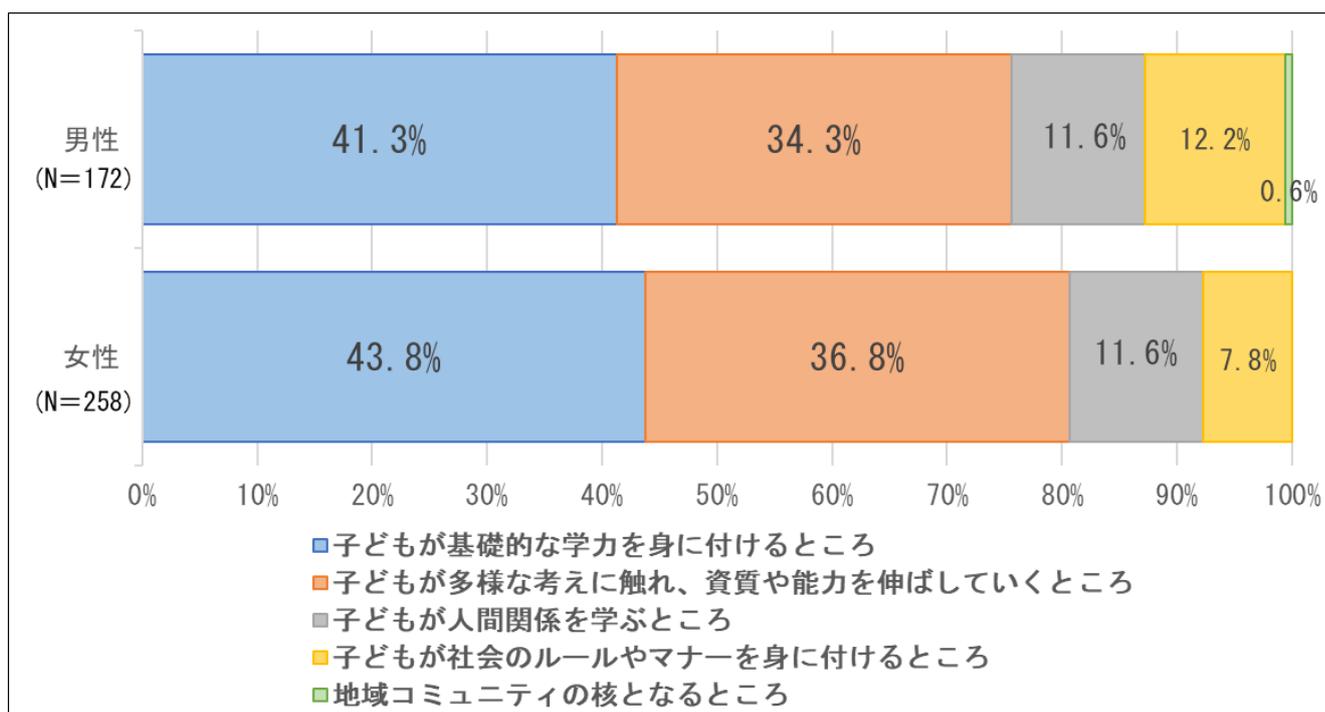


図表 3-1 小学校がどのようなところであるべきか (第 1 選択・単純集計) (N = 437)



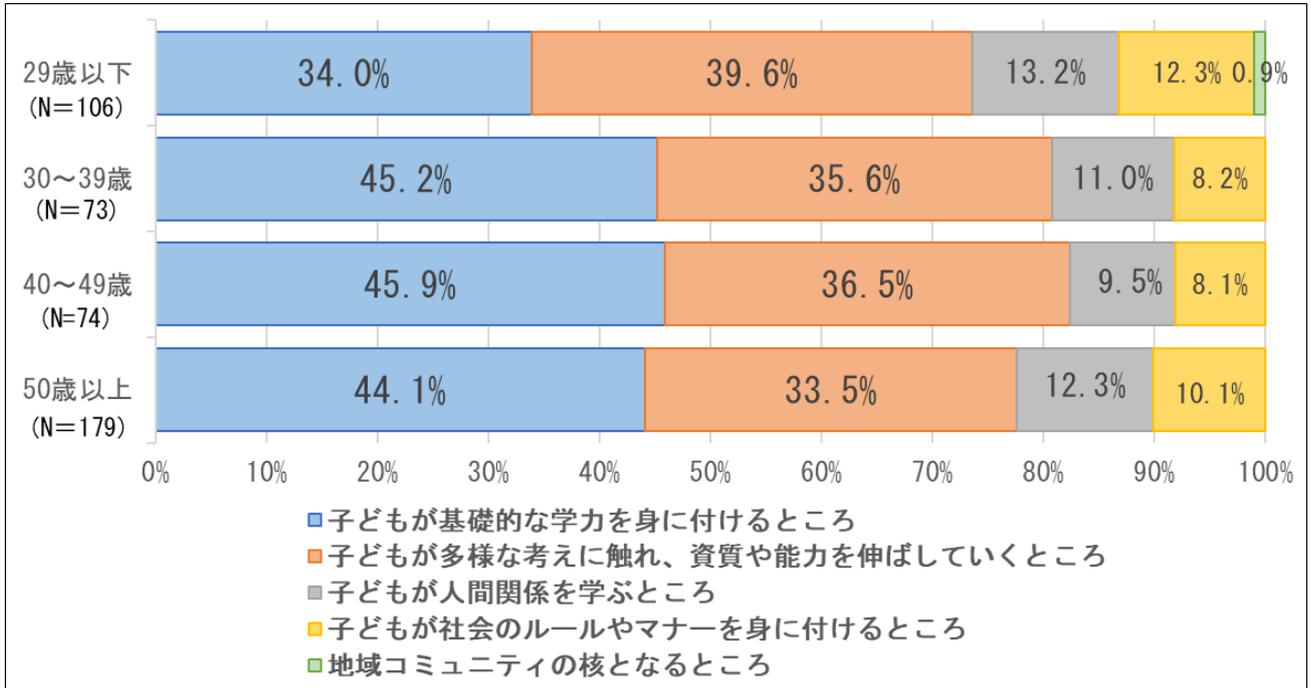
図表 3-2 小学校がどのようなところであるべきか（第2選択・単純集計）（N=409）

図表 3-3 によると、男女ともに「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が高くなりました。また、男性は女性と比較して「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」と回答した比率が高くなり、女性は男性と比較して「子どもが多様な考え方に触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



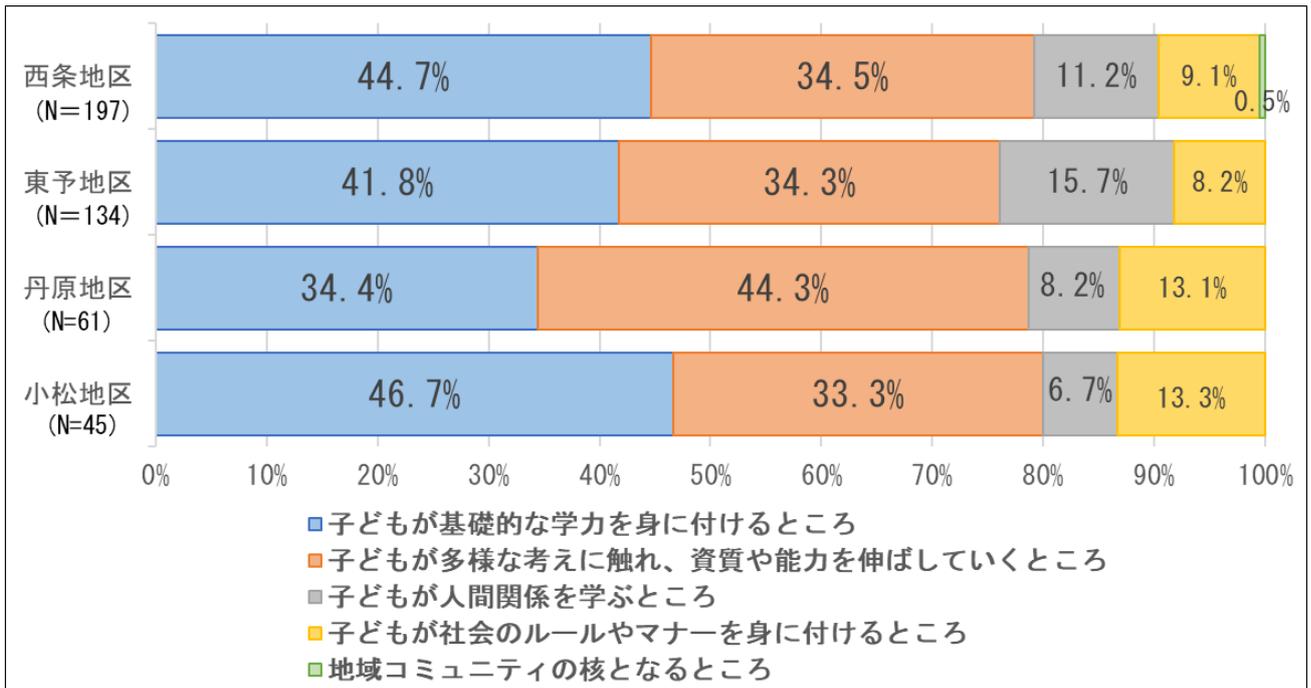
図表 3-3 小学校がどのようなところであるべきか（男女別）

図表 3-4 によると、29 歳以下で「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が最も高くなりましたが、その他の年齢においては「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなりました。



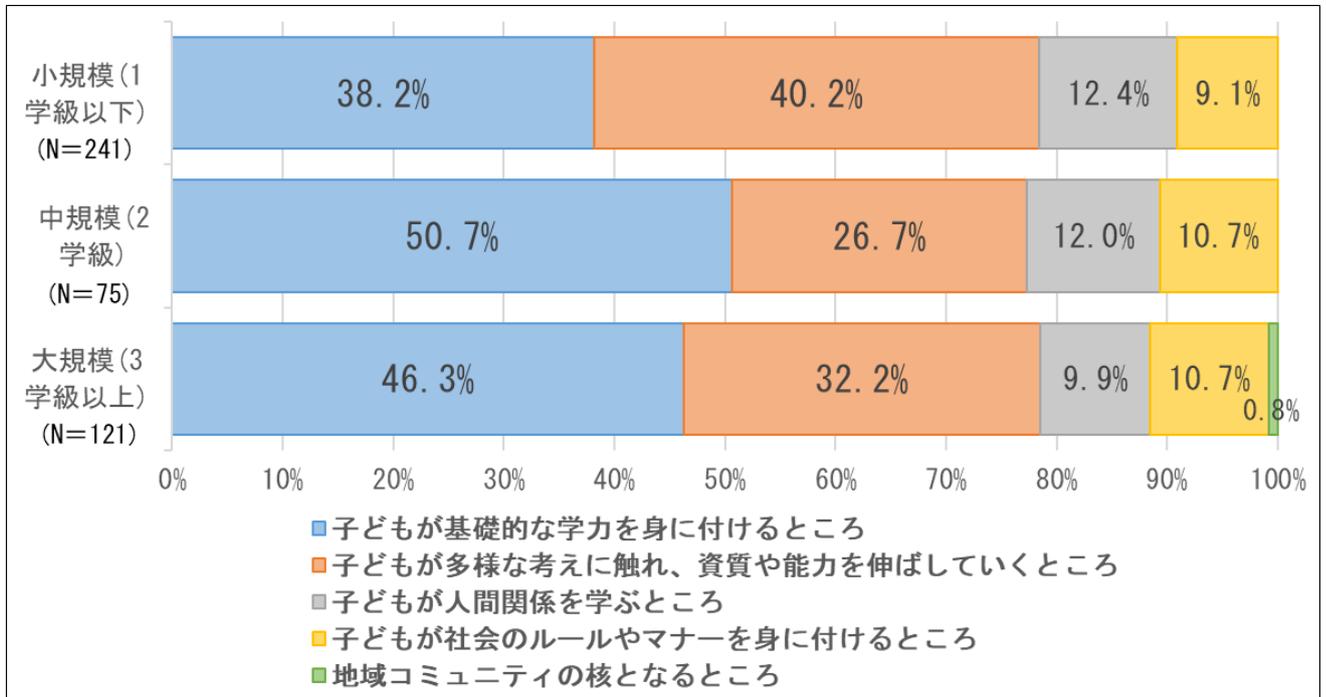
図表 3-4 小学校がどのようなところであるべきか（年齢別）

図表 3-5 によると、西条地区、東予地区、小松地区で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなる一方で、丹原地区では「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-5 小学校がどのようなところであるべきか（所属する小学校の地区別）

図表 3-6 によると、大規模（6年生が3学級以上）と中規模（6年生が2学級）で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなりました。また、小規模（6年生が1学級以下）では「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が最も高くなりました。



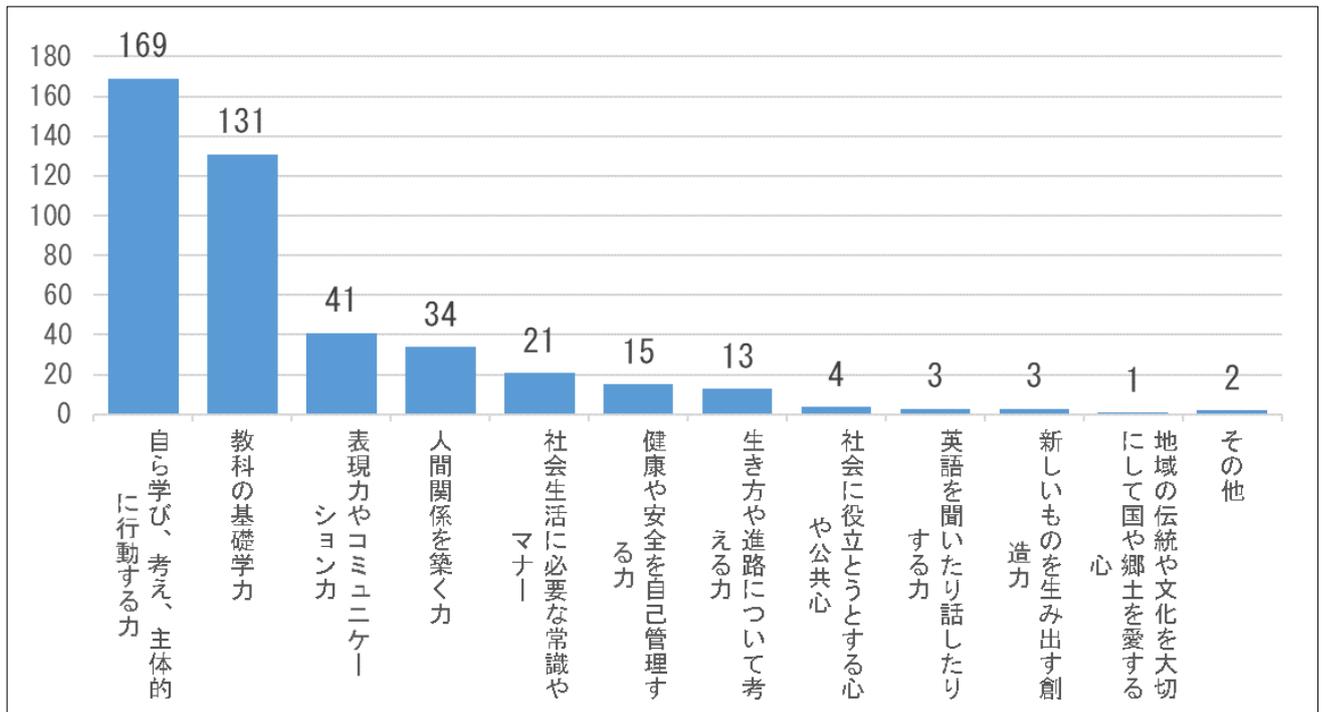
図表 3-6 小学校がどのようなところであるべきか（所属する小学校の6年生規模別）

（2）小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度

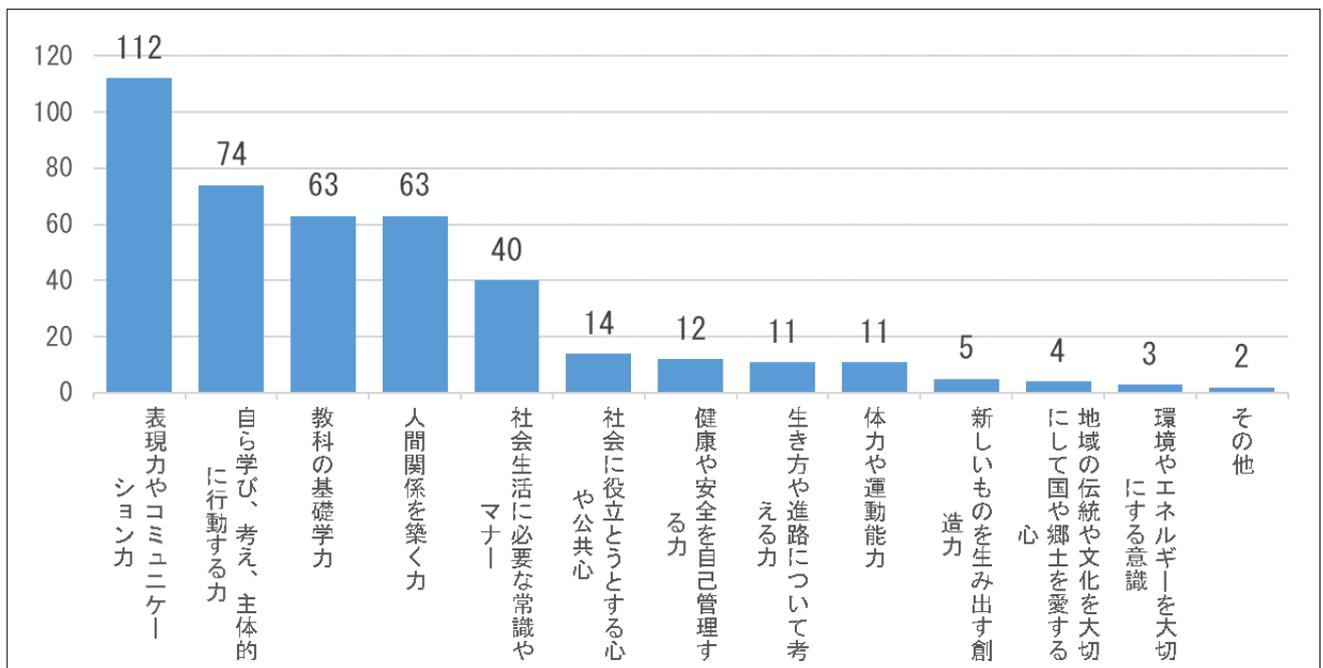
【結果概要】

- 子どもが自ら考え、主体的に行動する力を身に付けることを最も大切にしつつ、子どもの基礎学力を身に付けることも大切だとする傾向がみられました。（図表 3-7、3-8 参照）
- 男女別、年齢別、所属する小学校の地区別に緩やかな傾向の違いがみられるものの、全体的に大きな差異はみられませんでした。（図表 3-9、3-10、3-11 参照）
- 所属する小学校の規模が大きくなるほど教科の基礎学力を身に付けることを大切にする一方で、規模が小さくなるほど、子どもが自ら考え、主体的に行動する力を身に付けることを大切にする傾向がみられました。（図表 3-12）

図表 3-7 によると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「教科の基礎学力」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-8 によると、第2選択では「表現力やコミュニケーション力」「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した方が多くなりました。

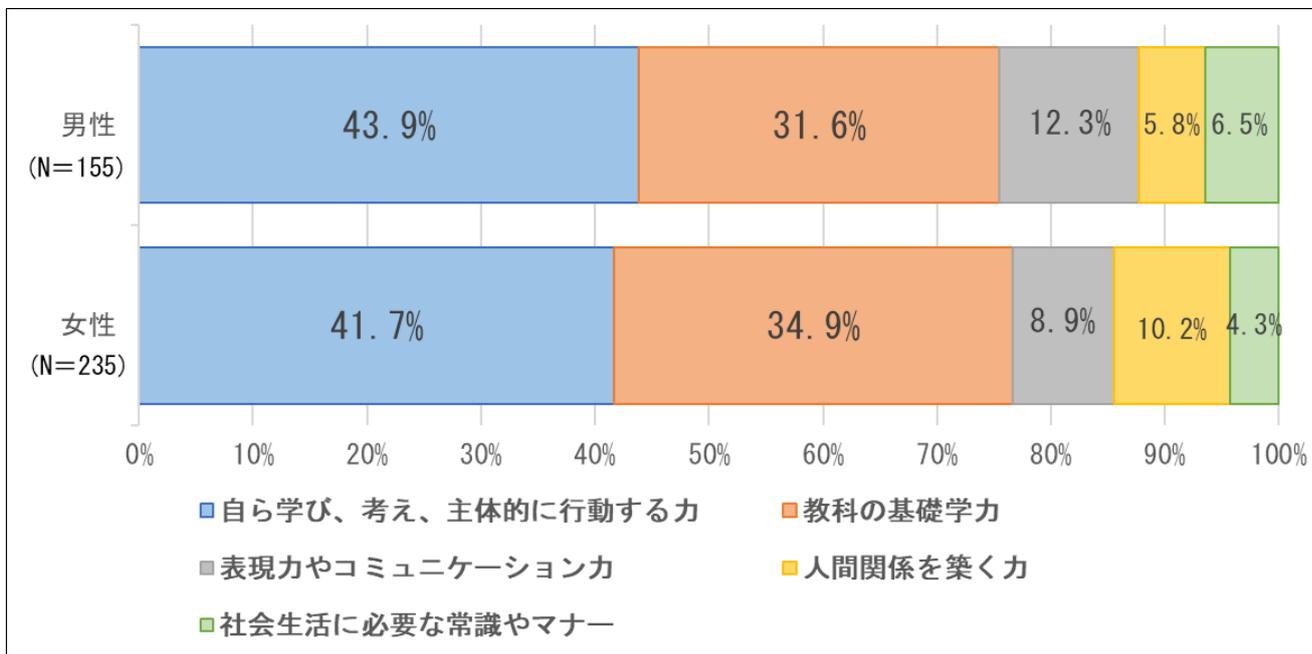


図表 3-7 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択・単純集計）
(N=437)



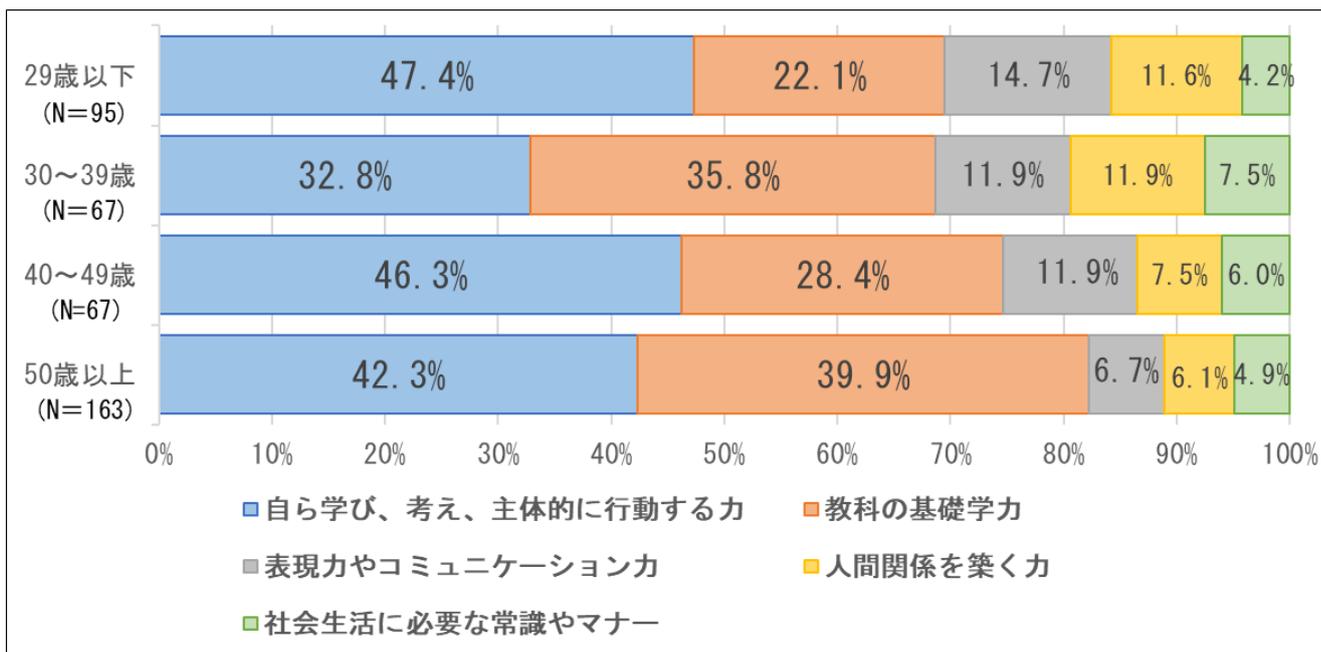
図表 3-8 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第2選択・単純集計）
(N=414)

図表 3-9 によると、男女ともに「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。また、女性と比較して男性で「表現力やコミュニケーション力」と回答した比率がやや高くなり、女性は男性と比較して「人間関係を築く力」と回答した比率がやや高くなりました。



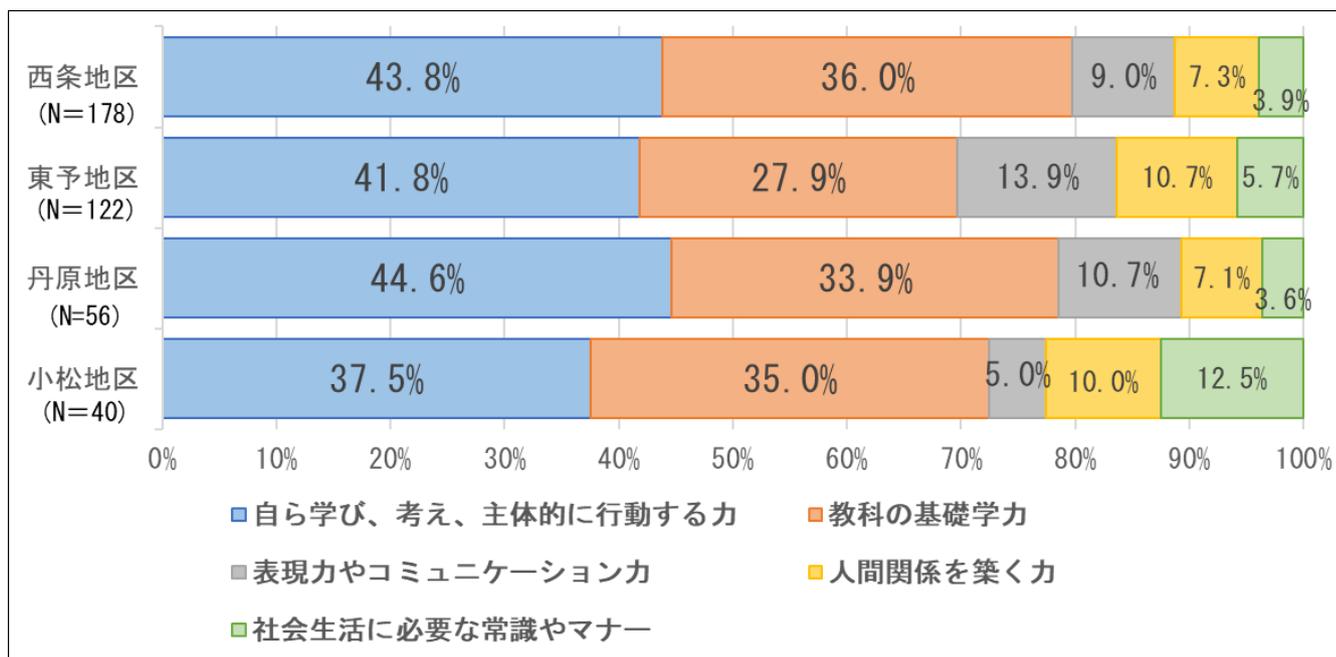
図表 3-9 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択上位5項目・男女別）

図表 3-10 によると、30～39 歳では「教科の基礎学力」と回答した比率が最も高くなりましたが、それ以外の年齢では「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなりました。また、年齢が低くなるにつれて「表現力やコミュニケーション力」「人間関係を築く力」と回答した比率が高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。



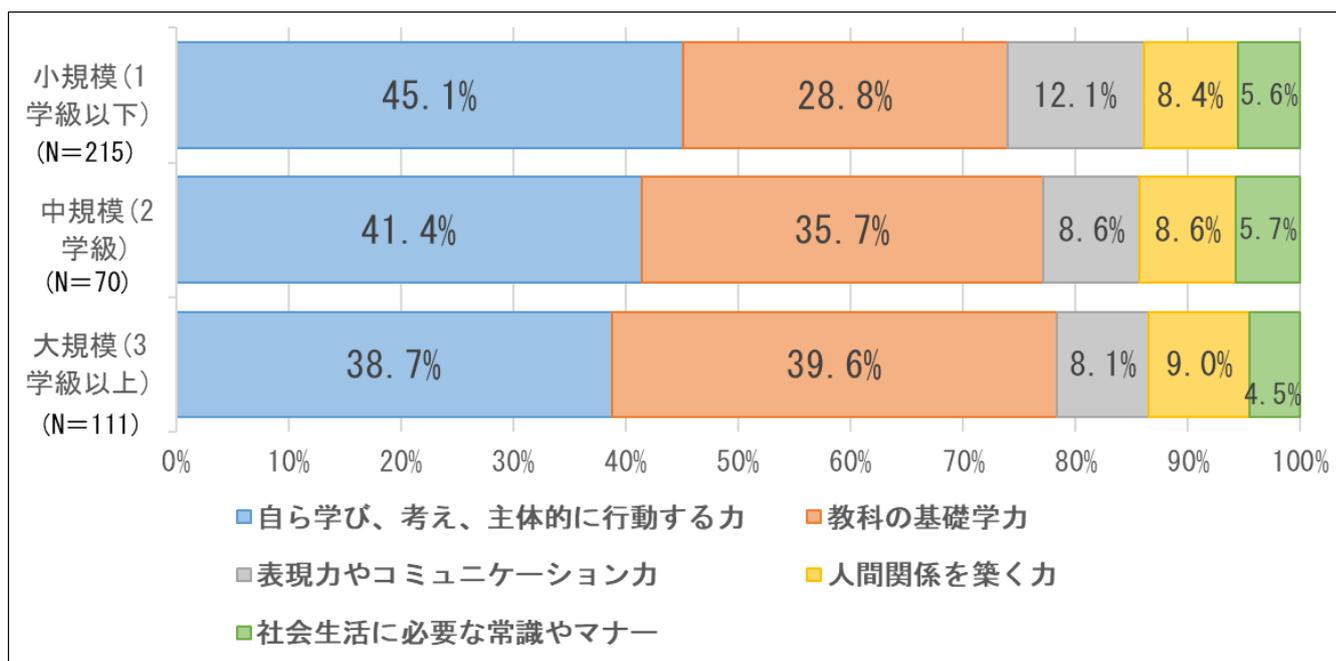
図表 3-10 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 3-11 によると、すべての地域で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-11 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・所属する小学校の地区別)

図表 3-12 によると、小規模 (6年生が1学級) と中規模 (6年生が2学級) で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなる一方で、大規模 (6年生が3学級以上) では「教科の基礎学力」と回答した比率が最も高くなりました。



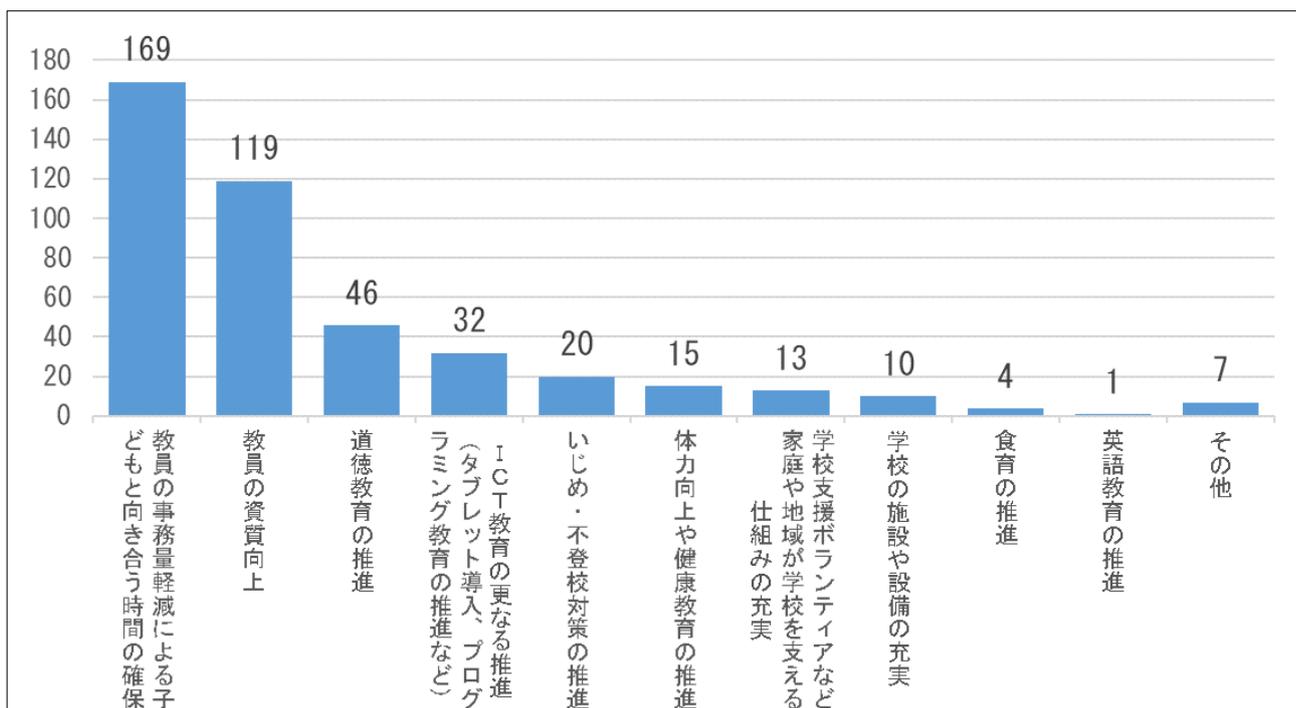
図表 3-12 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・所属する小学校の規模別)

(3)(2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策

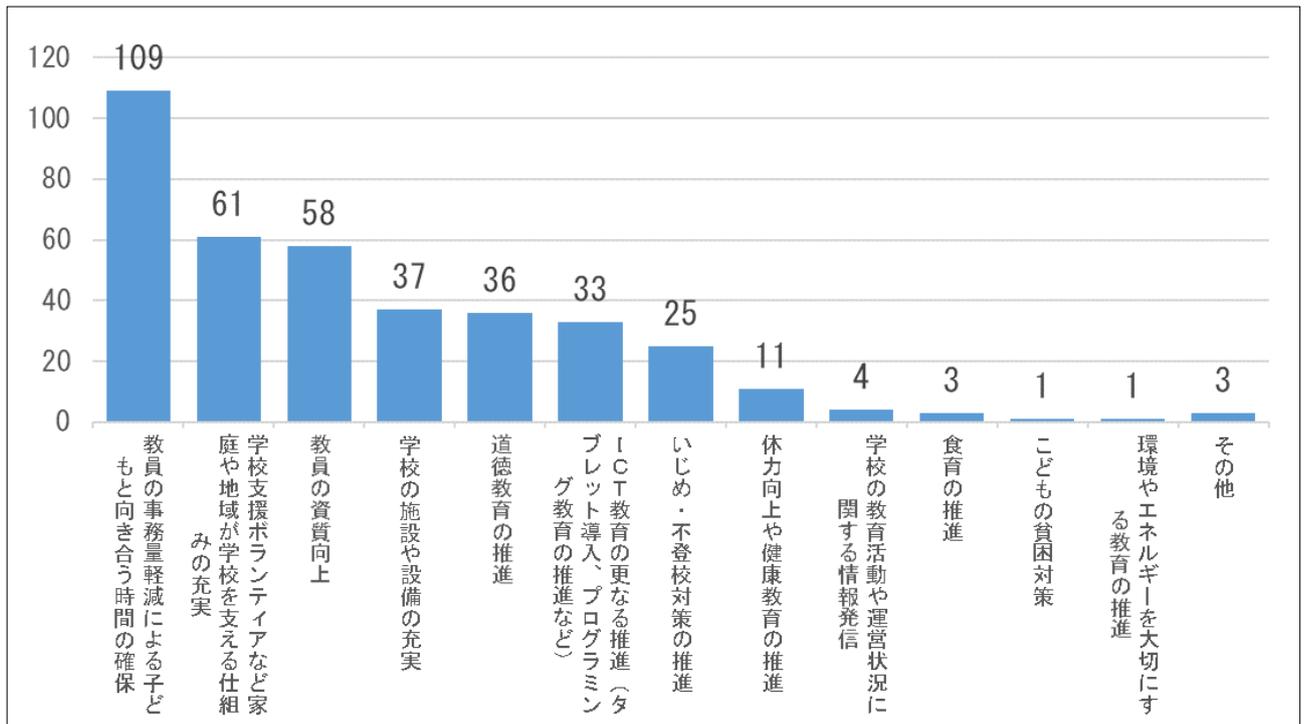
【結果概要】

- 全体を通じて教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保を求める声が多くみられました。(図表 3-13、3-14 参照)
- 男女別、年齢別、所属する小学校の地区別、所属する小学校の規模別に大きな差異はみられませんが、比較的大規模な小学校で教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保を求める声が多くなるなどの緩やかな傾向の違いがみられました。(図表 3-15、3-16、3-17、3-18 参照)

図表 3-13 によると、「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-14 によると、第2選択においても「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「学校支援ボランティアなど家庭や地域が学校を支える仕組みの充実」「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。

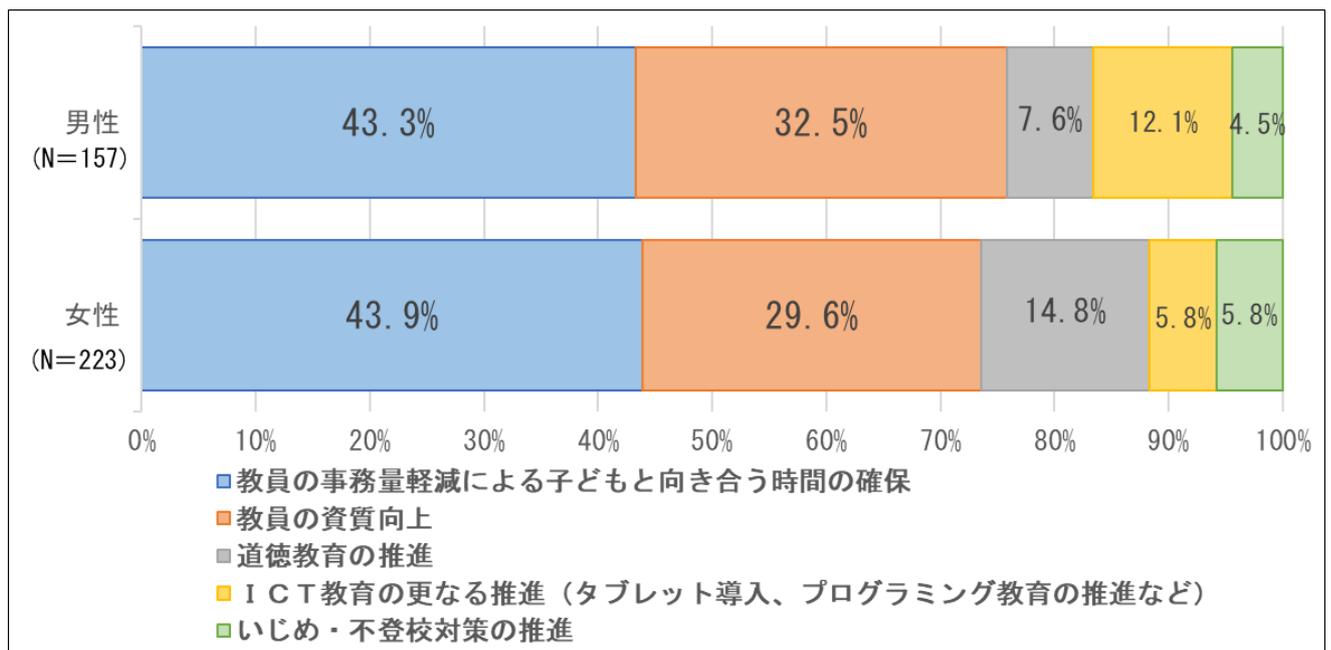


図表 3-13 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択・単純集計) (N = 436)



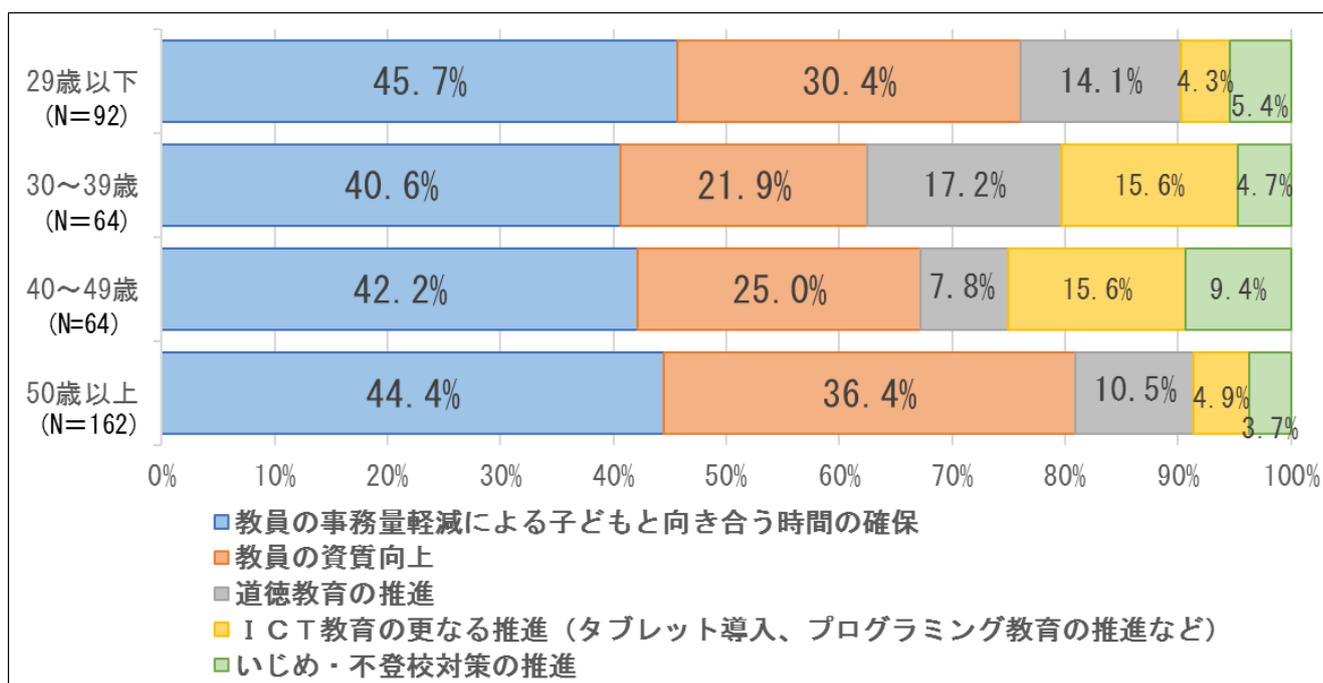
図表 3-14 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第2選択・単純集計) (N=382)

図表 3-15 によると、男女ともに「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」「教員の資質向上」と回答した比率が高くなりました。また、男性では「ICT教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進）」、女性は「道徳教育の推進」と回答した比率が高くなりました。



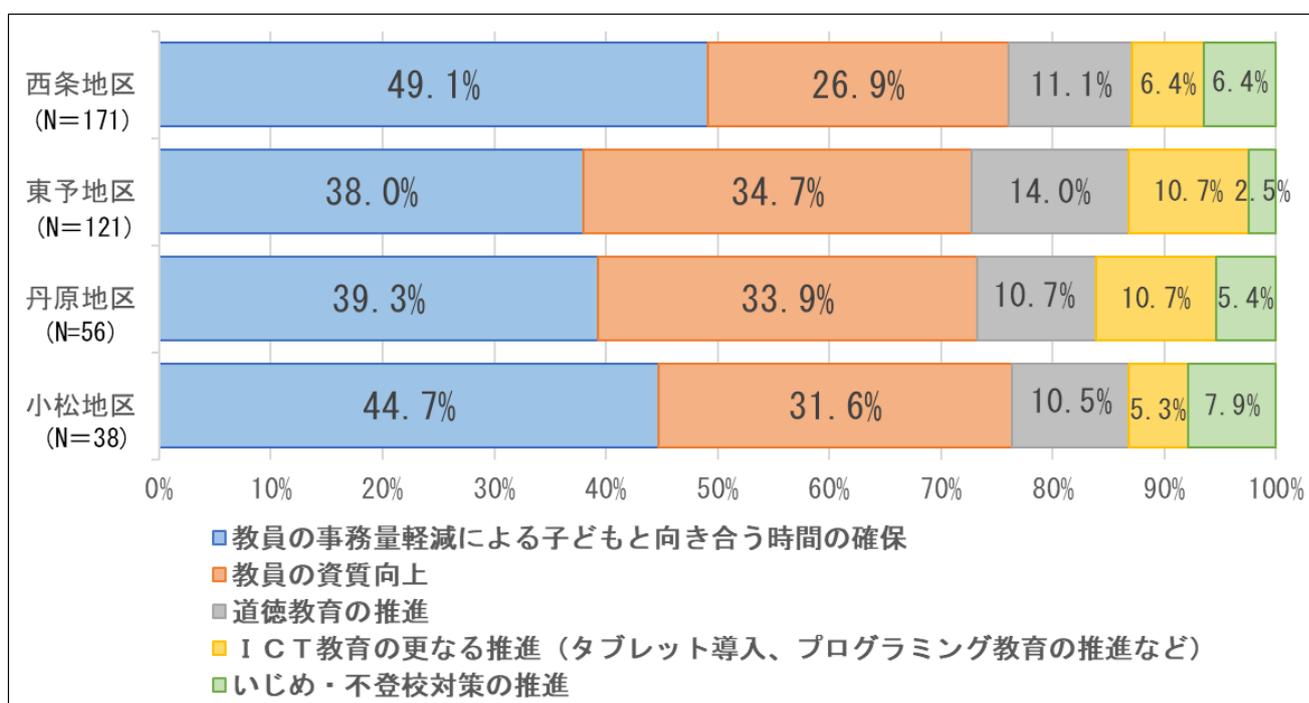
図表 3-15 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・男女別)

図表 3-16 によると、すべての年齢において「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで「教員の資質向上」と回答した比率が高くなりました。



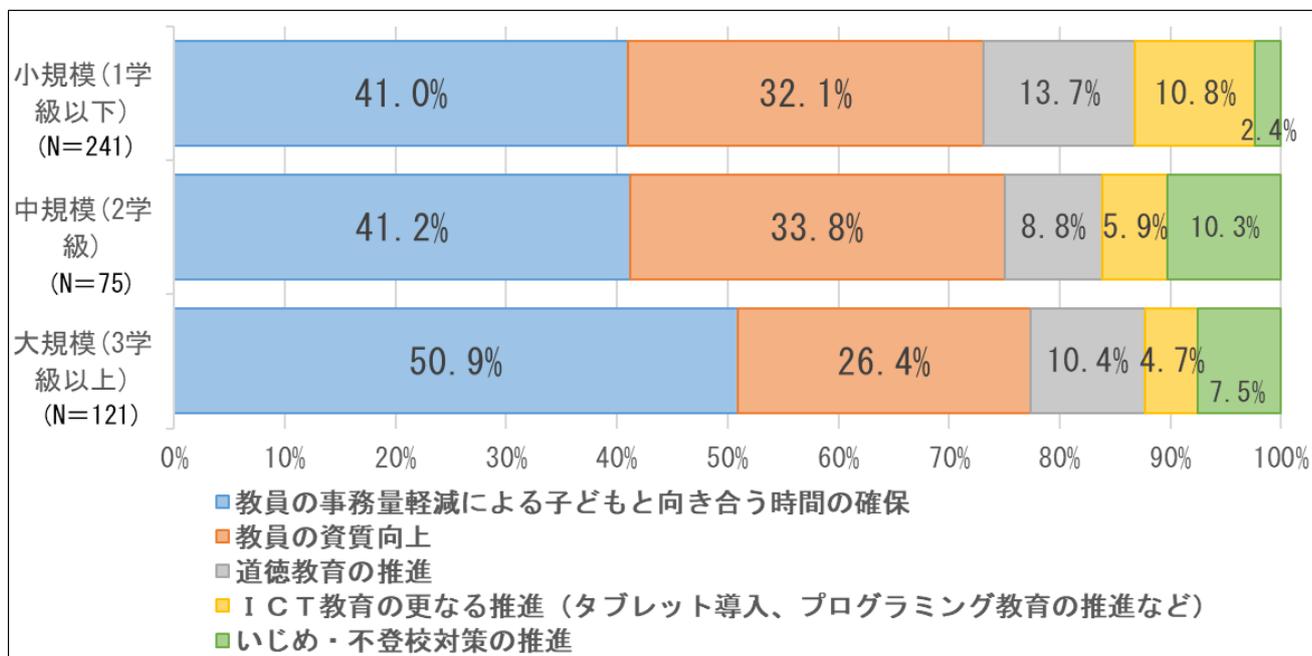
図表 3-16 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・年齢別)

図表 3-17 によると、すべての地区で「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなりました。その他の施策については、地区によって緩やかに傾向が異なりました。



図表 3-17 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・所属する小学校の地区別)

図表 3-18 によると、小規模（6年生が1クラス）と中規模（6年生が2クラス）と比較し、大規模（6年生が3クラス以上）で「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が高くなりました。また、大規模（6年生が3クラス以上）と比較し、小規模（6年生が1クラス）で「道德教育の推進」「ICT教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進）」と回答した比率が高くなりました。



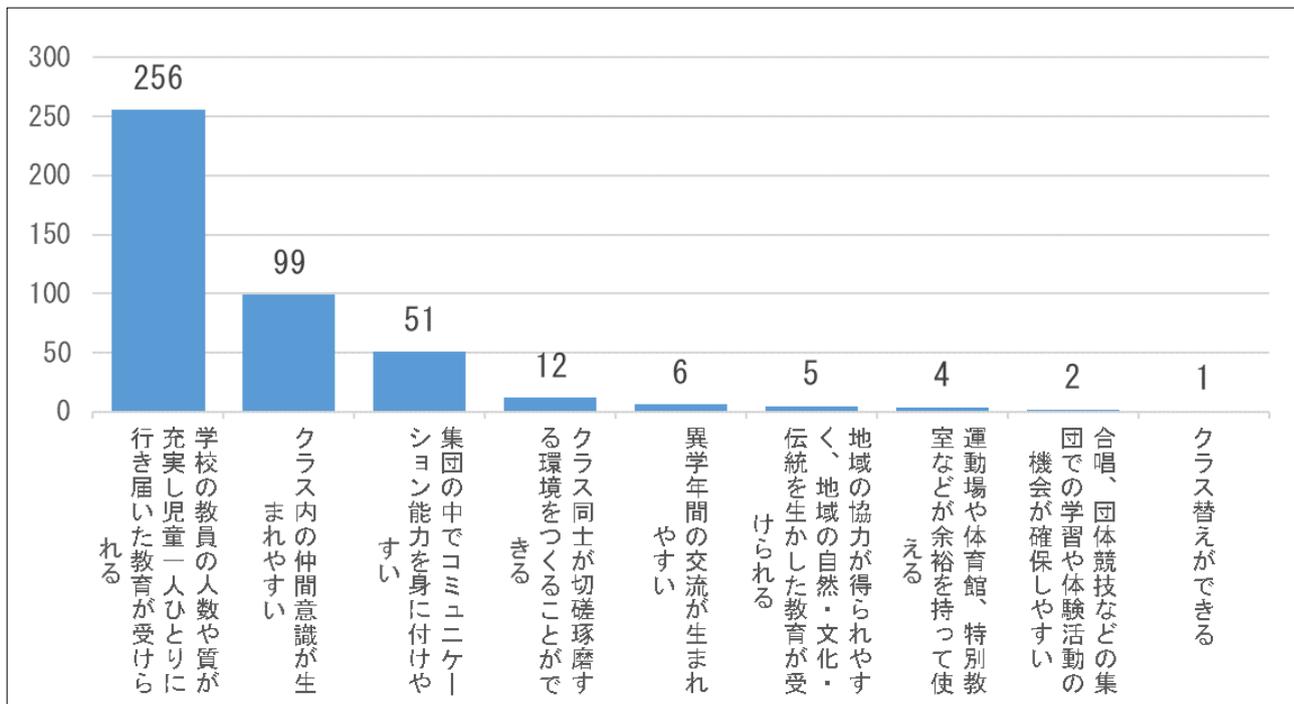
図表 3-18 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・所属する小学校の規模別)

(4) 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

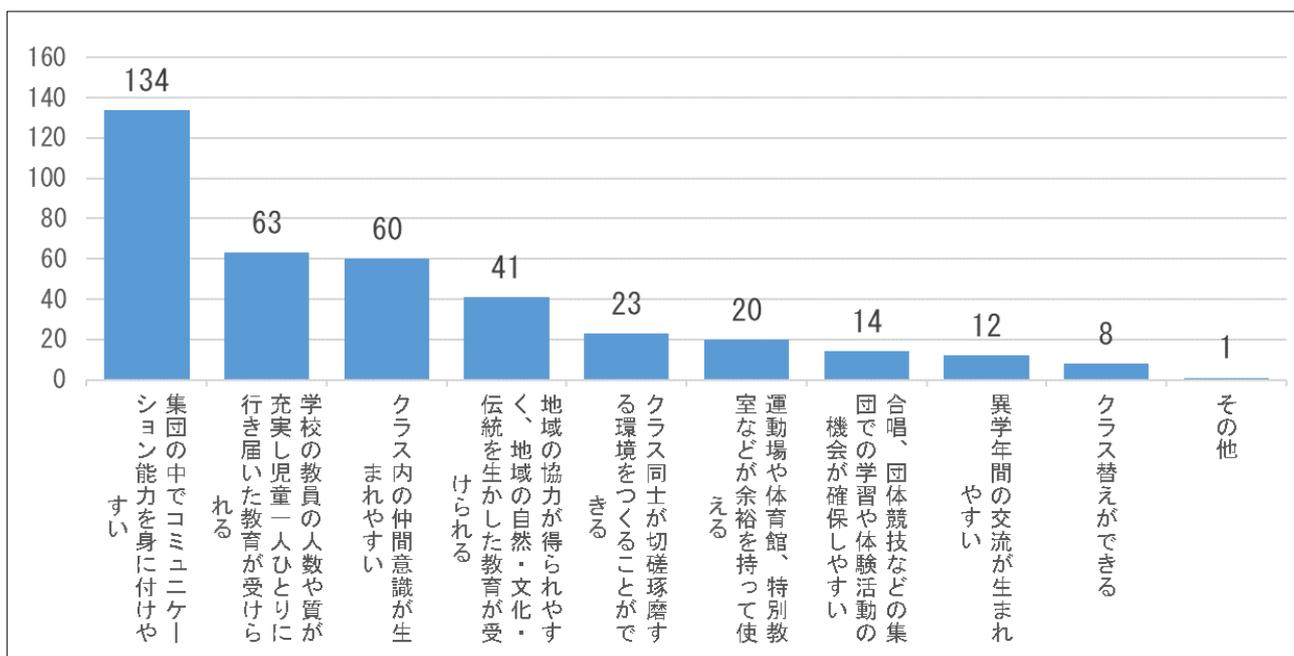
【結果概要】

- 教員の人数や質が充実することに伴う児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる環境を望む声が多くなる一方で、クラス内の仲間意識が生まれやすい環境や集団の中のコミュニケーション能力を身に付ける環境など、集団の中で学び合うことの重要性を意識した回答も多くなりました。(図表 3-19、3-20 参照)
- 男女別、年齢別、所属する小学校の地区別、所属する小学校の規模別に大きな差異はみられませんが、若い年齢の方や、中規模（6年生が2クラス）および小規模（6年生が1クラス以下）の小学校において「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」が高くなるなど、集団の中で学び合うことの重要性を意識した回答が多くなる傾向がみられました。(図表 3-21、3-22、3-23、3-24 参照)

図表 3-19 によると、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した方が最も多くなり、次いで「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-20 によると、第2選択では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した方が多くなりました。

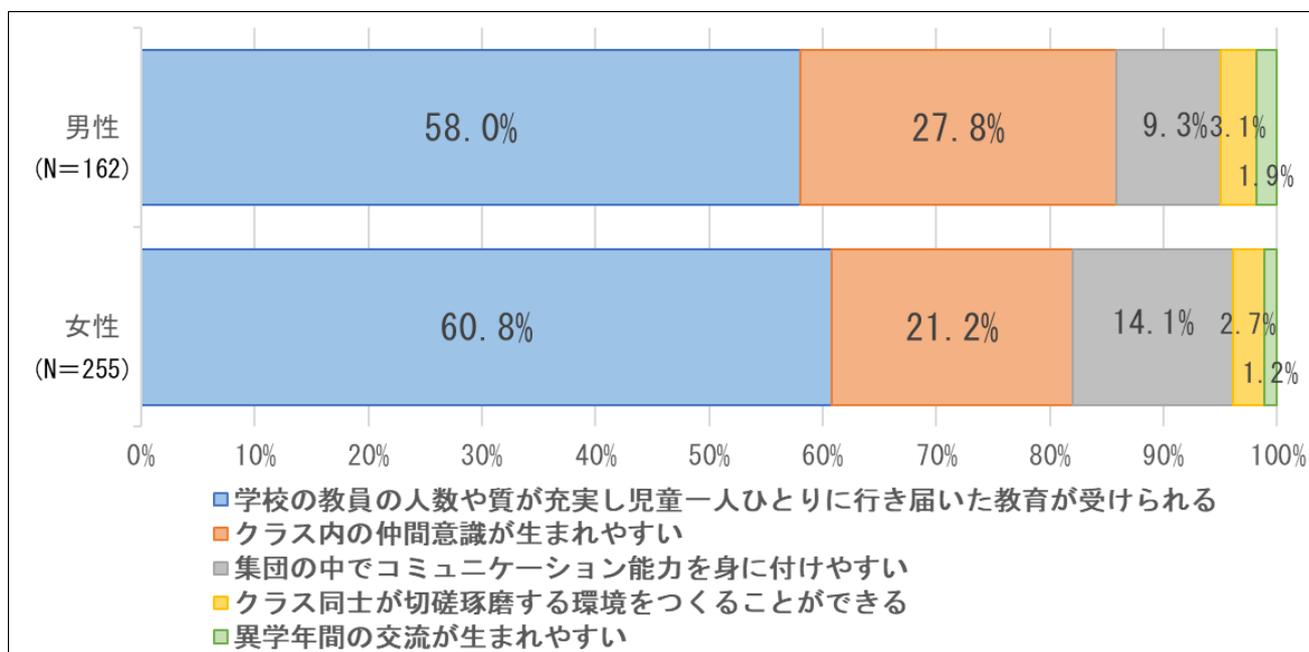


図表 3-19 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択・単純集計）
(N=436)



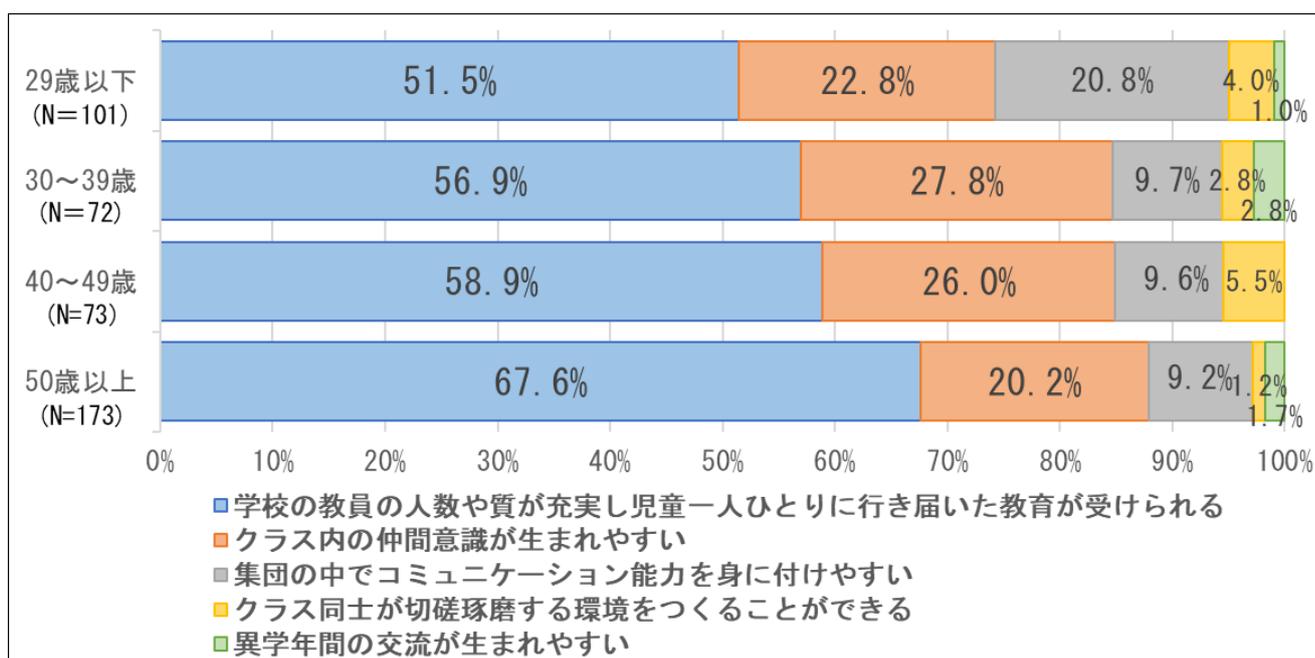
図表 3-20 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第2選択・単純集計）
(N=376)

図表 3-21 によると、男女ともに「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなりました。また、女性と比較して男性では「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した比率が高くなり、男性と比較し女性では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



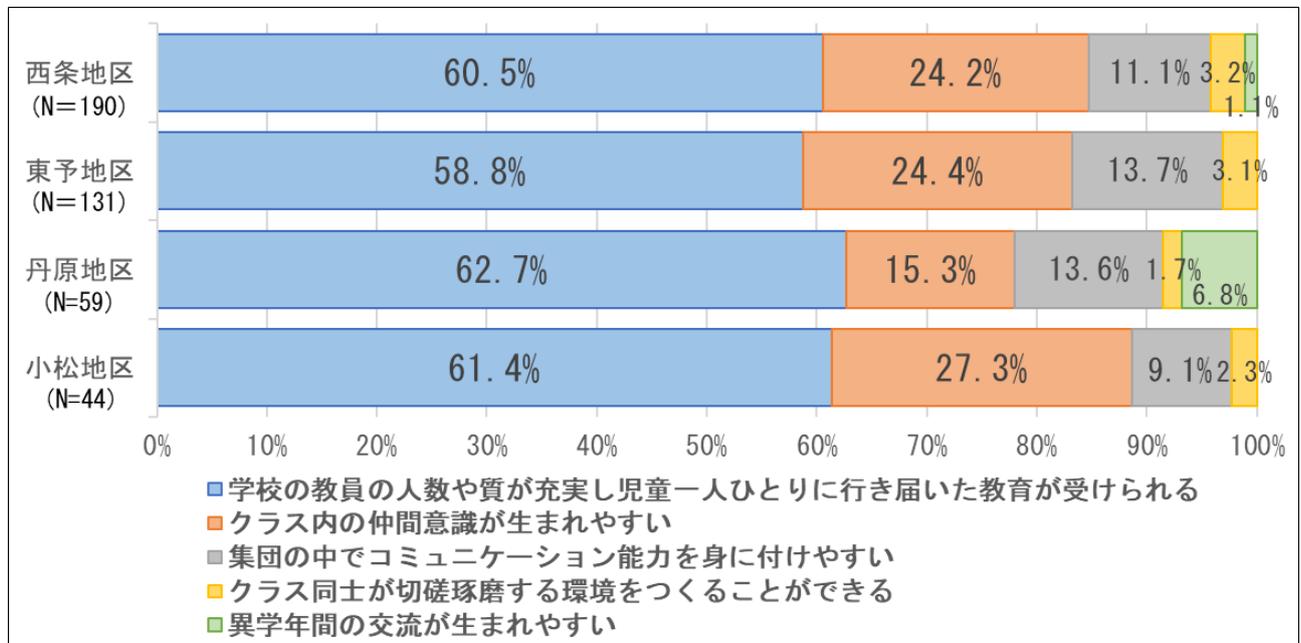
図表 3-21 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択上位5項目・男女別）

図表 3-22 によると、すべての年齢で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、年齢が高くなるにつれて回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、年齢が低くなるにつれて「クラス内の仲間意識が生まれやすい」「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



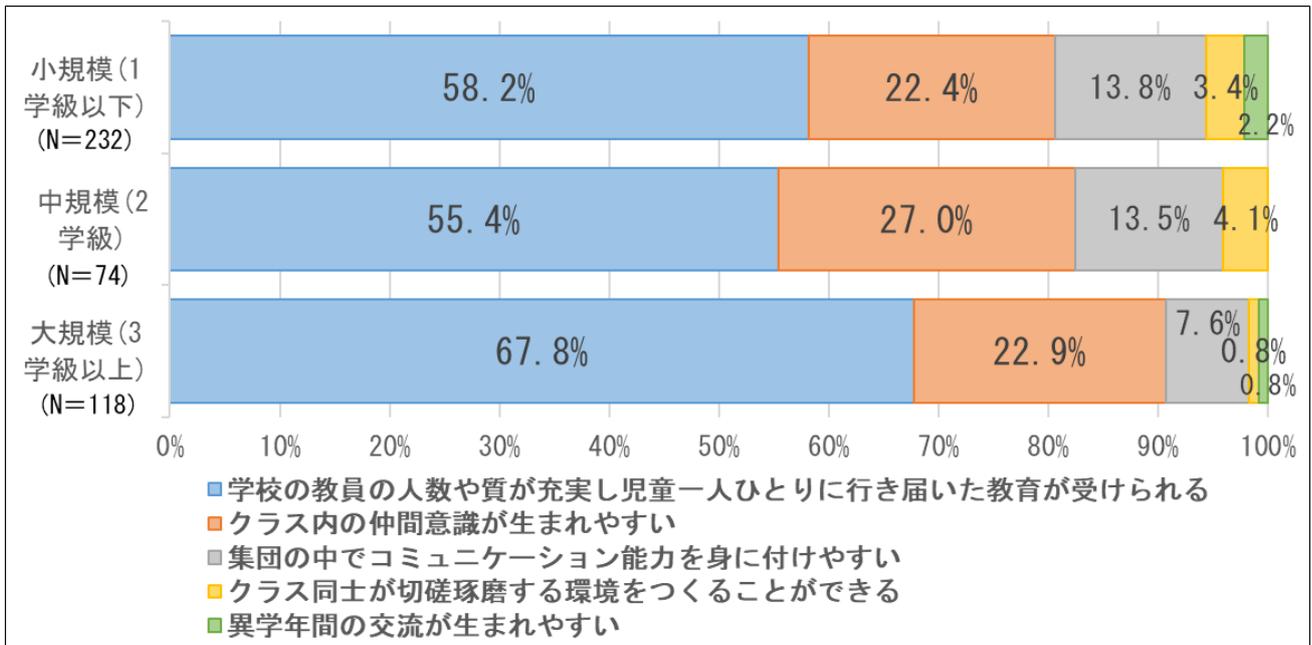
図表 3-22 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 3-23 によると、すべての地区で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなりました。また、他地区と比較して丹原地区では「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した比率が低くなる一方で、「異学年間の交流が生まれやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 3-23 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・所属する小学校の地区別)

図表 3-24 によると、すべての小学校規模で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなりました。また、大規模（6年生が3クラス以上）で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が高くなる一方で、小規模（6年生が1クラス）と中規模（6年生が2クラス）では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



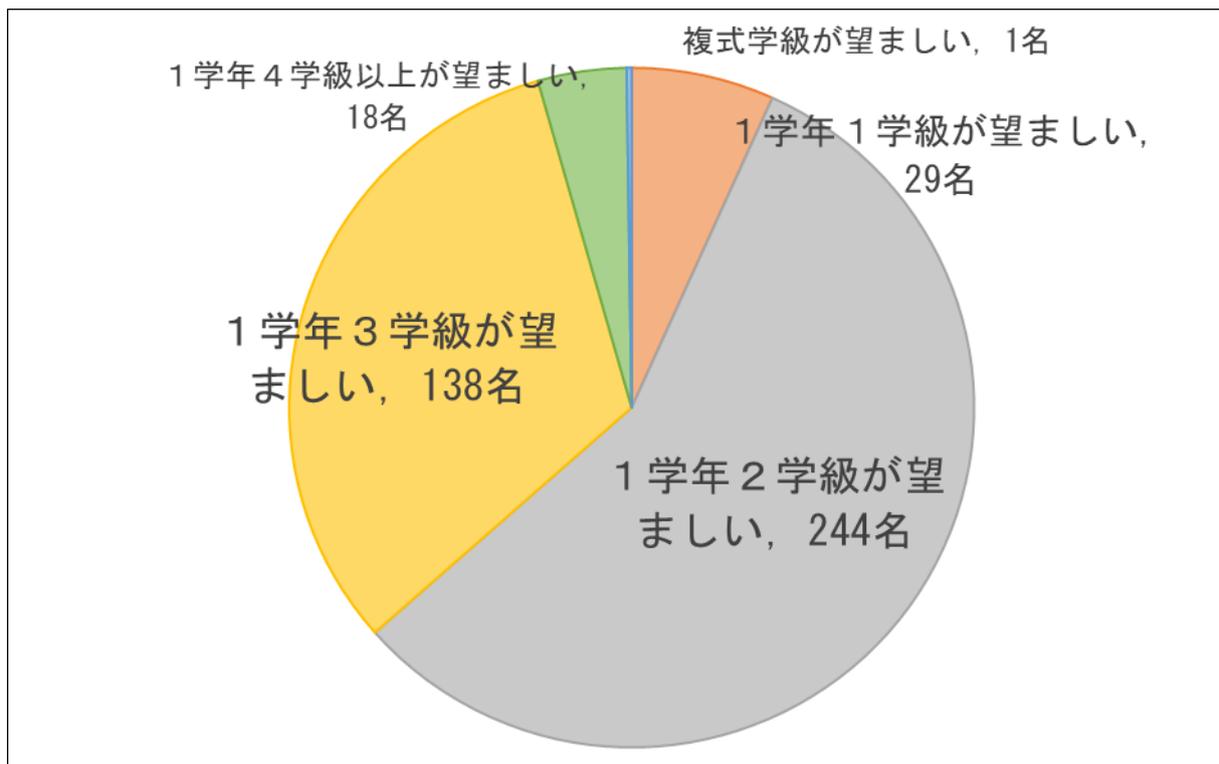
図表 3-24 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・所属する小学校の規模別)

(5) 教育環境として望ましいと思う小学校の規模

【結果概要】

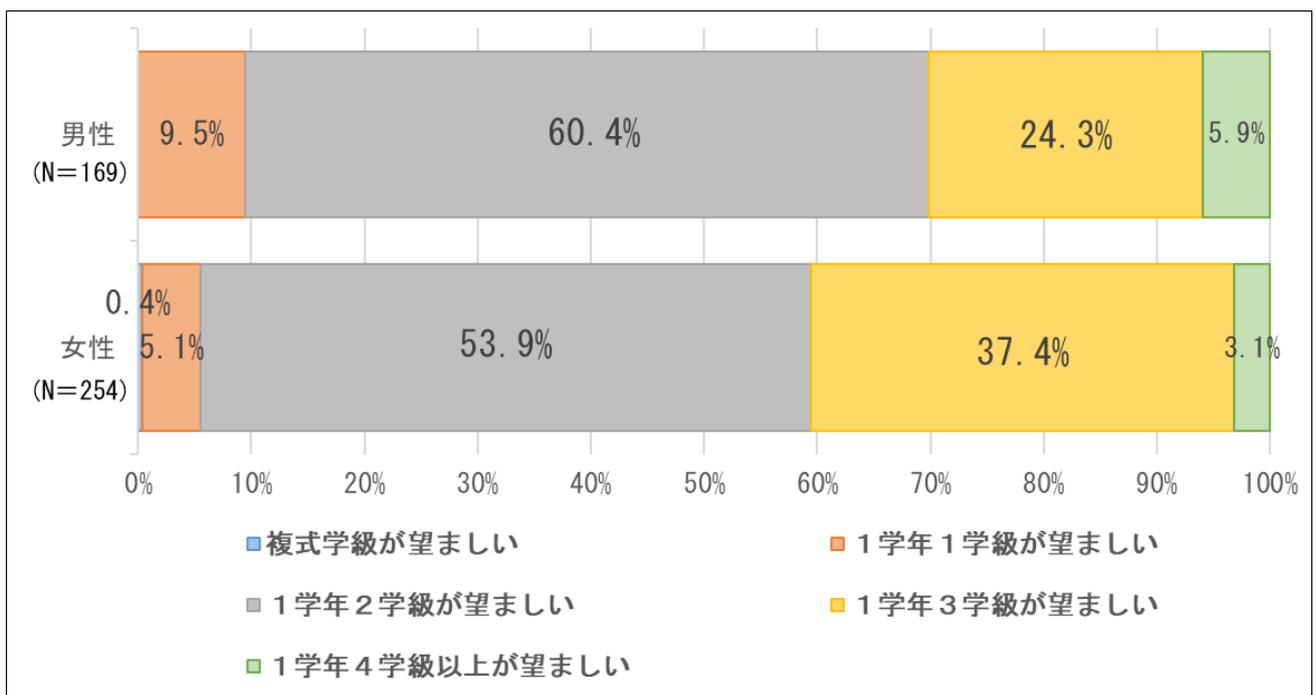
- 1学年2学級以上が教育環境として望ましいとする回答が全体の5割を超えており、文部科学省が望ましい小学校の規模として示す1学年2学級という基準と、市立小学校に勤務される教員の考え方が概ね一致する結果となりました。(図表 3-25 参照)
- 男女別および年齢別に緩やかな傾向の違いがみられるものの、概ね差異が生じていない結果となりました。(図表 3-26、3-27 参照)
- 小規模や中規模な小学校に所属されている教員においても、「1学年2学級が望ましい」「1学年3学級が望ましい」と回答した比率が高くなっており、すでに児童数の減少から理想とする教育環境との間にギャップが生じていることが推察されます。(図表 3-28、3-29 参照)

図表 3-25 によると、「1学年2学級が望ましい」と回答した方が最も多くなり、次いで「1学年3学級が望ましい」と回答した方が多くなりました。1学年1学級よりも小さい規模が望ましいと回答した方は、全体の1割以下となりました。



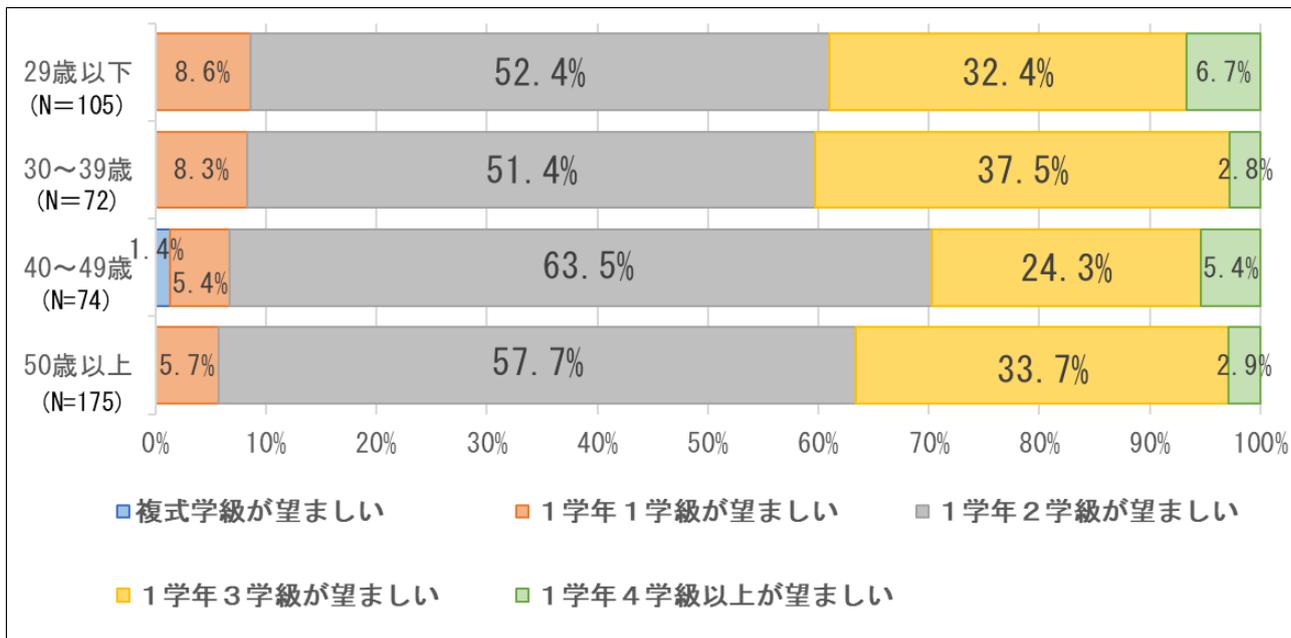
図表 3-25 教育環境として望ましいと思う小学校の規模（単純集計）（N=430）

図表 3-26 によると、男女別を問わず「1学年2学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりましたが、特徴として、男性と比較して女性において、規模の大きい小学校が教育環境として望ましいと回答する結果となりました。



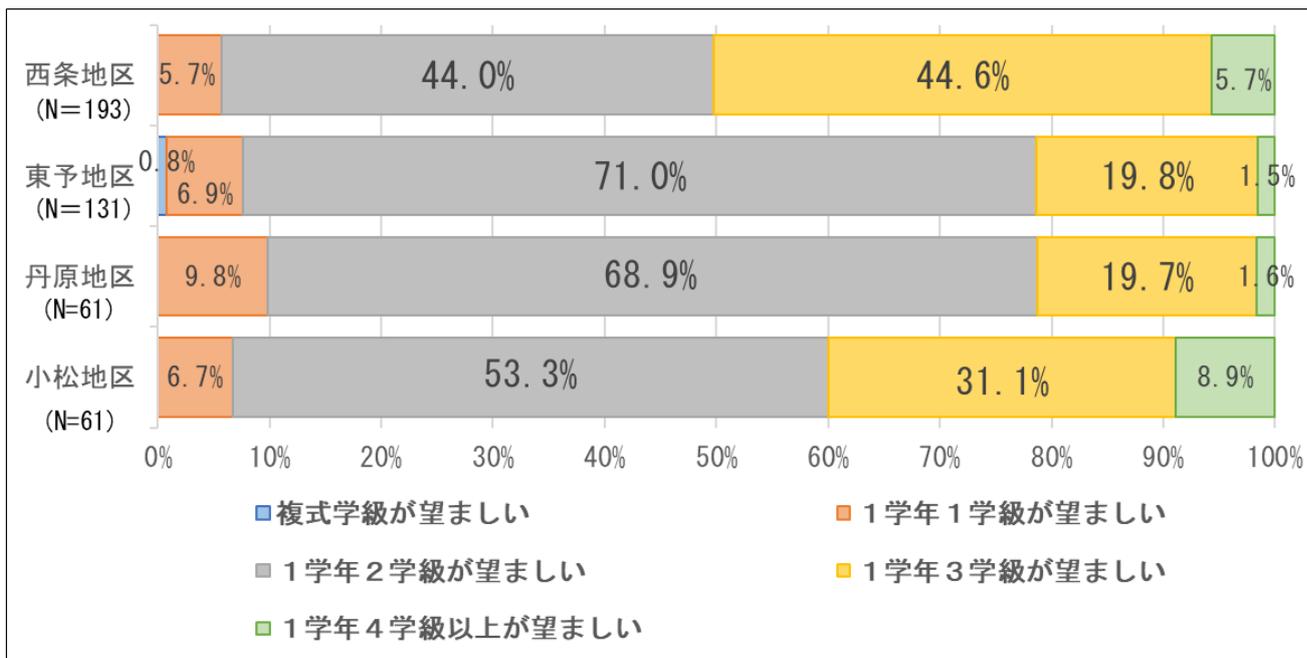
図表 3-26 教育環境として望ましいと思う小学校の規模（男女別）

図表 3-27 によると、すべての年齢を通じて大きな差異はみられず、「1 学年 2 学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりました。



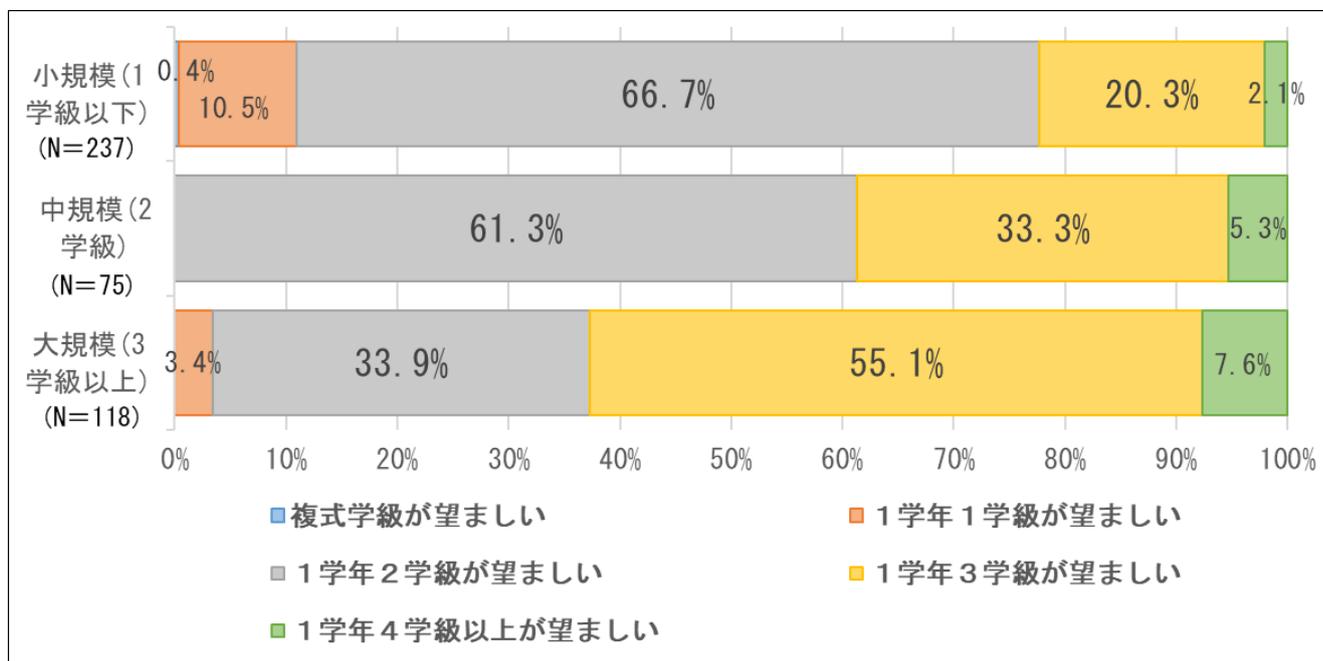
図表 3-27 教育環境として望ましいと思う小学校の規模（年齢別）

図表 3-28 によると、西条地区と小松地区で比較的大きい規模の小学校が教育環境として望ましいと回答した比率が高くなる一方で、東予地区および丹原地区では、比較的小さい規模の小学校が教育環境として望ましいと回答した比率が高くなりました。



図表 3-28 教育環境として望ましいと思う小学校の規模（所属する小学校の地区別）

図表 3-29 によると、規模の大きい小学校では、比較的規模の大きい小学校が教育環境として望ましいと回答した比率が高くなる一方で、規模の小さい小学校では、比較的規模の小さい小学校が教育環境として望ましいと回答した比率が高くなりました。



図表 3-29 教育環境として望ましいと思う小学校の規模（所属する小学校の規模別）

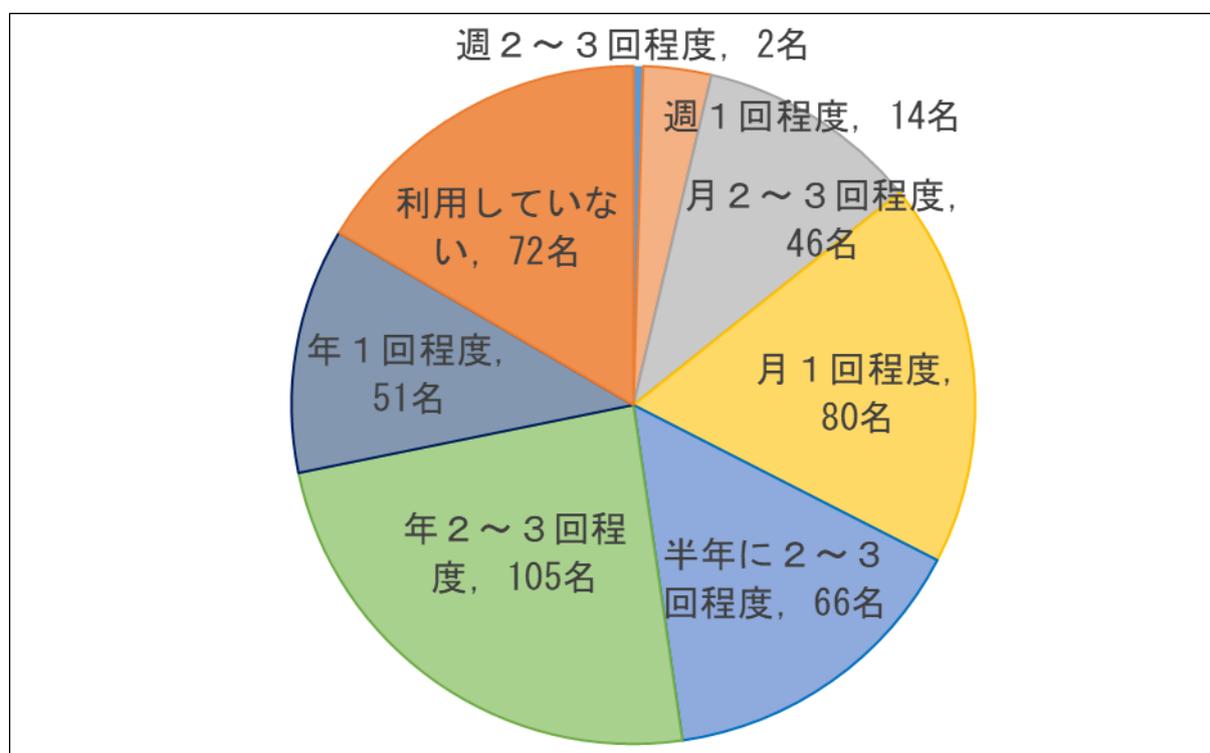
4 図書館について

(1) 小学校教員における図書館の利用状況

【結果概要】

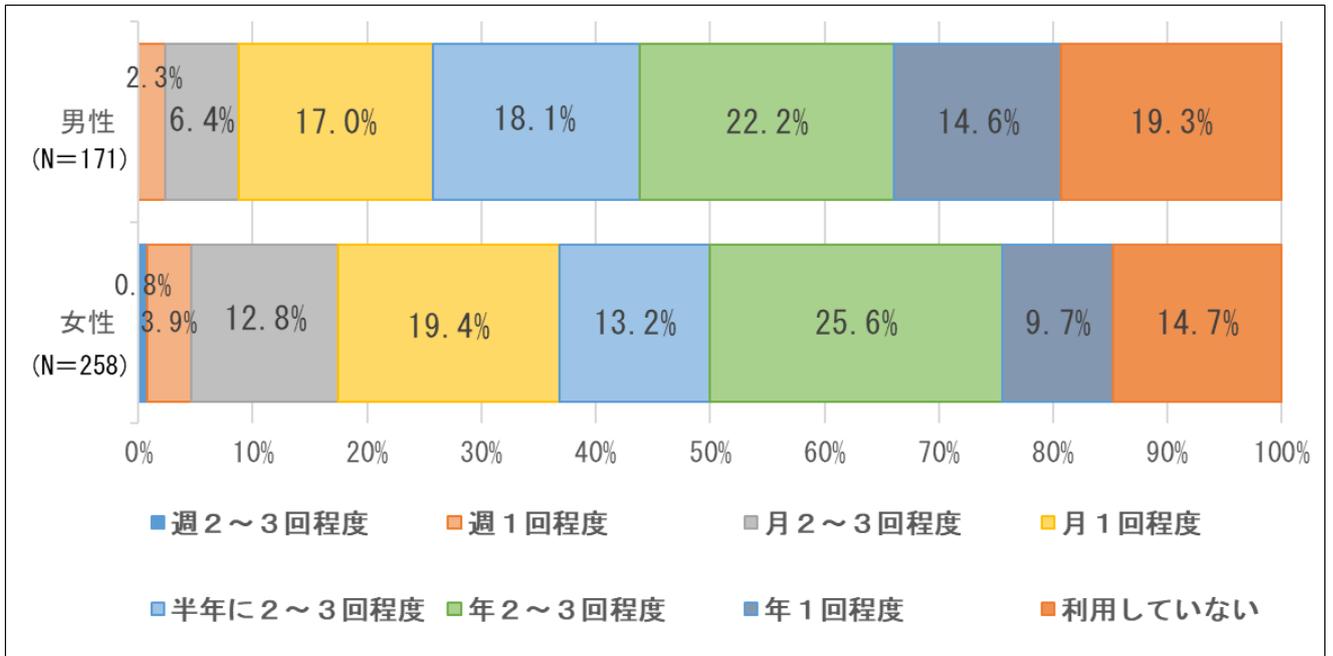
- 図書館を利用していると回答した方が8割を超えており、一般的にみて教員は図書館の利用頻度が高いといえます。(図表 4-1 参照)
- 他の年齢と比較し、29歳以下で図書館の利用頻度が低い傾向がみられました。(図表 4-3)

図表 4-1 によると、「年 2～3 回程度」図書館を利用すると回答した方が最も多く、次いで「月 1 回程度」と回答した方が多くなりました。利用していない方は 72 名に止まりました。



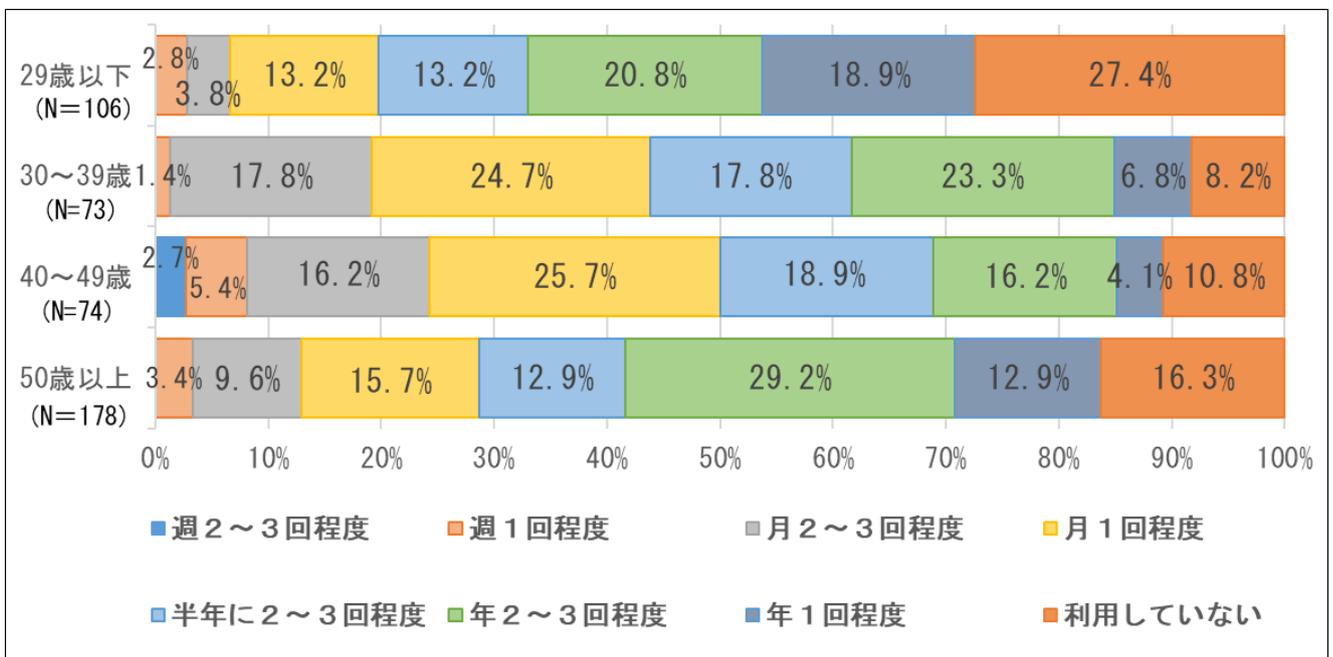
図表 4 - 1 図書館の利用状況 (単純集計) (N = 4 3 6)

図表 4-2 によると、男女ともに図書館の利用頻度が高い傾向がある中、男性と比較して女性において、図書館を利用していると回答した比率が高くなりました。



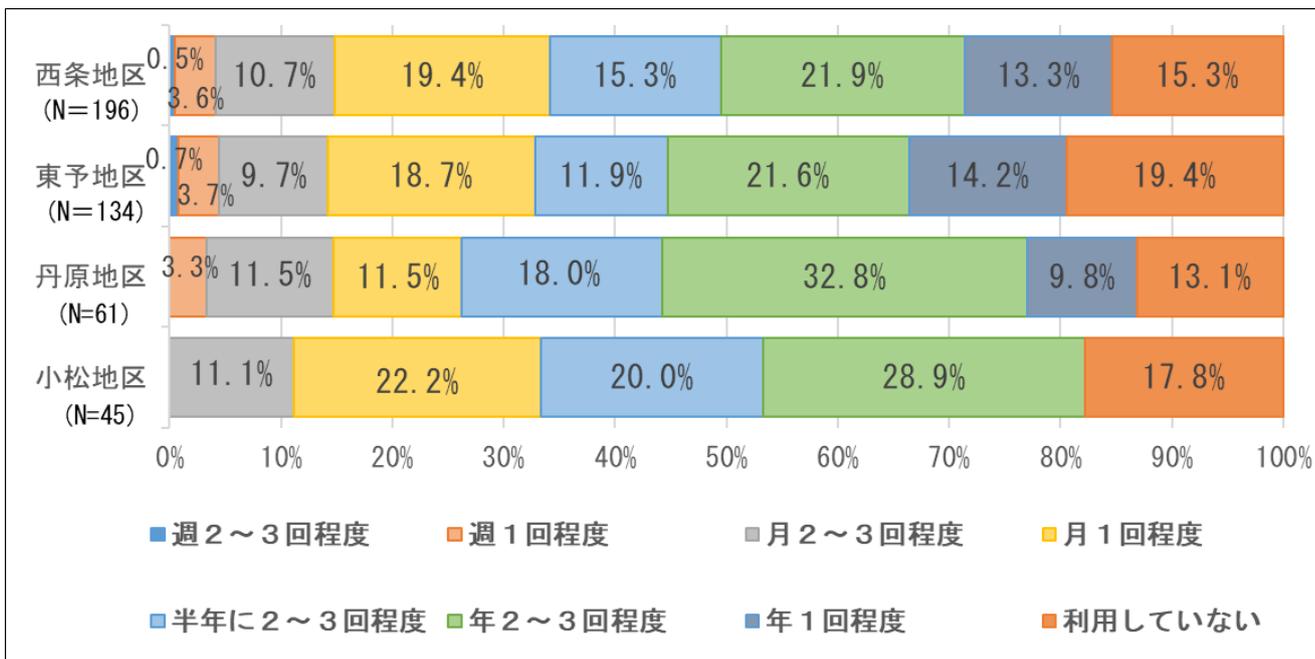
図表 4-2 図書館の利用状況（男女別）

図表 4-3 によると、30～39 歳と 40～49 歳で図書館を利用していると回答した比率が最も高くなる一方で、29 歳以下においては、図書館を利用していると回答した比率が最も低くなりました。



図表 4-3 図書館の利用状況（年齢別）

図表 4-4 によると、すべての地区を通じて緩やかな傾向の違いがあるものの、大きな差異はみられませんでした。



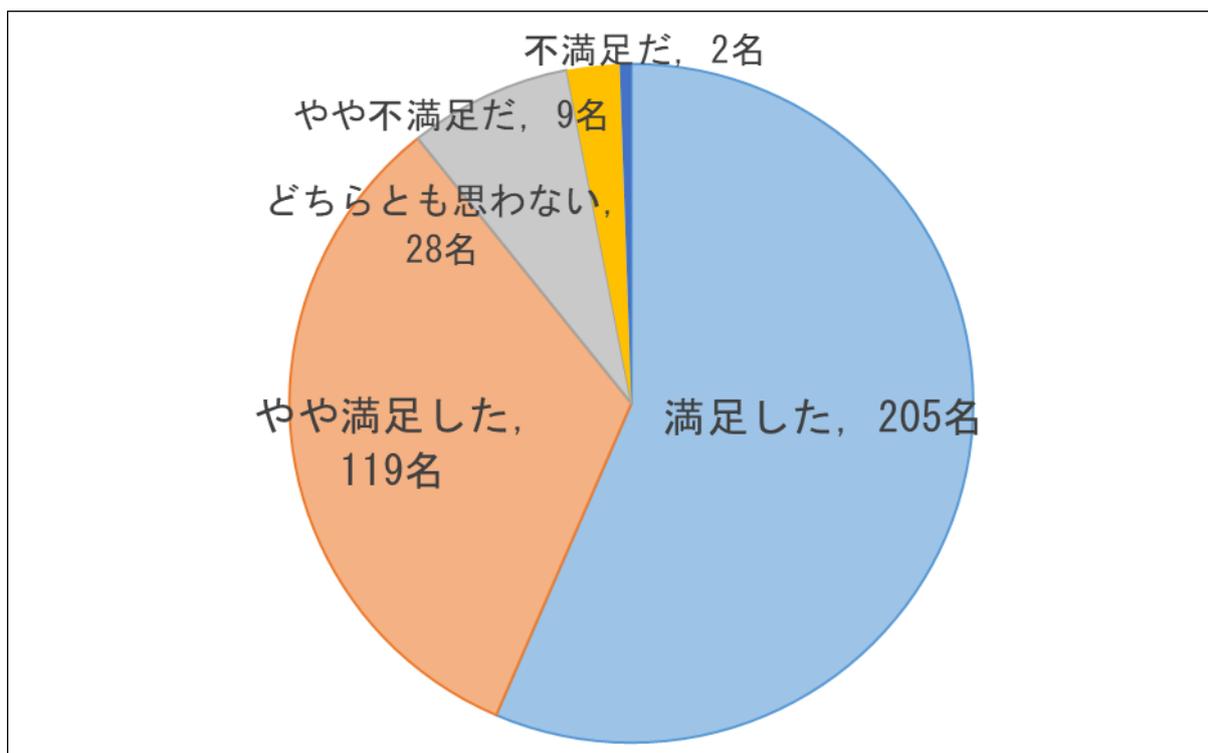
図表 4-4 図書館の利用状況（所属する小学校の地区別）

(2) 小学校教員における図書館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

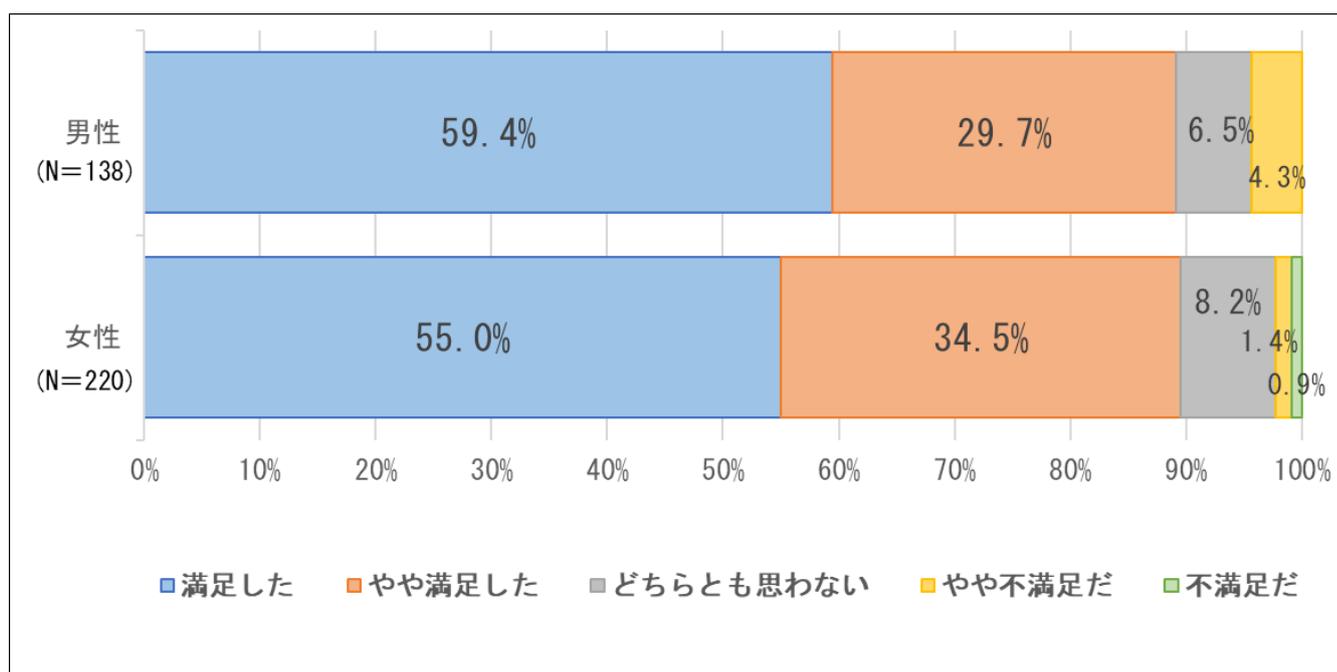
- 全体を通じ、図書館の利用環境に比較的満足している傾向がみられました。(図表 4-5 参照)
- 男女別または年齢別にみると、緩やかに傾向の違いがみられるものの、概ね差異は生じていないものと考えられます。(図表 4-6、4-7 参照)
- 主に利用する図書館別にみると、図書館によって満足度が異なる結果となりました。即座に対応しなければならない状況ではありませんが、少なくとも何が要因なのか分析する必要があると考えられます。(図表 4-8 参照)

図表 4-5 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を大きく上回る結果となりました。



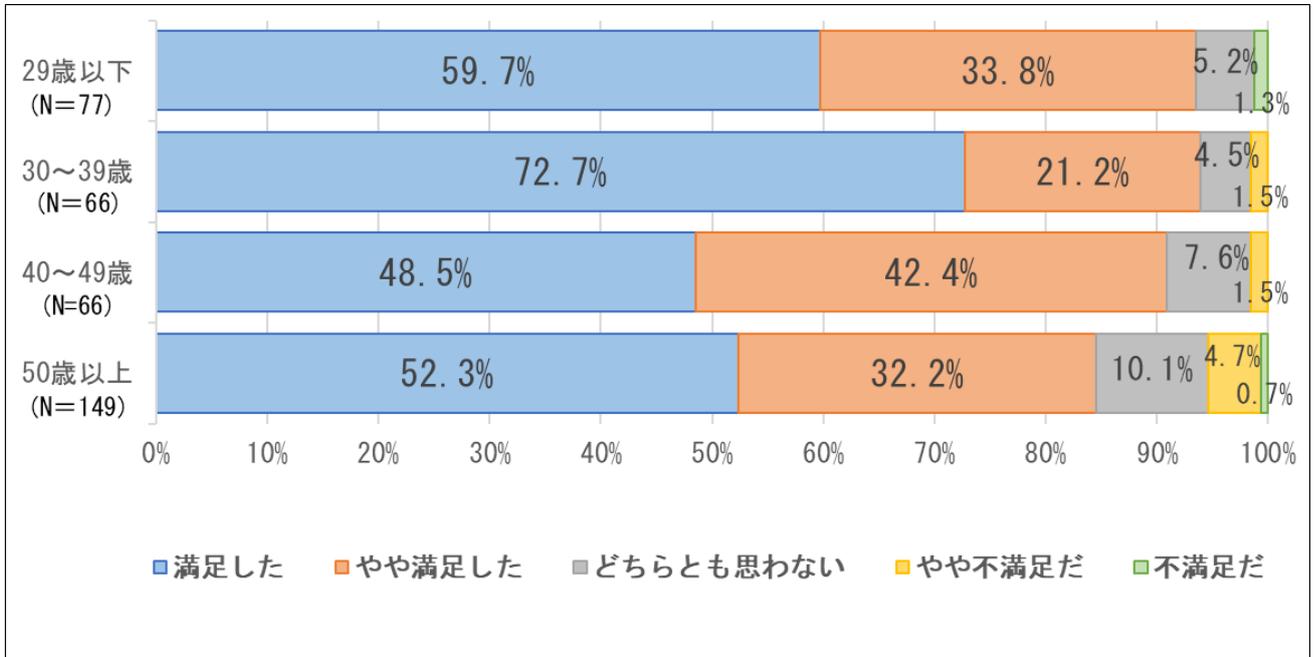
図表 4-5 図書館の利用環境に対する満足度（単純集計）（N=363）

図表 4-6 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、男女別を問わず図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりましたが、男性において緩やかに「やや不満足だ」が高くなる傾向がみられました。



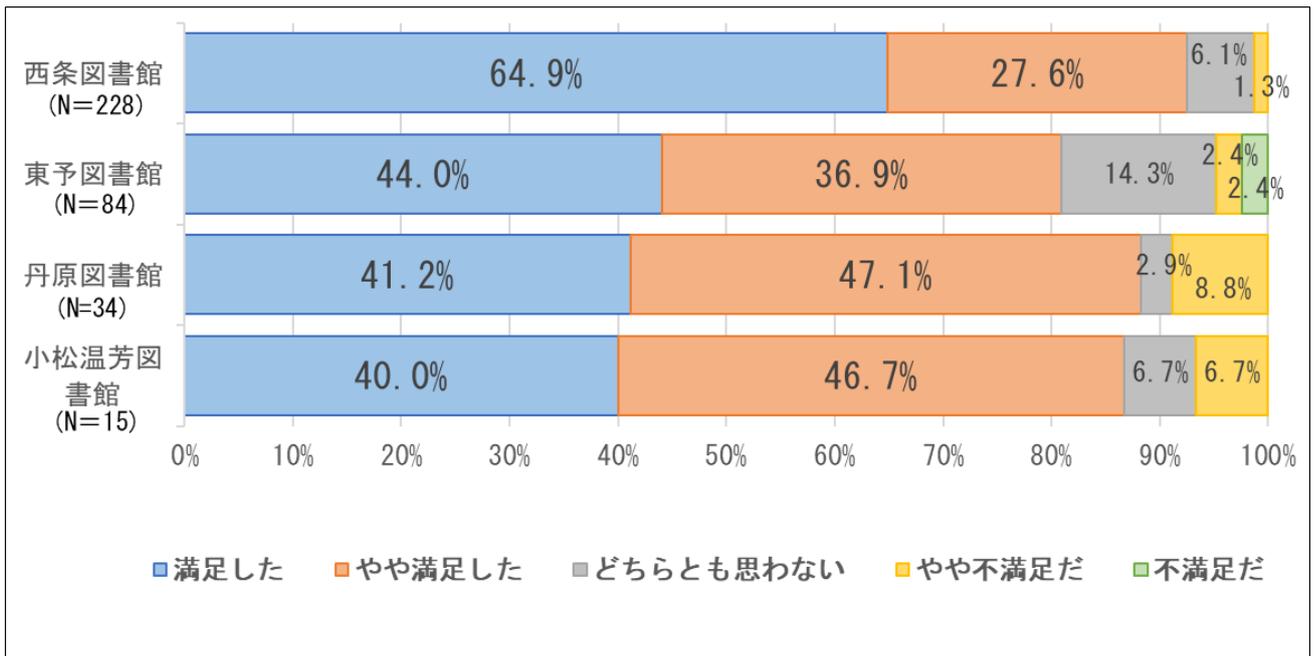
図表 4-6 図書館の利用環境に対する満足度（男女別）

図表 4-7 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、すべての年齢を通じて「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました。一方で、年齢が高くなるにつれて、緩やかに図書館の利用環境に「やや不満足だ」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-7 図書館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図表 4-8 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、西条図書館を主に利用している方が、図書館の利用環境に「満足している」と回答した比率が高くなりました。一方で、主に利用する図書館によって利用環境の満足度に差異が生じる結果となりました。



図表 4-8 図書館の利用環境に対する満足度（主に利用した図書館別）

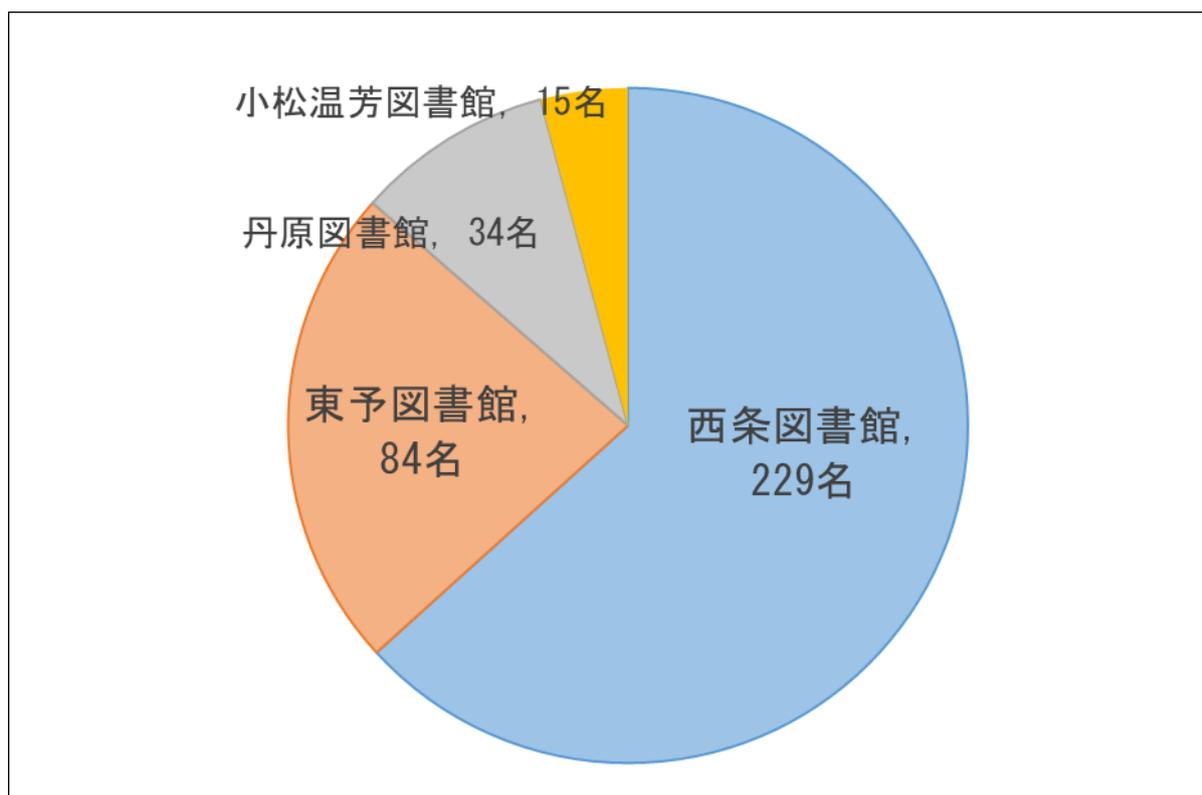
(3) 小学校教員が主に利用している図書館

【結果概要】

- 各地区における人口構成と比較し、西条図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、小松温芳図書館を利用していると回答した比率が低くなりました。(図表 4-9 参照)
- 年齢によって主に利用している図書館の傾向に違いがみられました。特に、西条図書館は比較的若い年齢の方が利用している傾向がみられました。(図表 4-11 参照)

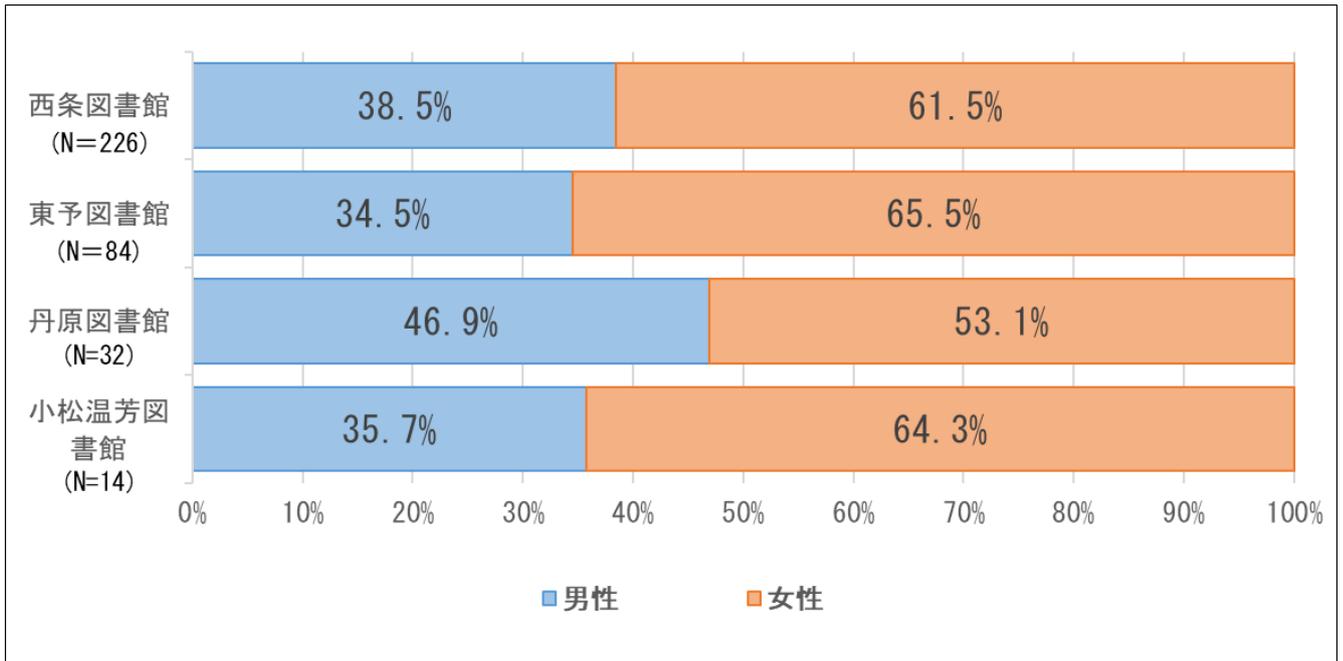
図表 4-9 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、西条図書館を主に利用していると回答した比率が高くなり、西条地区の人口規模と比較してもやや多くなる傾向がみられました。また、その他の図書館については、各地区における人口構成と比較し、主に利用していると回答した比率が低くなる傾向がみられました。

なお、主に移動図書館を利用していると回答した方はいませんでした。



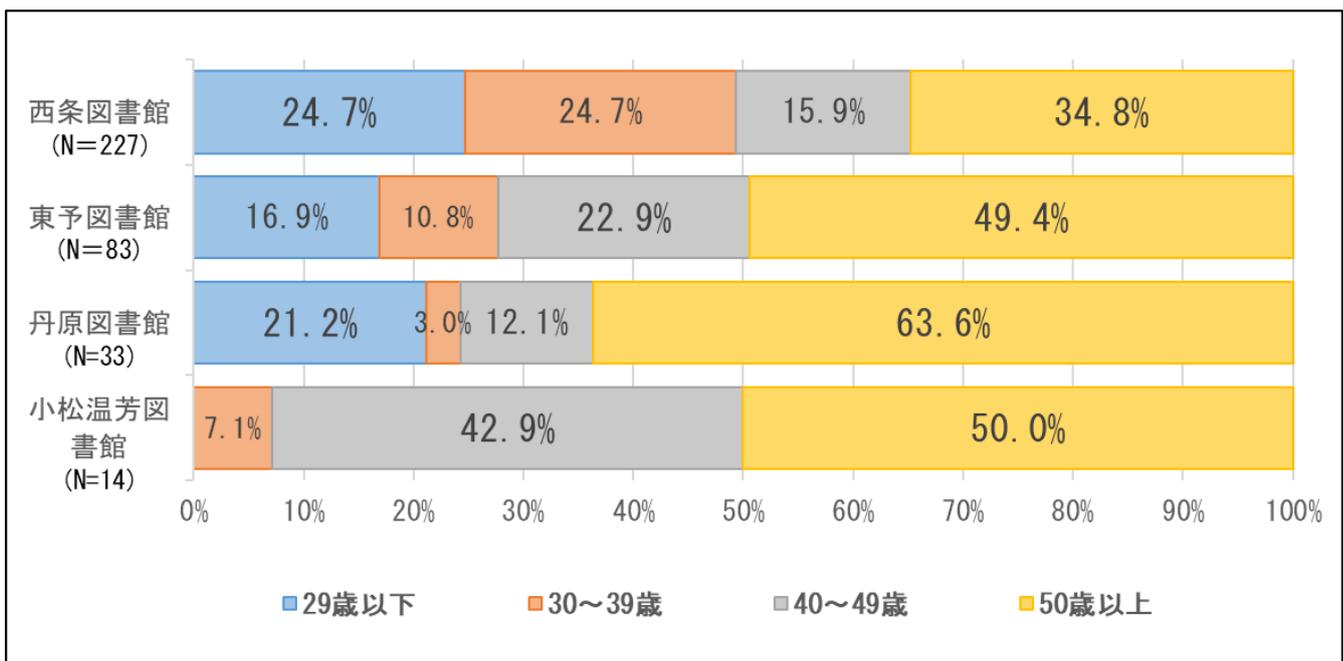
図表 4-9 主に利用している図書館 (単純集計) (N=362)

図表 4-10 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、すべての図書館を通じて女性の利用者が多くなる傾向がみられる中、丹原図書館では、他の図書館と比較して男性が主に利用している傾向がみられました。



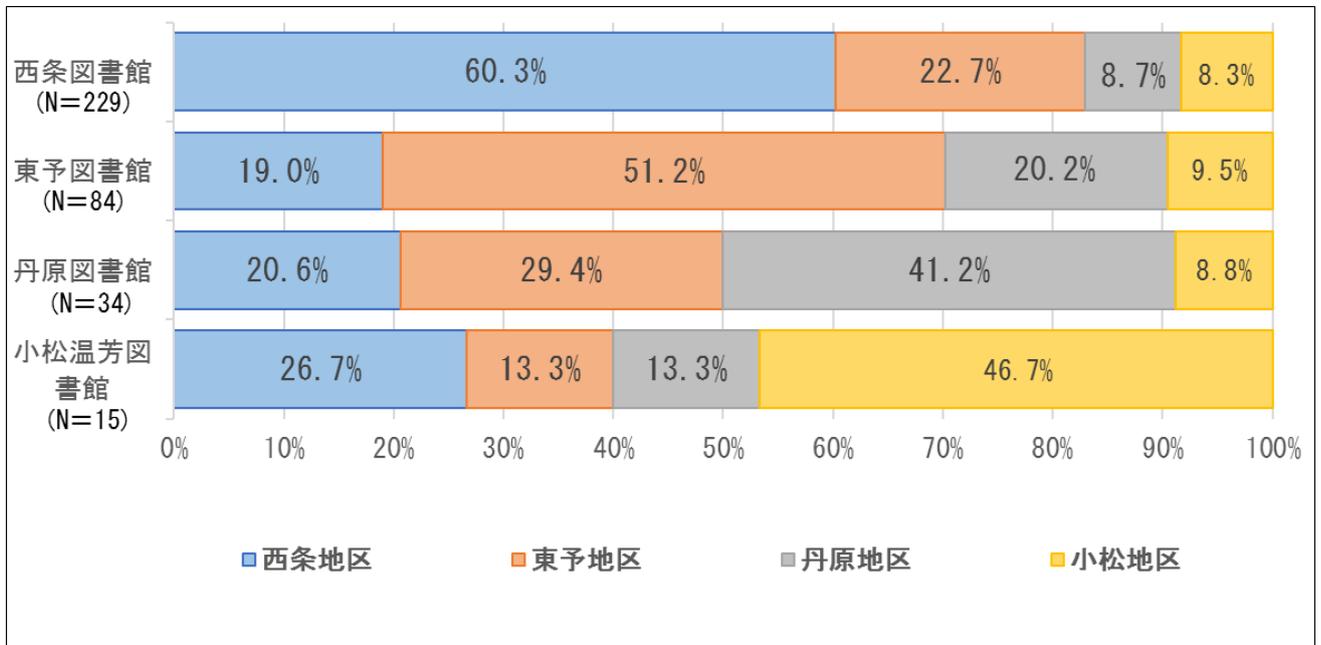
図表 4 - 1 0 主に利用している図書館別の男女構成

図表 4-11 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、西条図書館は若い年齢の方の利用が多くなる傾向がみられる一方で、丹原図書館では主な利用者の 6 割以上が 50 歳以上、小松温芳図書館では主な利用者の 9 割以上が 40 歳以上という傾向がみられました。



図表 4 - 1 1 主に利用している図書館別の年齢構成

図表 4-12 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、すべての図書館において、図書館が立地する地区の小学校に所属する方が最も利用している傾向がみられました。



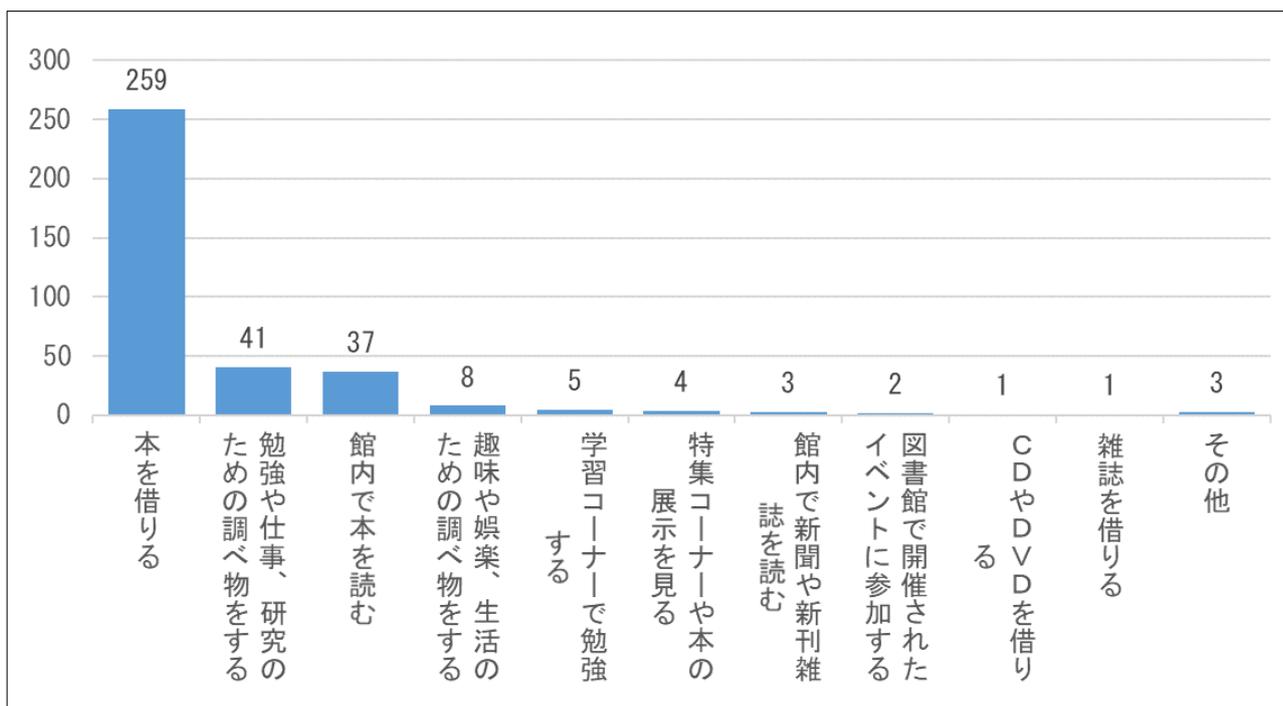
図表 4-12 小学校教員が主に利用している図書館（所属する小学校地区別）

(4) 小学校教員が図書館を利用した主な目的

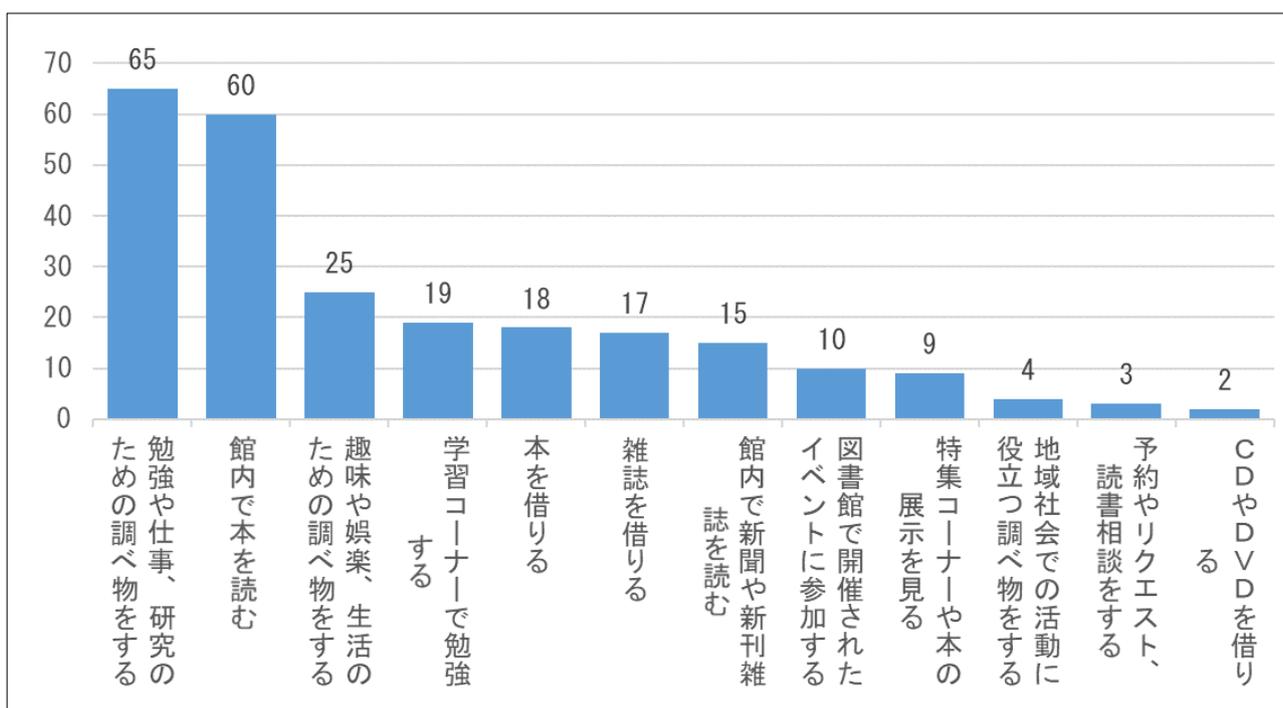
【結果概要】

- 図書館を利用した方の多くが、本を借りるために図書館を利用している傾向が見られました。（図表 4-13 参照）
- 男女別にみると、女性と比較して男性が本を借りる以外の目的で図書館を利用している傾向がみられました。（図表 4-15 参照）
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、本を借りる以外の目的で図書館を利用している傾向がみられました。（図表 4-16 参照）

図表 4-13 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、「本を借りる」ために利用したと回答した方が最も多くなり、次いで「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が多くなりました。また、図表 4-14 によると、第 2 選択についても、「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が多くなりました。

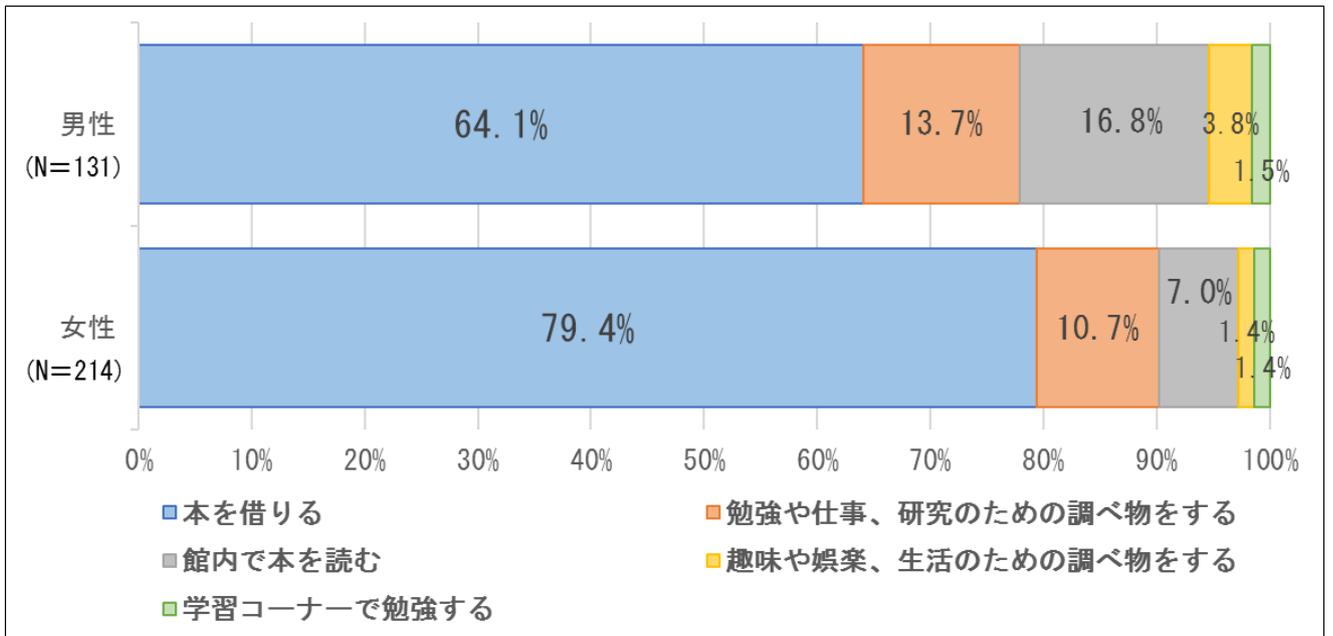


図表 4-13 図書館を利用した主な目的（第1選択・単純集計）（N=364）



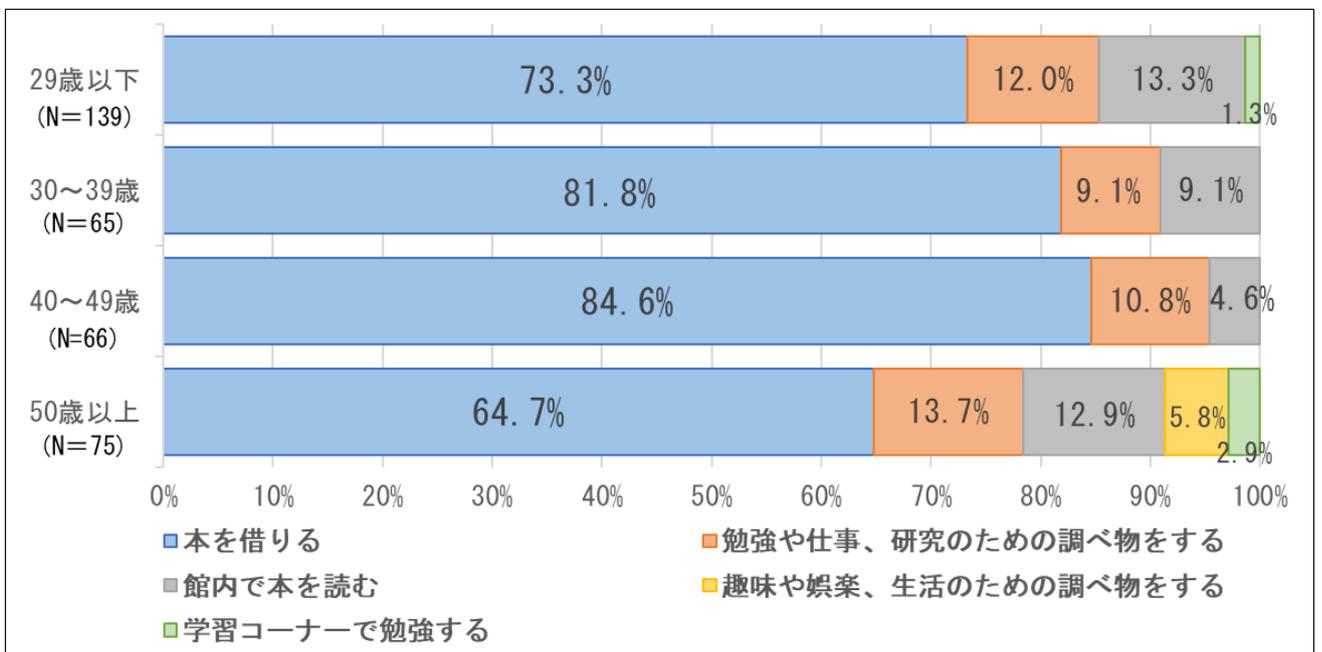
図表 4-14 図書館を利用した主な目的（第2選択・単純集計）（N=247）

図表 4-15 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、男性と比較して女性で「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が高くなりました。また、女性と比較して男性で、「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」と回答した比率が高くなりました。



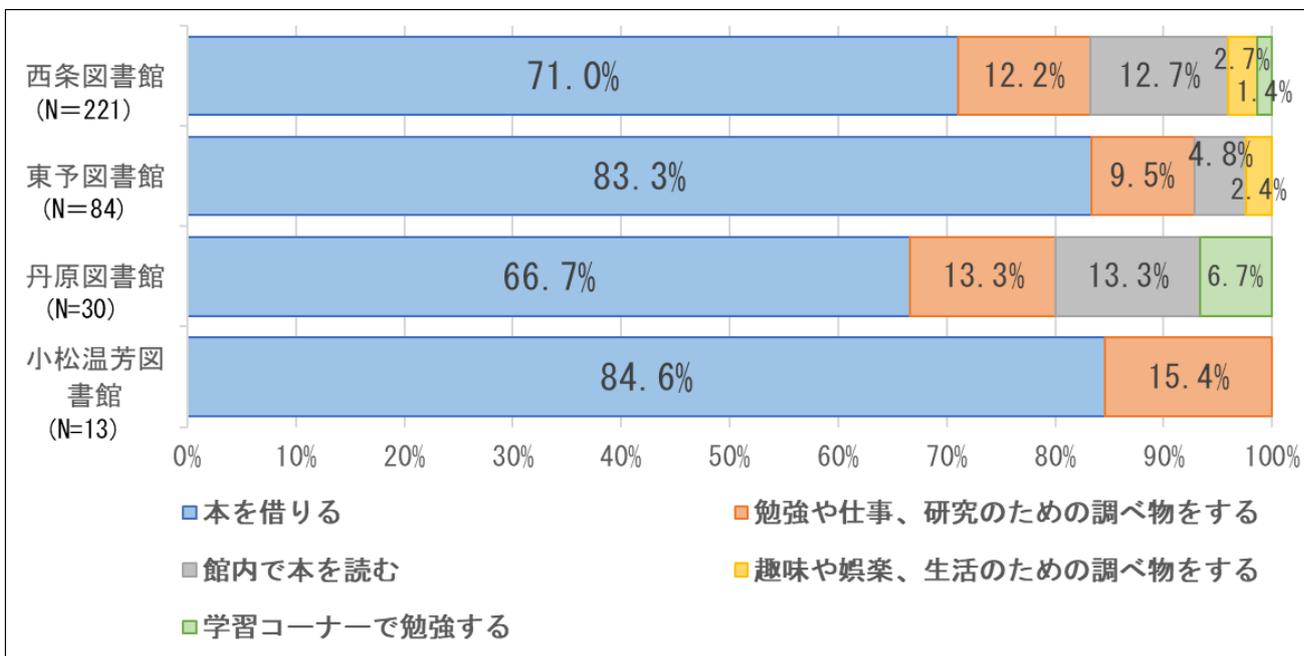
図表 4 - 1 5 図書館を利用した主な目的（第 1 選択上位 5 項目・男女別）

図表 4-16 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、50 歳以上において「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が低くなる一方で、「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」と回答した比率が高くなりました。



図表 4 - 1 6 図書館を利用した主な目的（第 1 選択上位 5 項目・年齢別）

図表 4-17 によると、図書館を利用したと回答した小学校教員のうち、すべての図書館において「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が最も高くなる一方で、丹原図書館では他の利用目的を選択した比率が最も高くなりました。



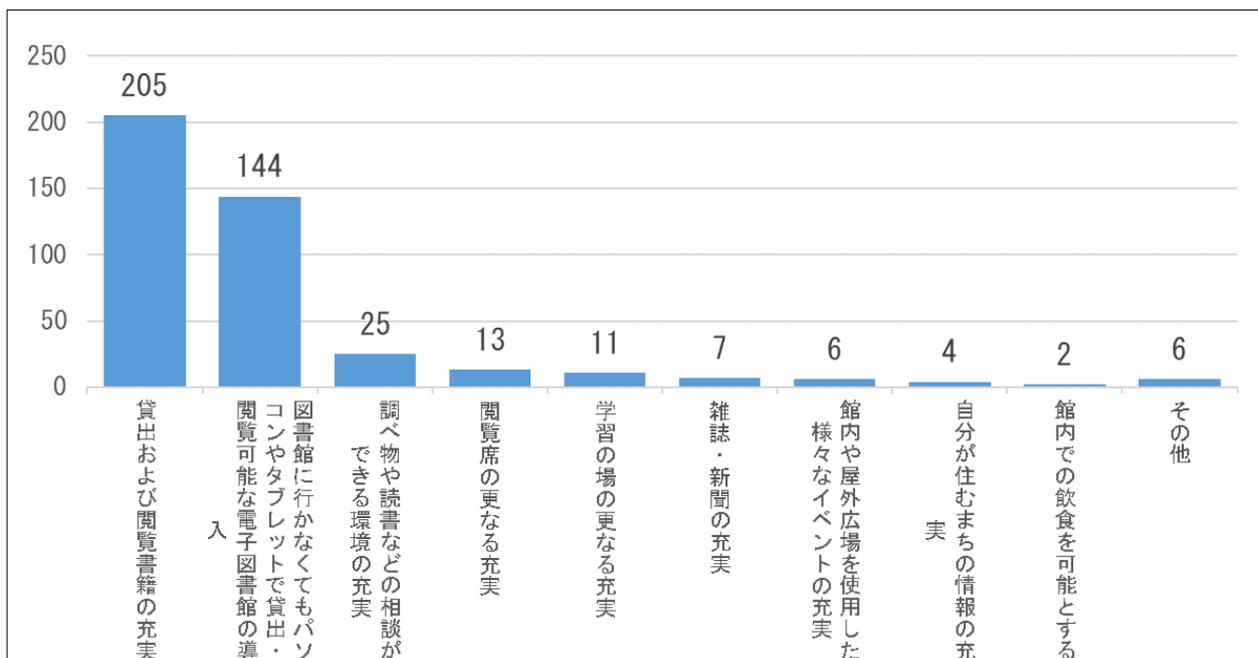
図表 4-17 図書館を利用した主な目的（第1選択上位5項目・主に利用している図書館別）

(5) 図書館に関連して今後力を入れるべき点

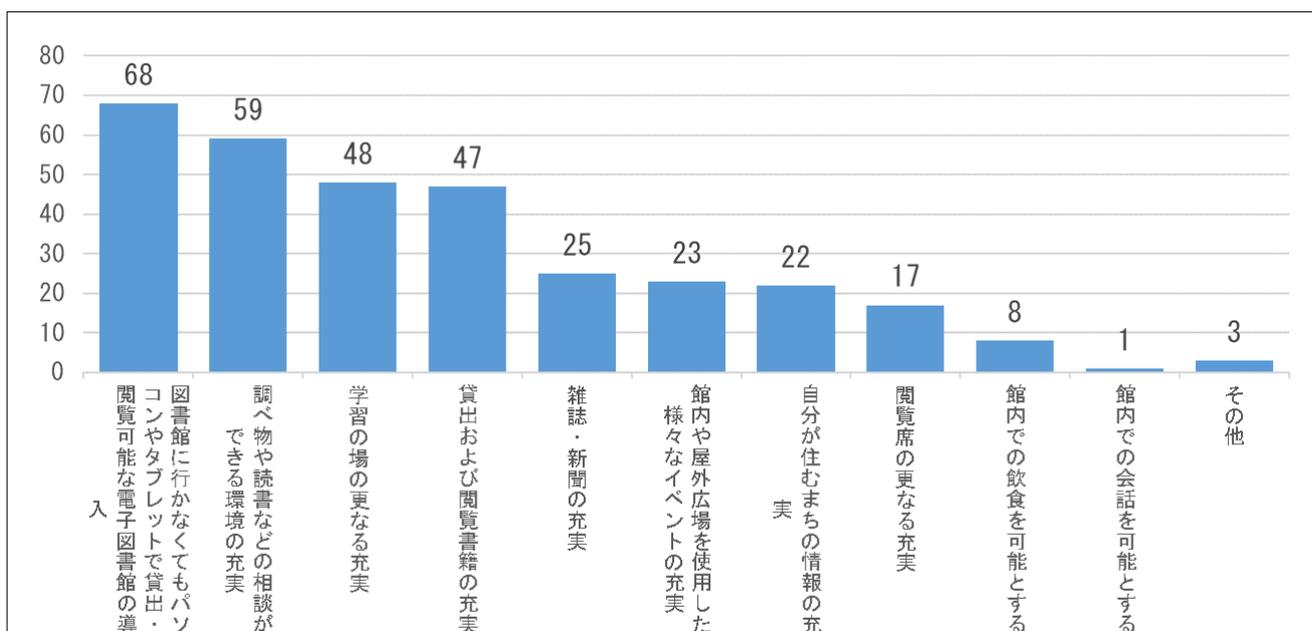
【結果概要】

- 書籍の充実に力を入れるべきとする方が多くなる一方で、近年導入が進みつつある電子図書館の導入に力を入れるべきとする方が多くなりました。(図表 4-18、4-19 参照)
- 年齢別にみると、特に 39 歳以下においては、書籍を充実するよりも電子図書館の導入に力を入れるべきと回答した比率が高くなる一方で、40 歳以上では書籍の充実を求める傾向がみられました。(図表 4-21 参照)
- 主に利用する図書館別かつ所属する小学校の地区別にみると、全体を通じて書籍の充実を求めつつも、あわせて電子図書館の導入を求める傾向がみられます。(図表 4-22、4-23 参照)

図表 4-18 によると、「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-19 によると、第2選択では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」「調べ物や読書などの相談ができる環境の充実」と回答した方が多くなりました。

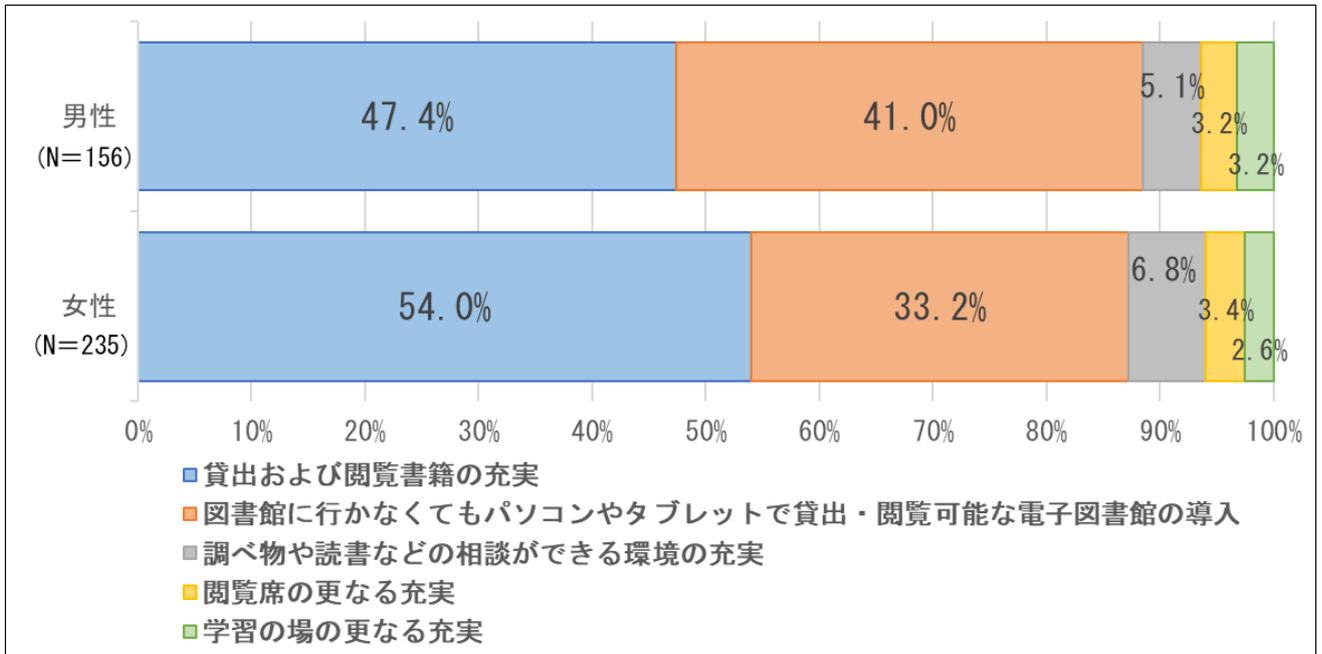


図表 4-18 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第1選択・単純集計）（N = 423）



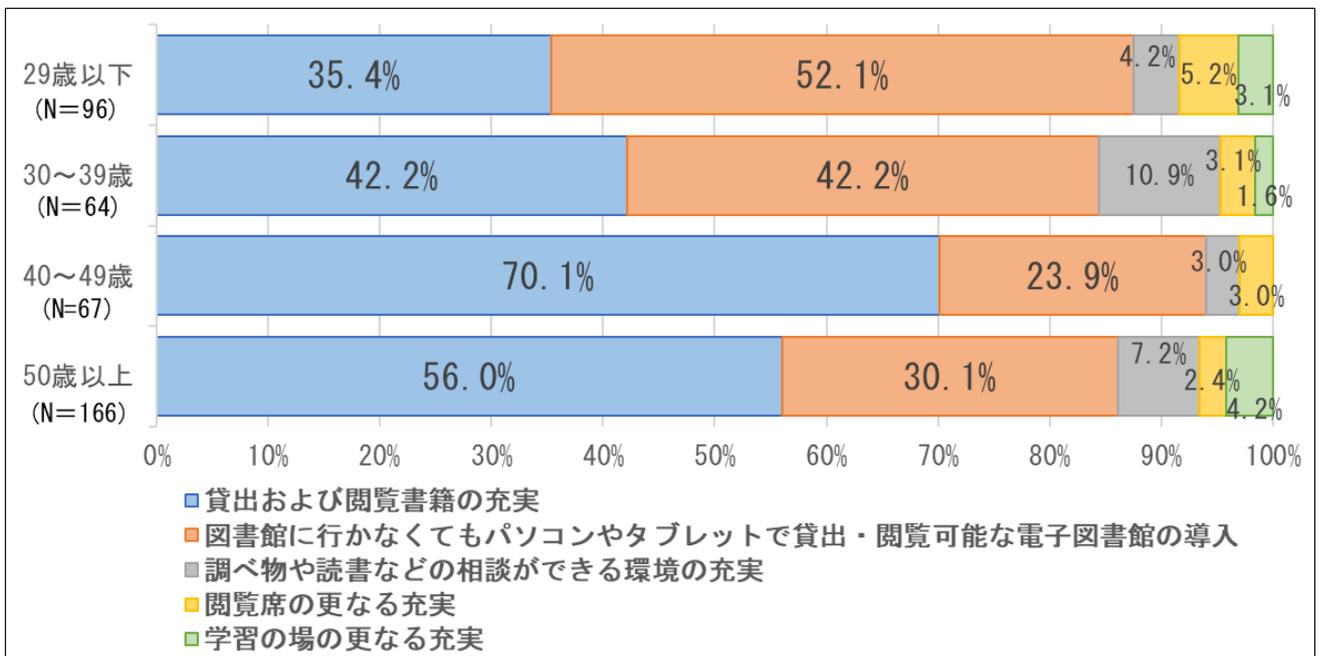
図表 4-19 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第2選択・単純集計）（N = 321）

図表 4-20 によると、男女別に大きな差異はみられませんでした。どちらかといえば、男性では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率も高くなり、女性では「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



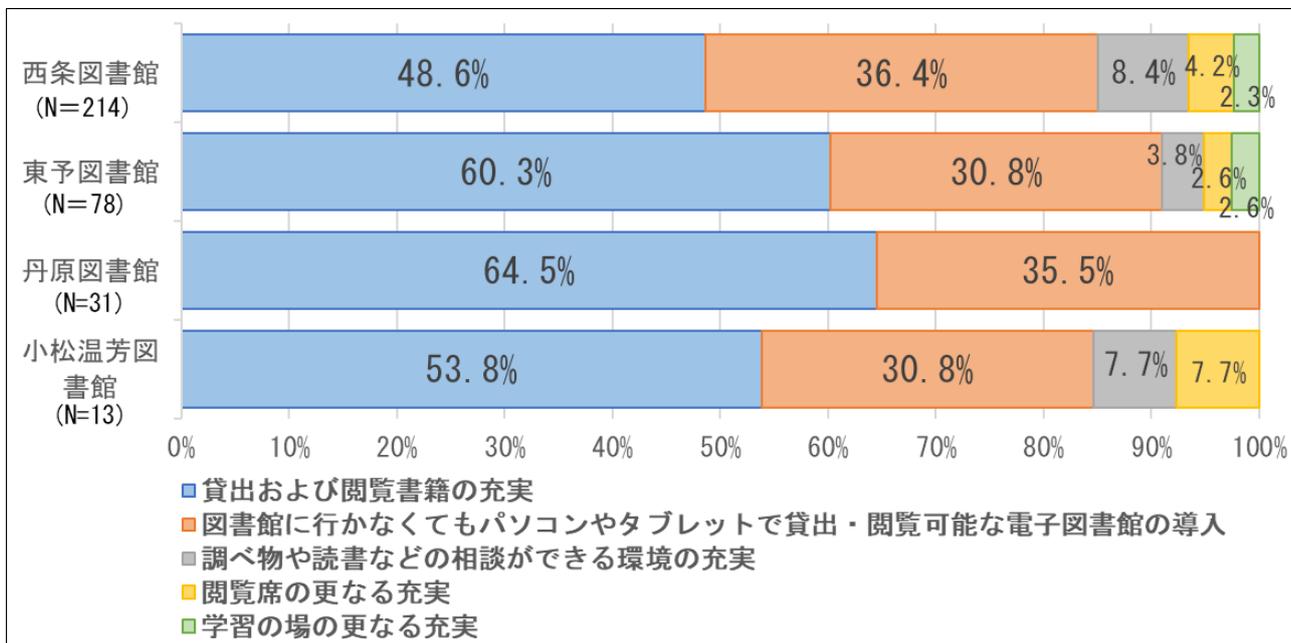
図表 4-20 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第1選択上位5項目・男女別）

図表 4-21 によると、29歳以下と30～39歳で「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が高くなる一方で、40～49歳と50歳以上で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



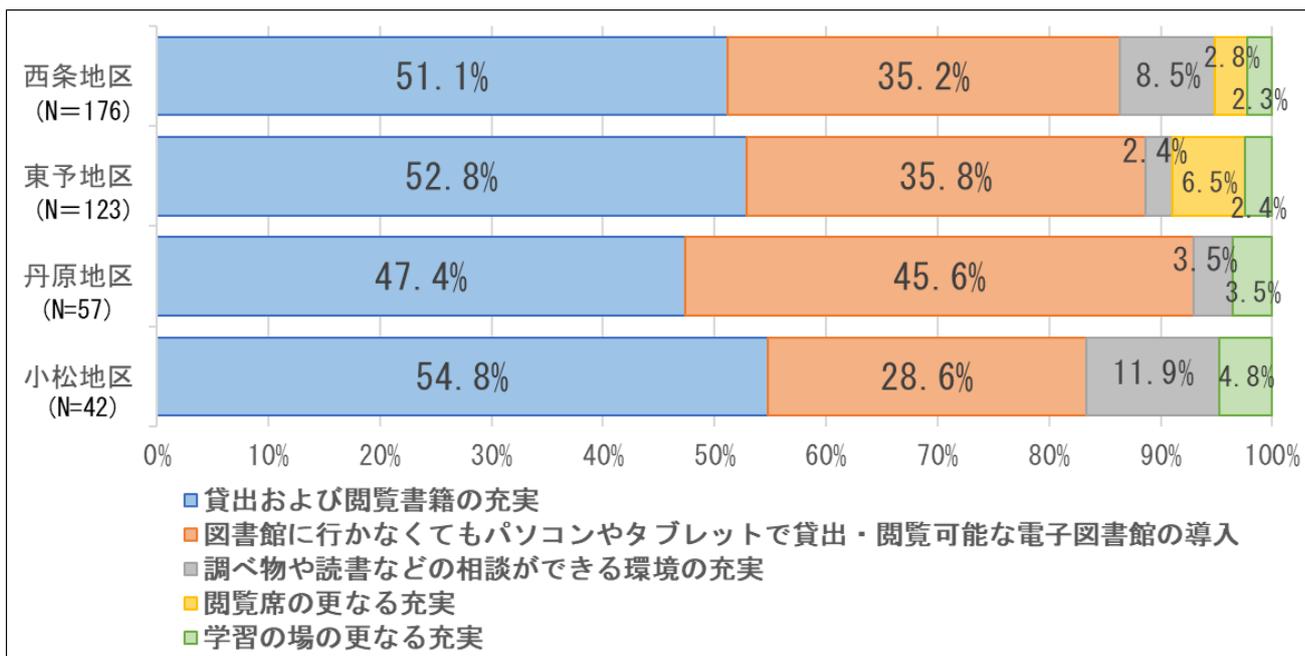
図表 4-21 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 4-22 によると、すべての主に利用した図書館別に「貸出および閲覧書籍の充実」が最も高くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」が高くなりました。特に、東予図書館と丹原図書館を主に利用した方は、書籍の充実を求める傾向がみられました。



図表 4-22 図書館に関連して今後力を入れるべき点
(第1選択上位5項目・主に利用している図書館別)

図表 4-23 によると、すべての地区を通じて大きな差異がみられない中、丹原地区では「貸出および閲覧書籍の充実」と「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率がほぼ同じとなりました。



図表 4-23 図書館に関連して今後力を入れるべき点
(第1選択上位5項目・所属する小学校の地区別)

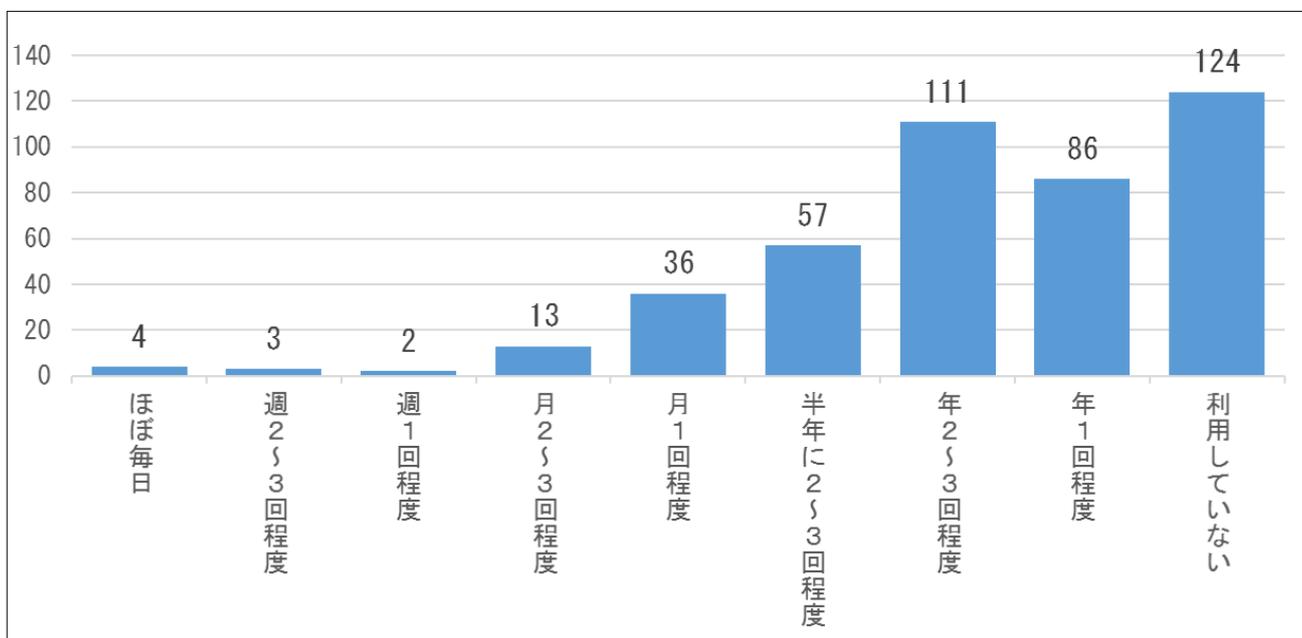
5 公民館について

(1) 小学校教員における公民館の利用状況

【結果概要】

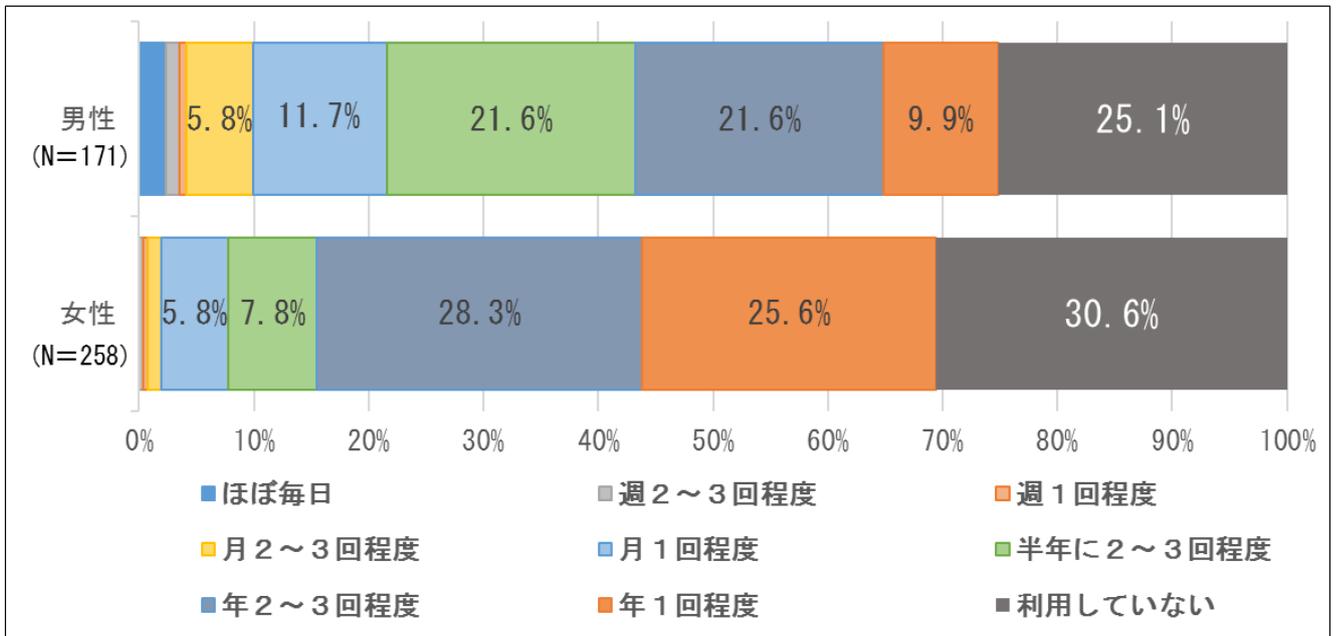
- 公民館を利用していないと回答した方が約3.5人に1人となりました。小学校と地域の連携を強化する観点から、いかに教員にとって利用しやすい公民館としていくのかという点が課題になっていると推察されます。(図表 5-1 参照)
- 年齢別にみると、29歳以下の方が公民館を利用する機会が少なくなっていることがわかります。また、所属する小学校の地区別にみると、地区によって公民館の利用頻度が異なることがわかります。(図表 5-3、5-4 参照)
- 小学校の規模が小さいほど、教員における公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられます。地域とのつながりを有する業務が多いことが要因ではないかと推察されます。(図表 5-5 参照)

図表 5-1 によると、公民館を「利用していない」と回答した方が最も多く、次いで「年2～3回程度」「年1回程度」と回答した方が多くなりました。また、「月1回程度」と回答した方は比較的多くなる一方で、「ほぼ毎日」「週2～3回程度」「週1回程度」と回答した方は少なくなりました。



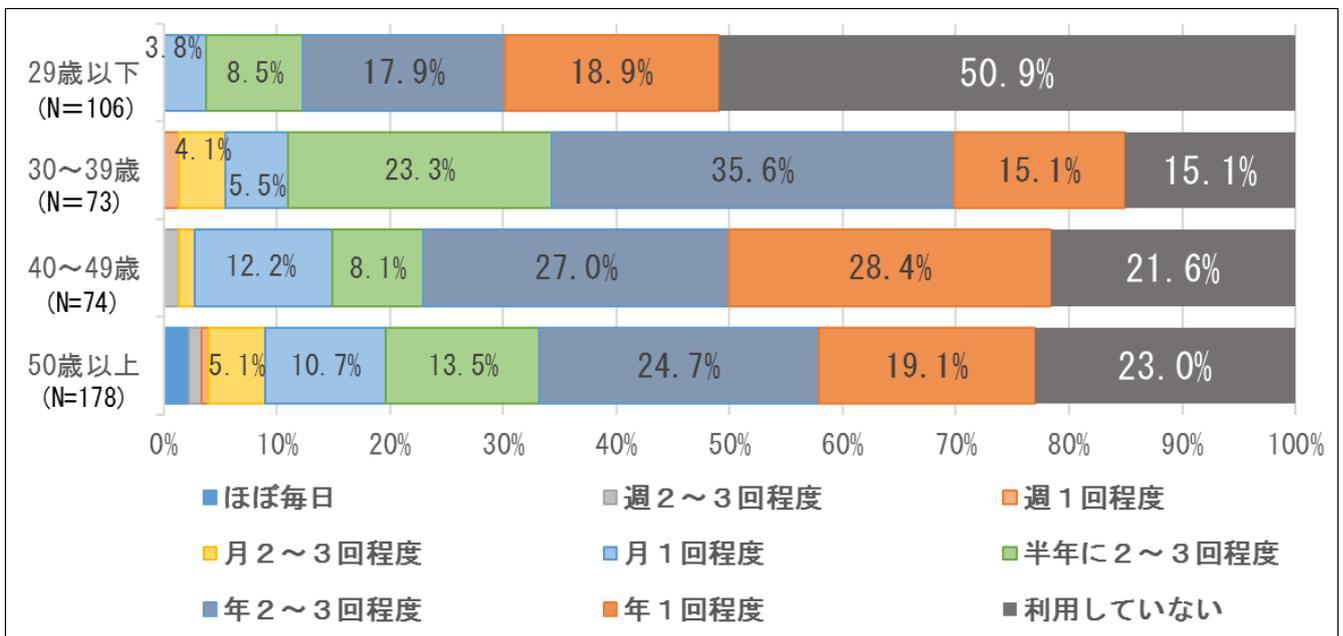
図表 5-1 公民館の利用状況 (単純集計) (N=436)

図表 5-2 によると、女性と比較して男性で公民館を利用している傾向がみられました。



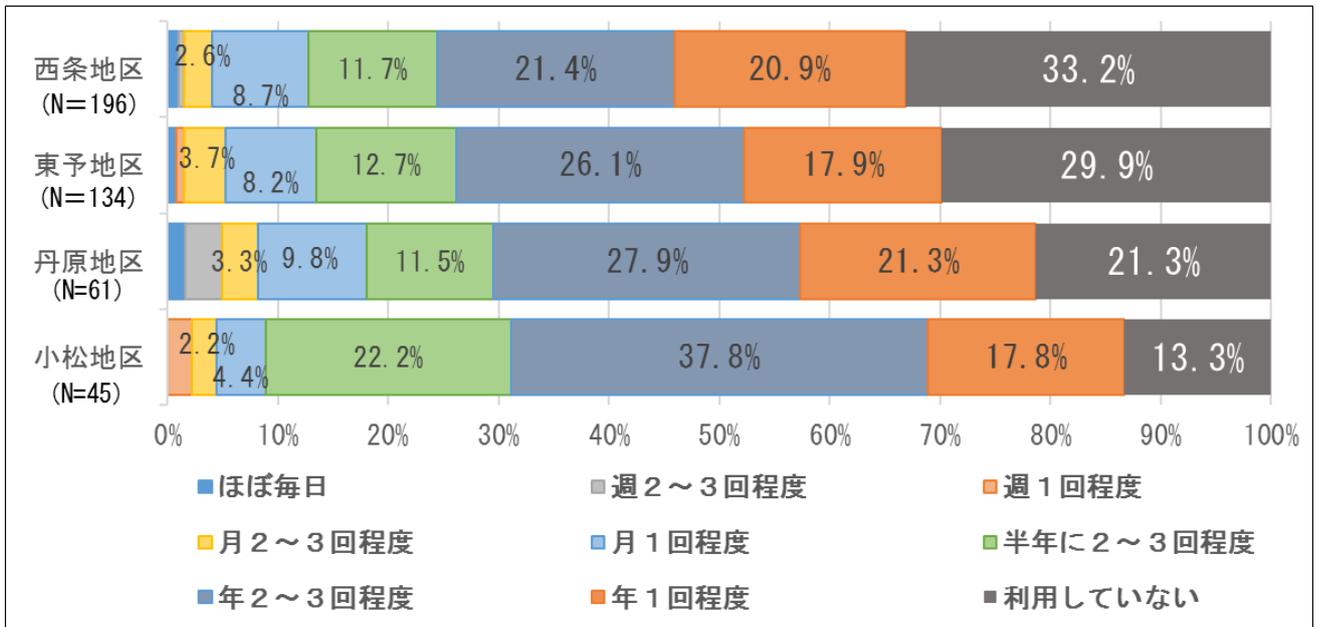
図表 5-2 公民館の利用状況（男女別）

図表 5-3 によると、29 歳以下と比較し、30 歳以上で公民館を利用する頻度が多くなる傾向がみられました。



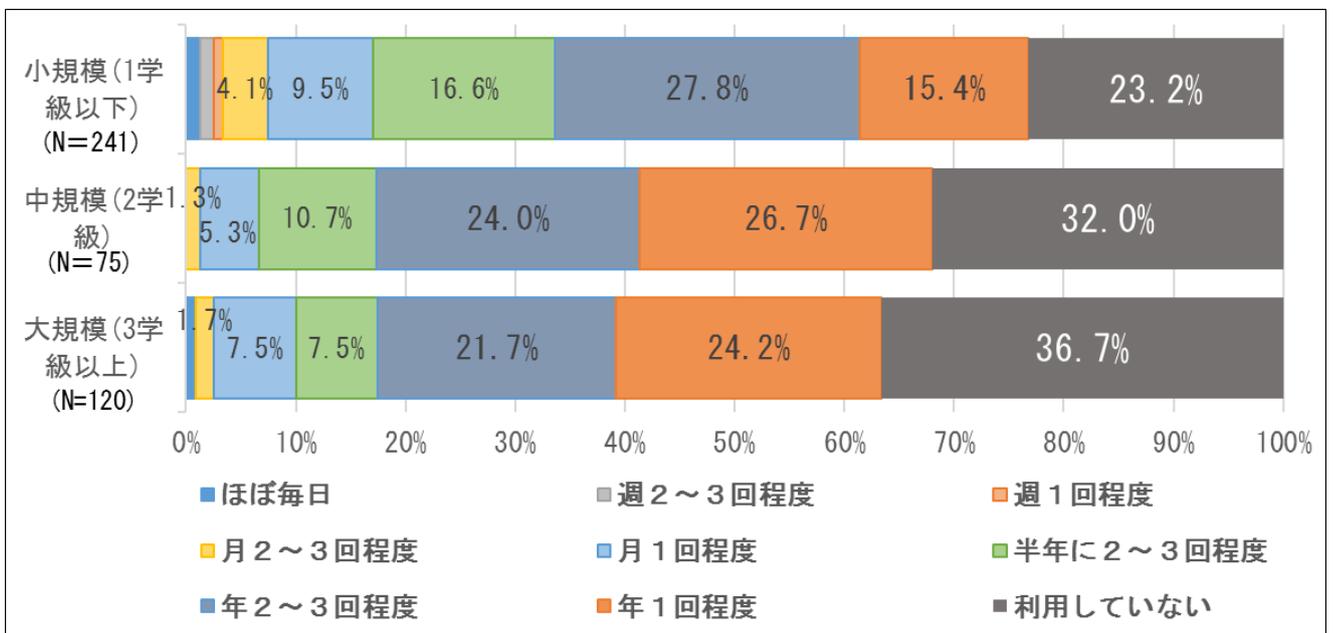
図表 5-3 公民館の利用状況（年齢別）

図表 5-4 によると、小松地区で公民館を利用していないと回答した比率が最も低くなる一方で、月 1 回以上公民館を利用していると回答した比率も低くなる傾向がみられました。



図表5-4 公民館の利用状況（所属する小学校の地区別）

図表5-5によると、小学校の規模が小さくなるにつれて、教員における公民館の利用頻度が高くなりました。逆に、小学校の規模が大きくなるにつれて、公民館を利用していないと回答した比率が高くなりました。



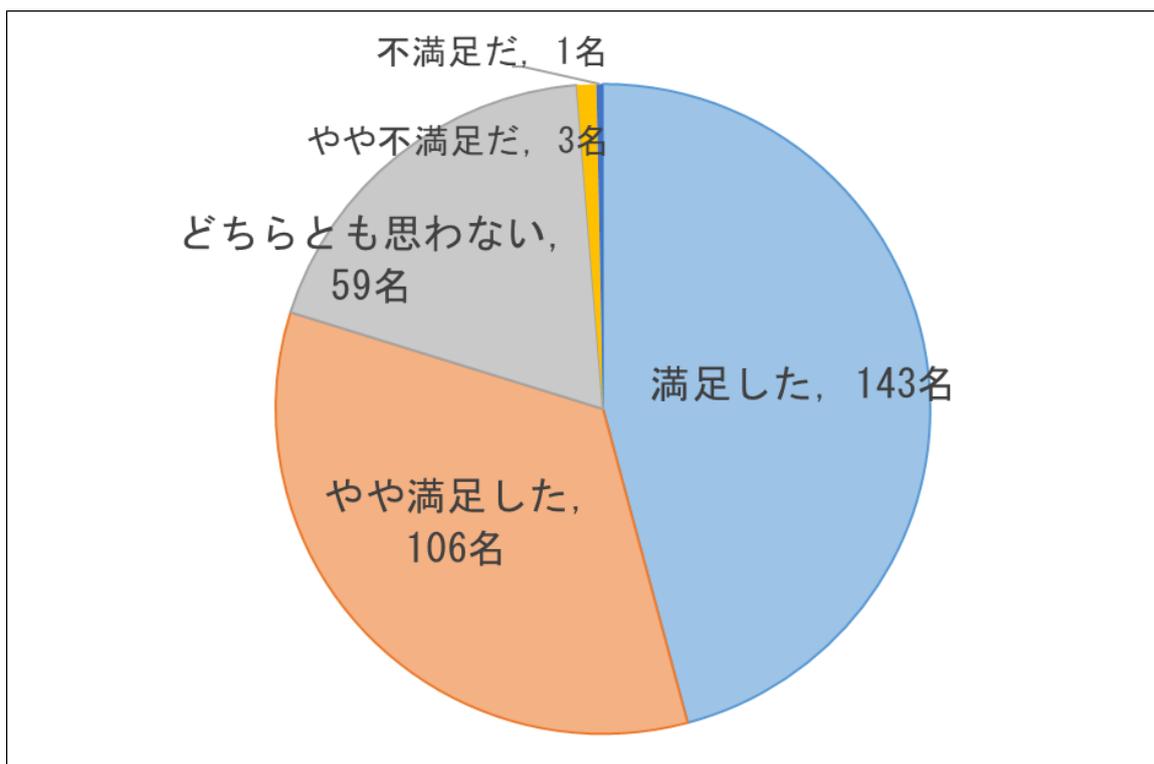
図表5-5 公民館の利用状況（所属する小学校の規模別）

(2) 小学校教員における公民館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

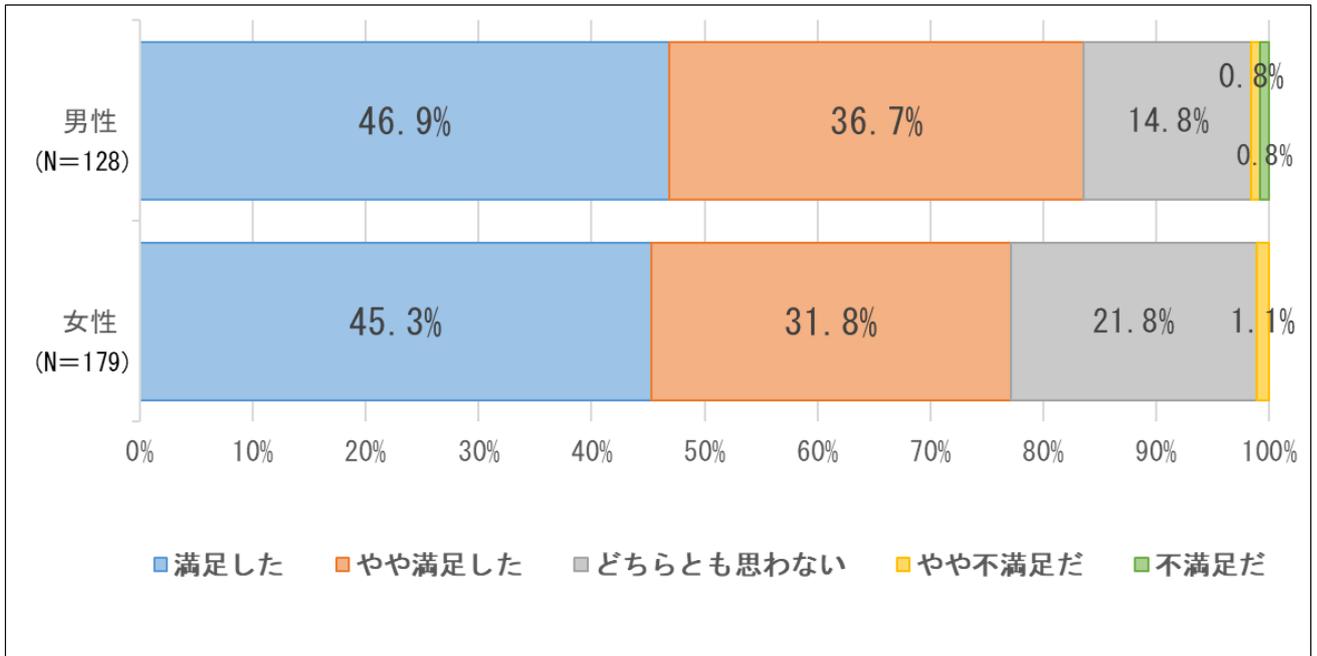
- 公民館を利用したと回答した大半の小学校教員が、公民館の利用環境に「満足している」「やや満足している」結果となりました。(図表 5-6 参照)
- 地区別にみると、小松地区で公民館の利用環境に満足したと回答した比率が低くなる傾向がみられます。即座に対応する必要はないと考えられるものの、何が要因となっているのか分析する必要がありますと考えられます。(図表 5-9 参照)

図表 5-6 によると、公民館を利用したと回答した小学校教員のうち、公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を大幅に上回る結果となりました。



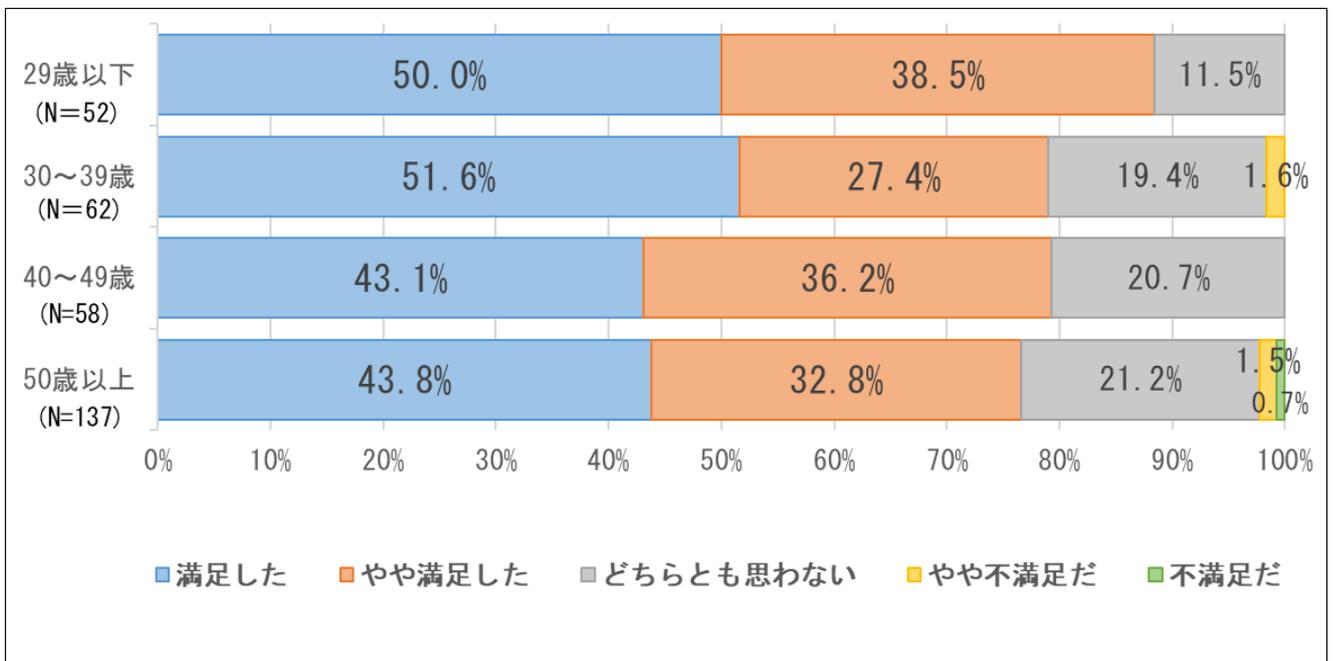
図表 5-6 公民館の利用環境に対する満足度 (単純集計) (N = 312)

図表 5-7 によると、公民館を利用したと回答した小学校教員のうち、男女別を問わず公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、女性と比較して男性において「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 5-7 公民館の利用環境に対する満足度（男女別）

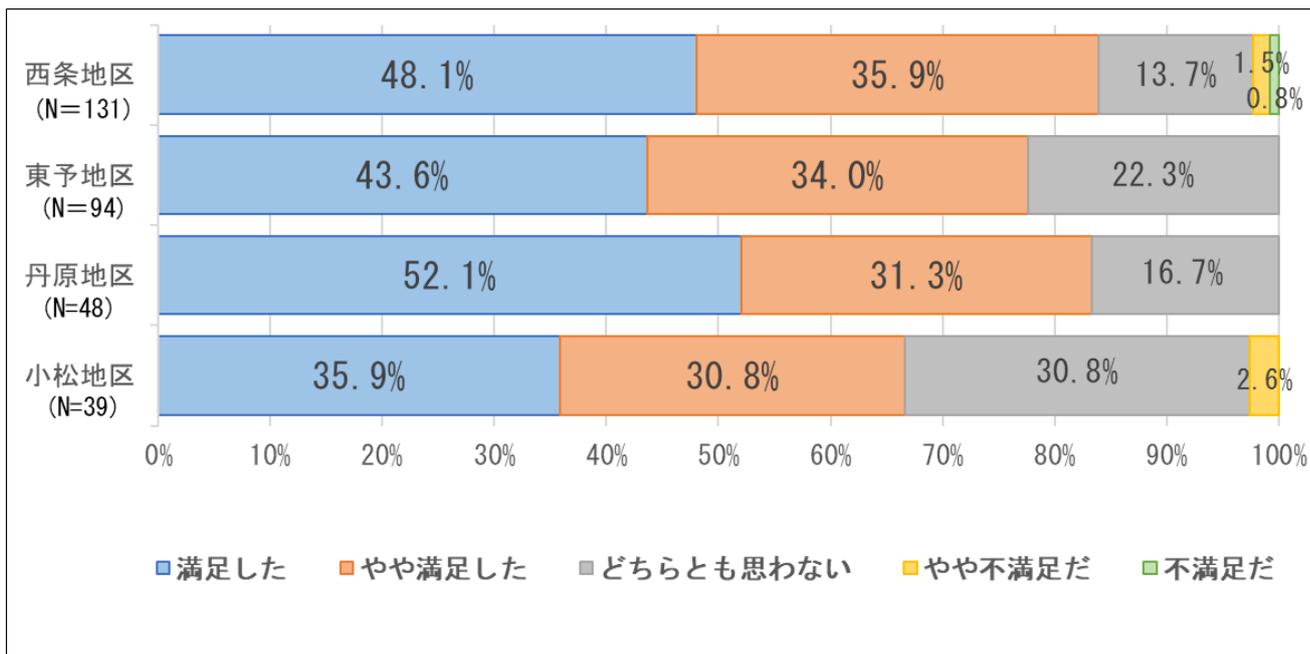
図表 5-8 によると、公民館を利用したと回答した小学校教員のうち、29 歳以下と 30～39 歳において、公民館の利用環境に「満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、年齢が高くなるにつれて、公民館の利用環境に満足したと回答した比率が低くなる傾向がみられました。



図表 5-8 公民館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図 5-9 によると、公民館を利用したと回答した小学校教員のうち、小松地区で「満足した」「やや満

足した」と回答した比率が低くなる傾向がみられました。



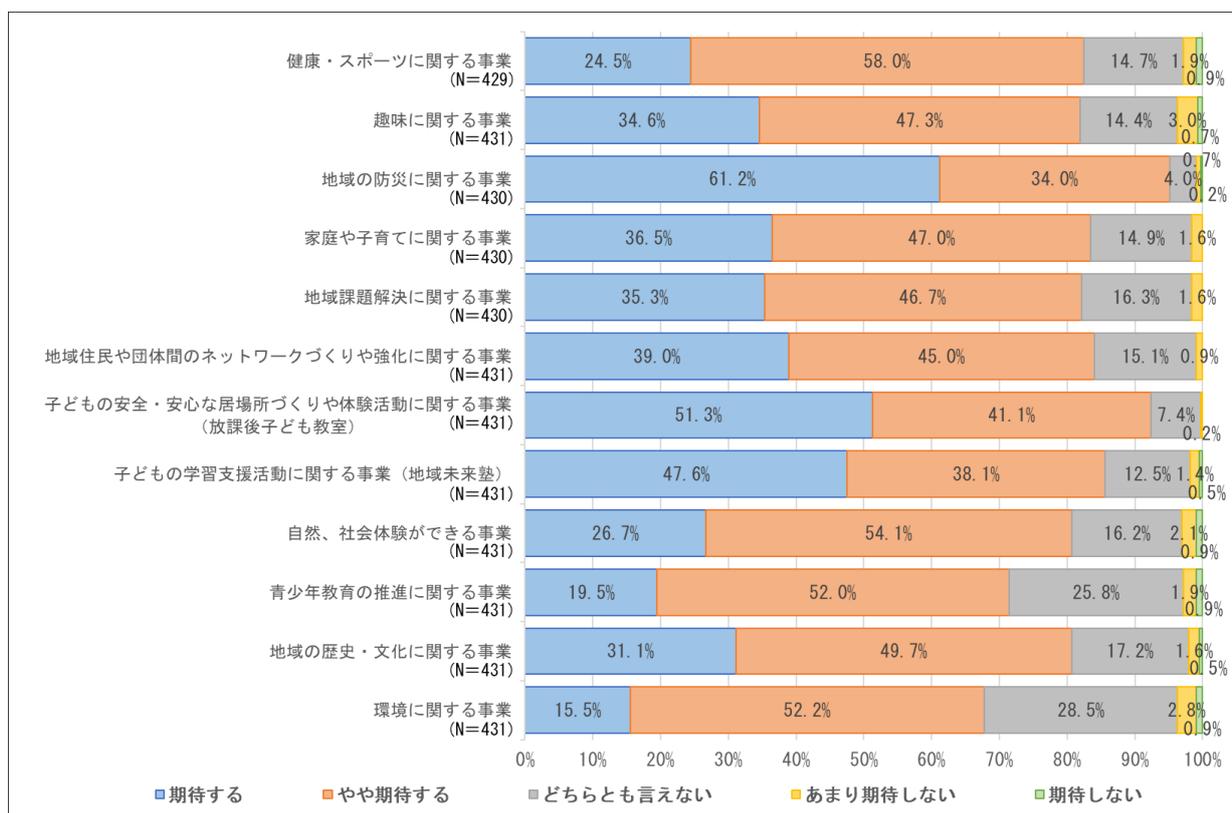
図表 5-9 公民館の利用環境に対する満足度（所属する小学校の地区別）

(3) 小学校教員が公民館に期待する事業

【結果概要】

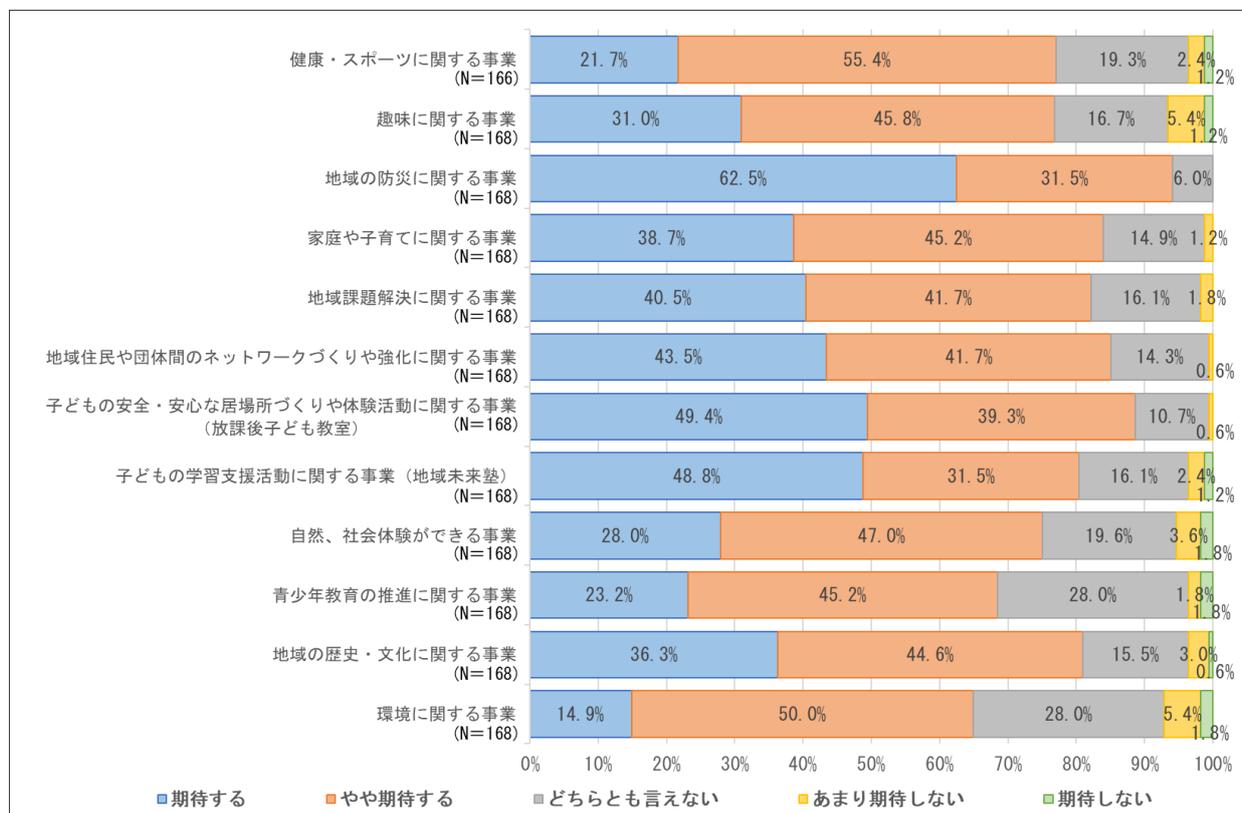
- 男女別、年齢別、所属する小学校の地区別に関係無く、地域の防災に関する事業に対する期待が最も高くなりました。（図表 5-10、5-11、5-12、5-13、5-14、5-15、5-16、5-17、5-18、5-19 参照）
- 50 歳以上において、地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業に対する期待が高くなりました。（図表 5-15 参照）
- 所属する小学校の地区別にみると、すべての地区で概ね同様の傾向を示したものの、小松地区では総じて公民館に対する期待が低くなる傾向がみられました。（図表 5-19 参照）

図表 5-10 によると、「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）」「子どもの学習支援活動に関する事業（地域未来塾）」に対する期待が高くなりました。

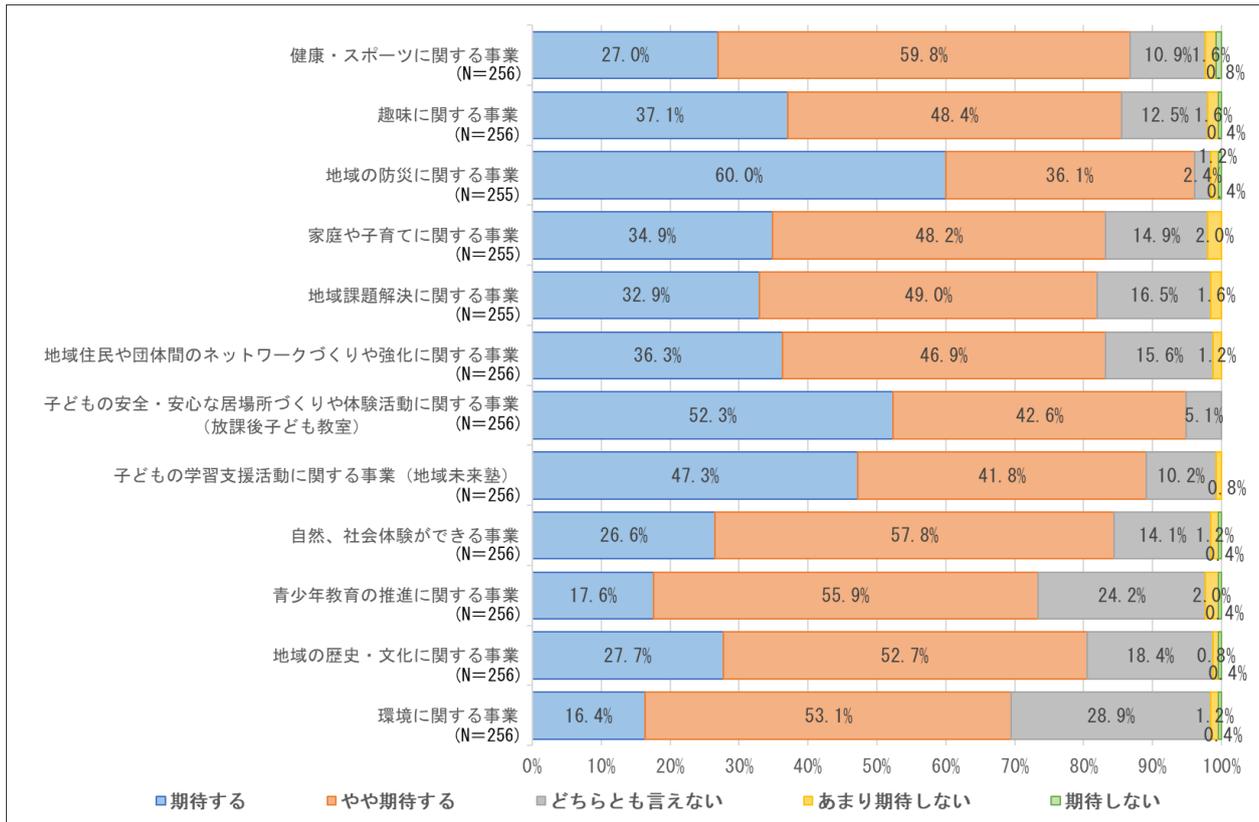


図表 5-10 公民館における事業別期待度 (単純集計)

図表 5-11、5-12 によると、男女別に大きな差異はみられず、「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)」「子どもの学習支援活動に関する事業 (地域未来塾)」に対する期待が高くなりました。

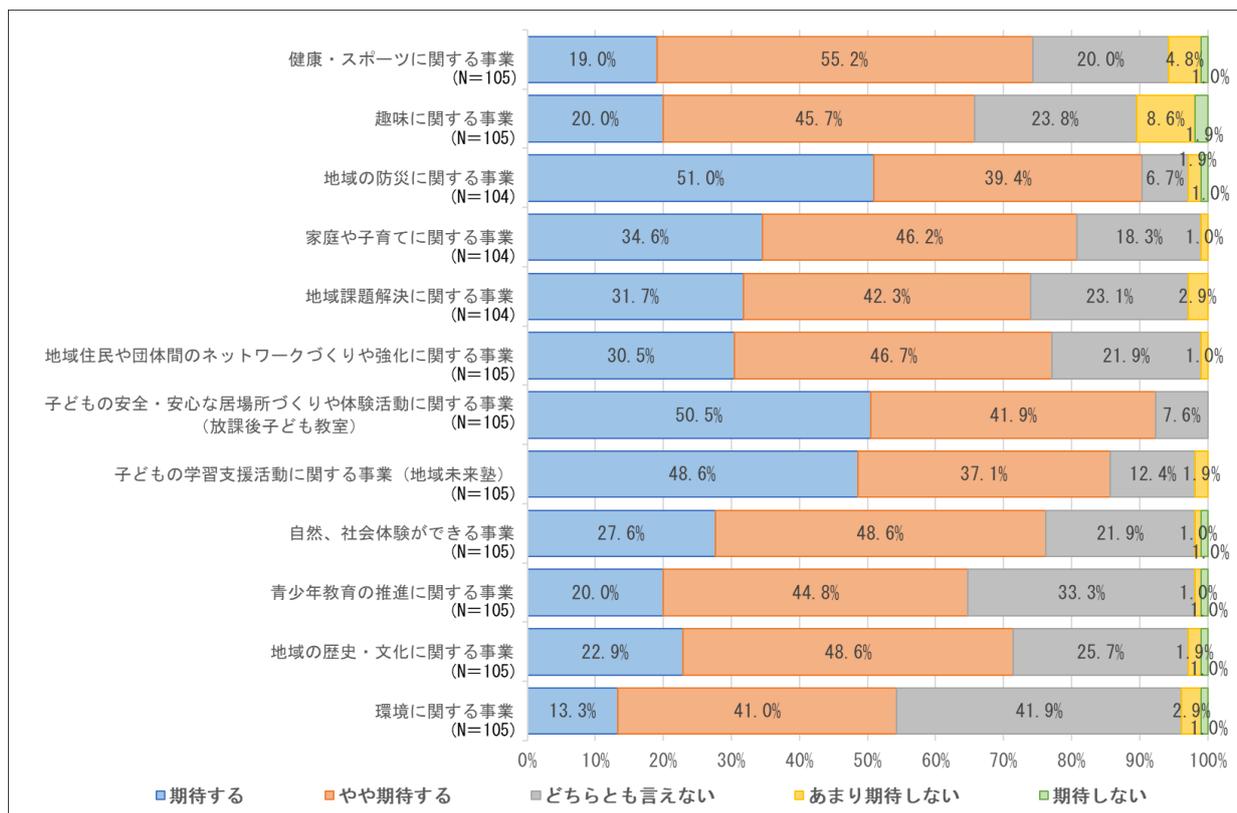


図表 5-11 公民館における事業別期待度 (男性)

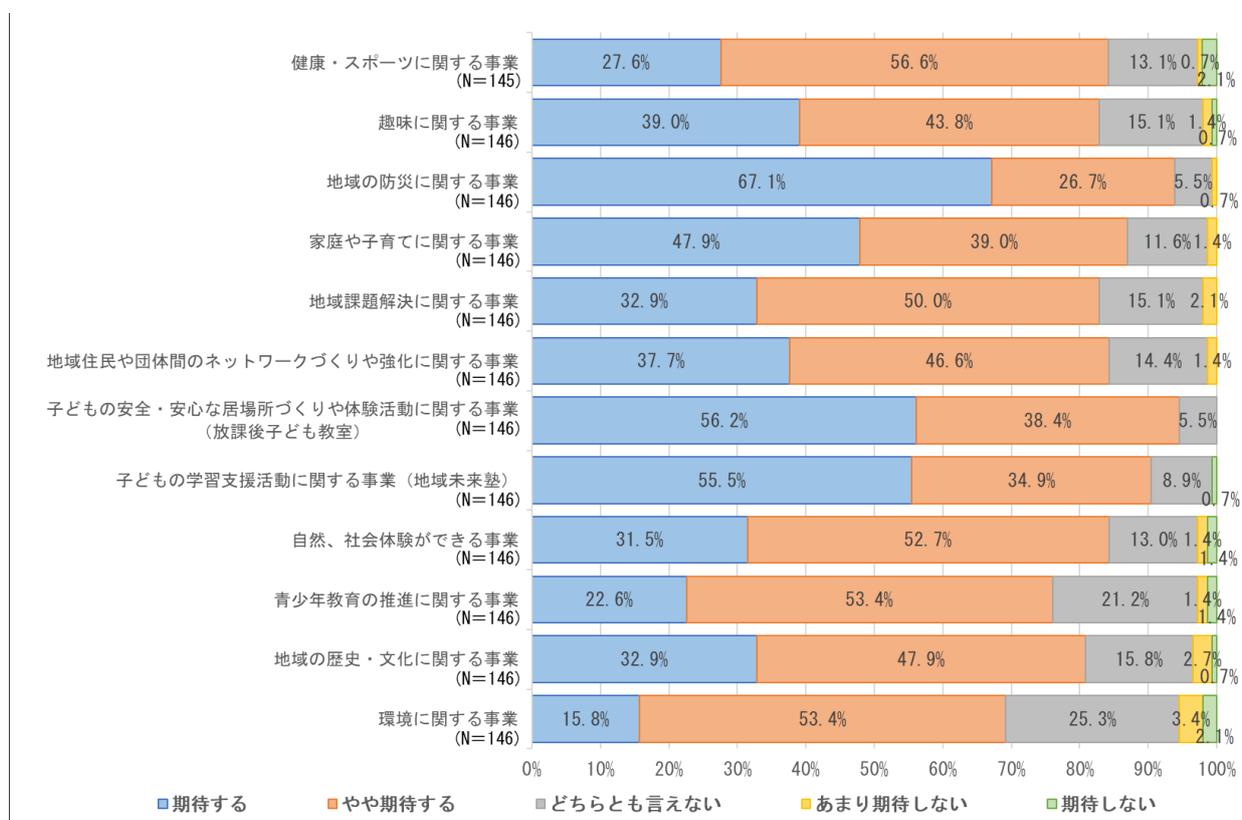


図表 5-12 公民館における事業別期待度 (女性)

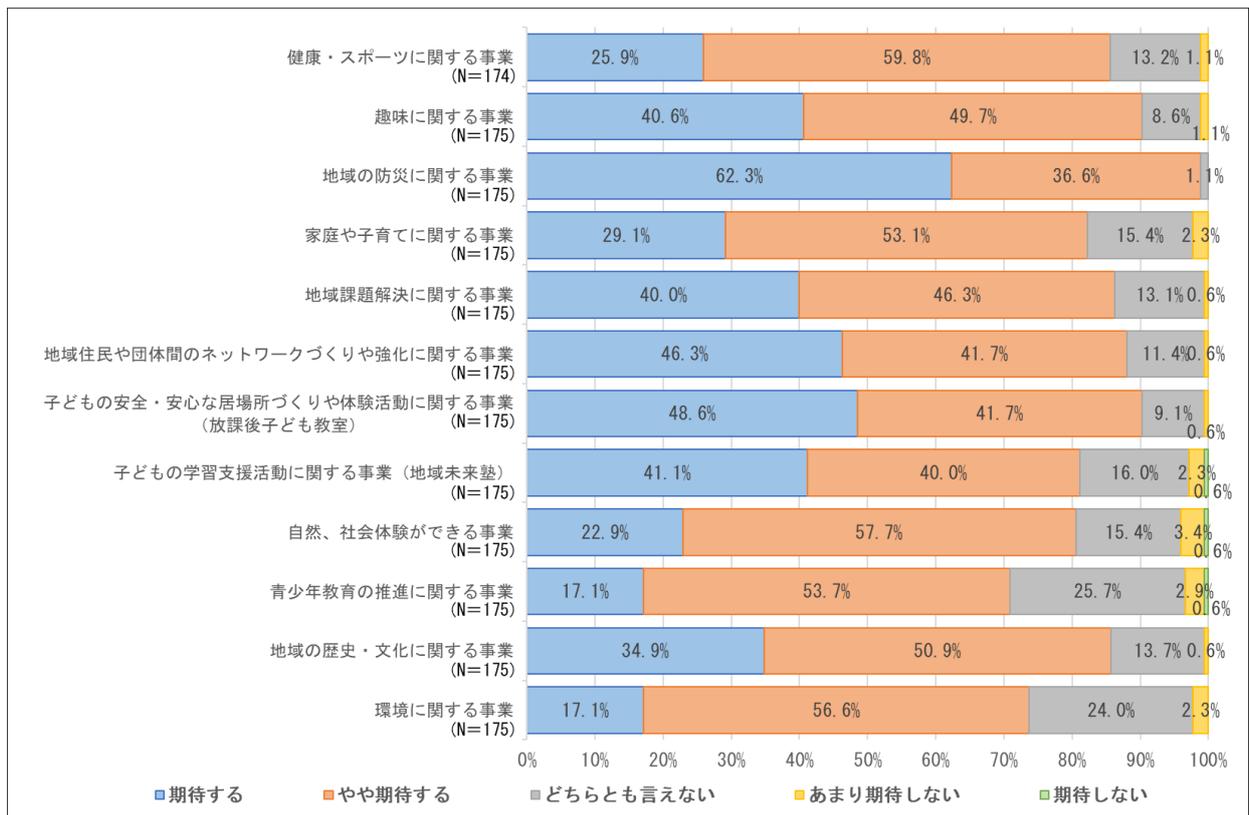
図表 5-13、5-14、5-15 によると、49 歳以下で「地域の防災に関する事業」に次いで「子どもの安全・安心な場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)」「子どもの学習支援活動に関する事業 (地域未来塾)」に対する期待が高くなる一方で、50 歳以上では「地域の防災に関する事業」に次いで「子どもの安全・安心な場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)」「地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業」に対する期待が高くなりました。



図表 5-13 公民館における事業別期待度 (29歳以下)

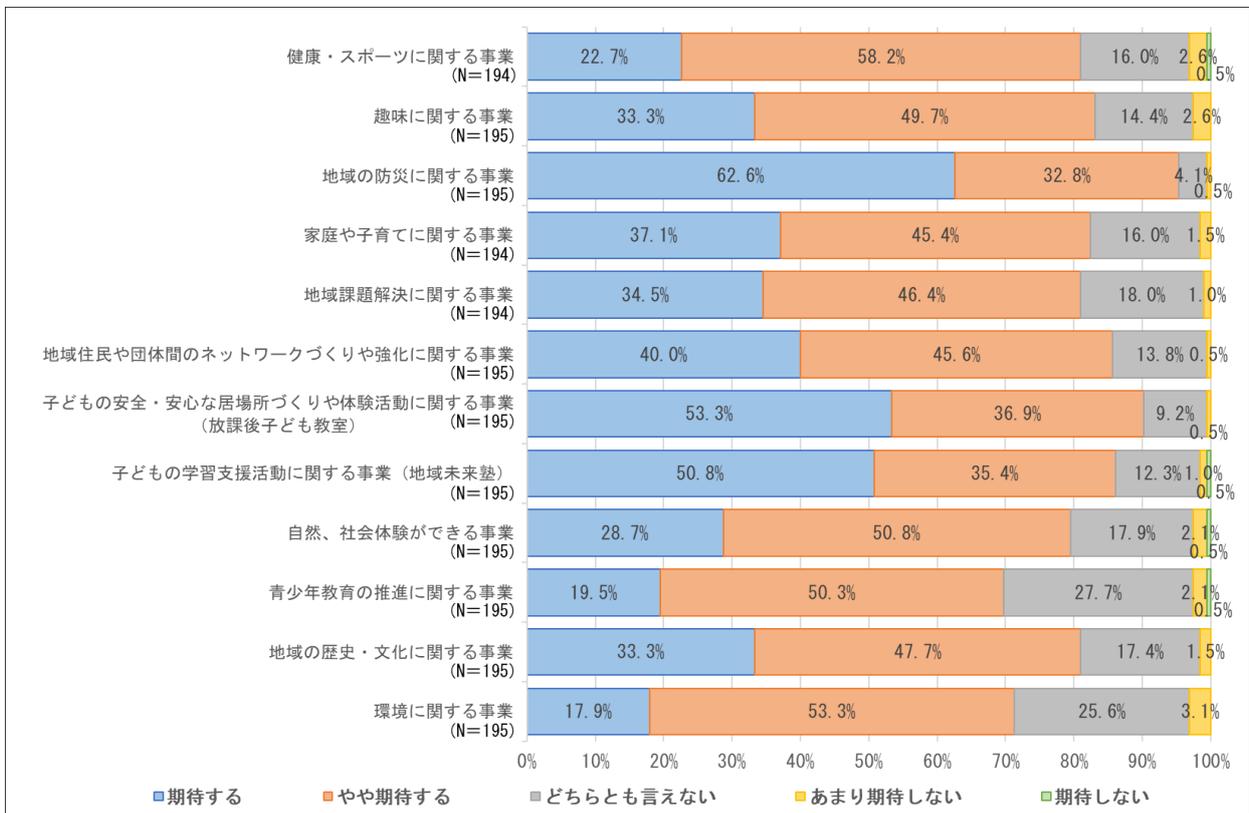


図表 5-14 公民館における事業別期待度 (30~49歳)

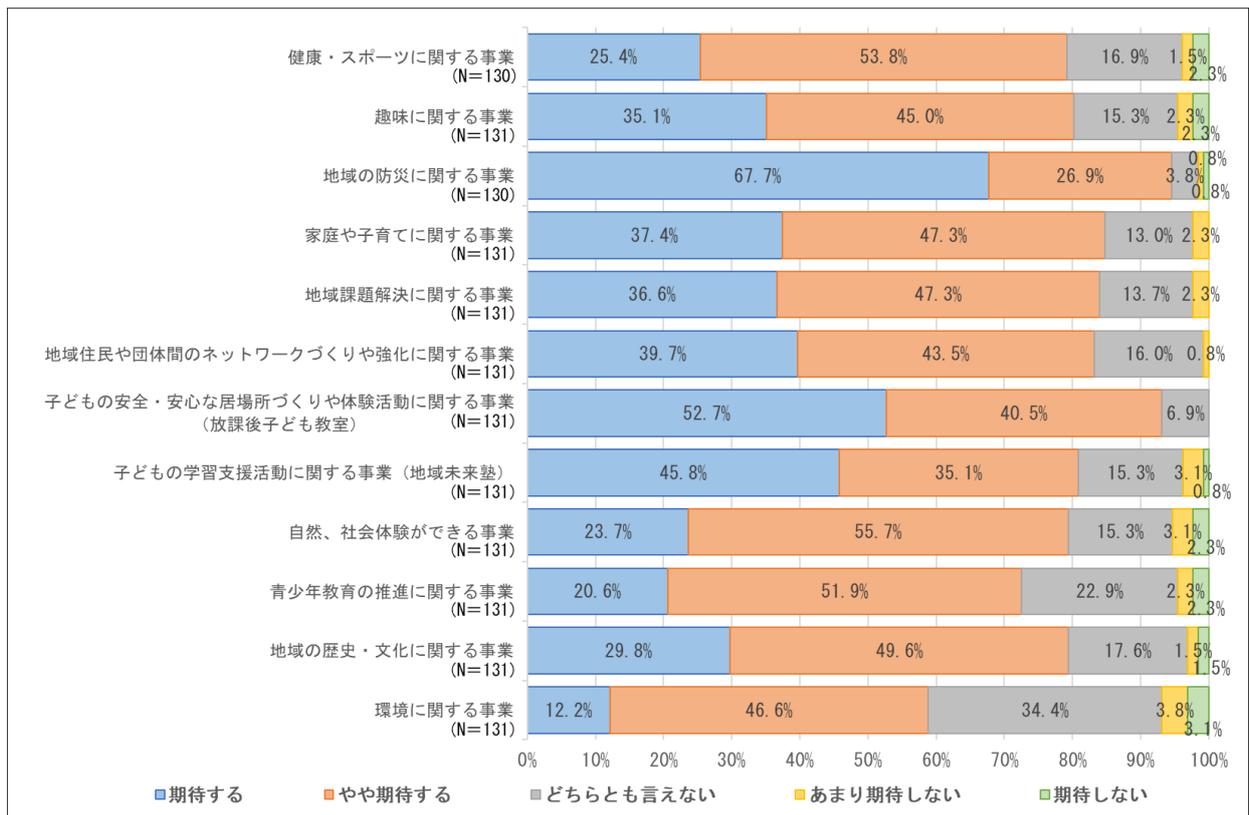


図表 5-15 公民館における事業別期待度 (50歳以上)

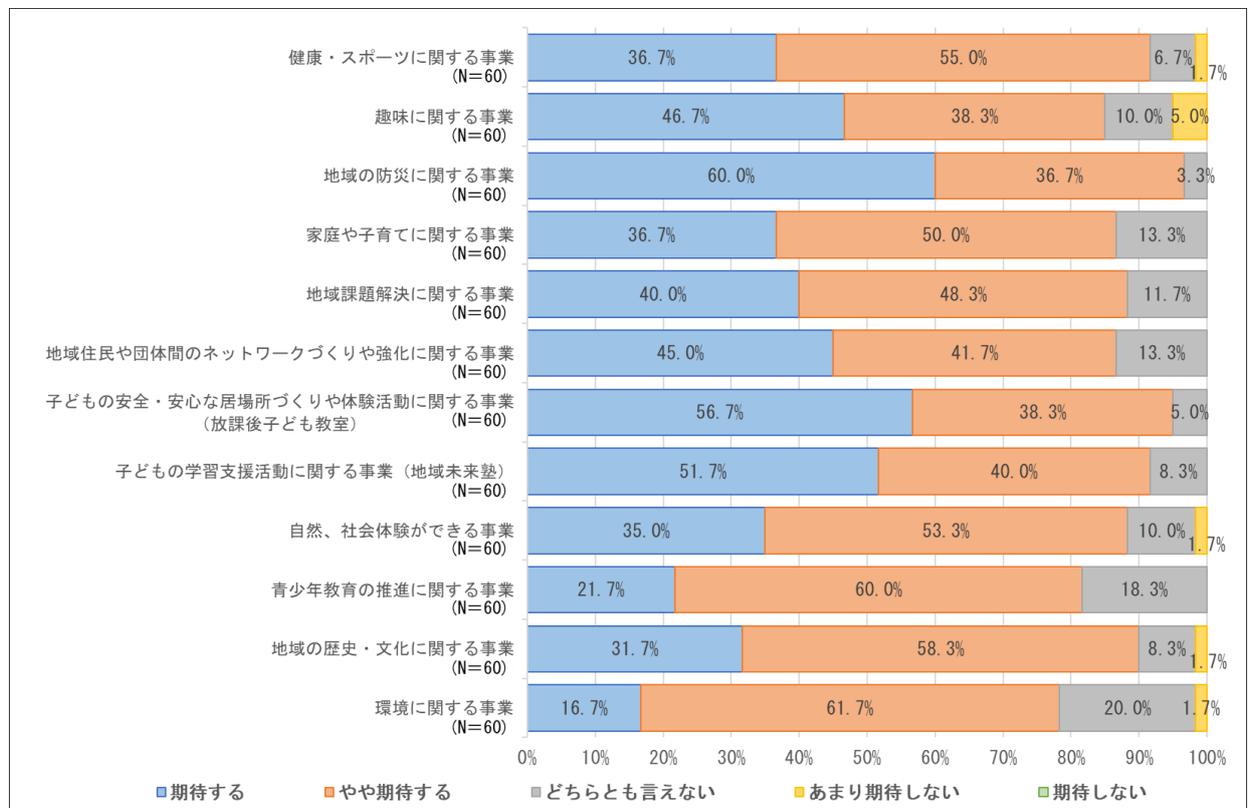
図表 5-16、5-17、5-18、5-19 によると、すべての地区を通じて概ね同様の傾向がみられる一方で、小松地区では総じて公民館に対する期待が低くなりました。



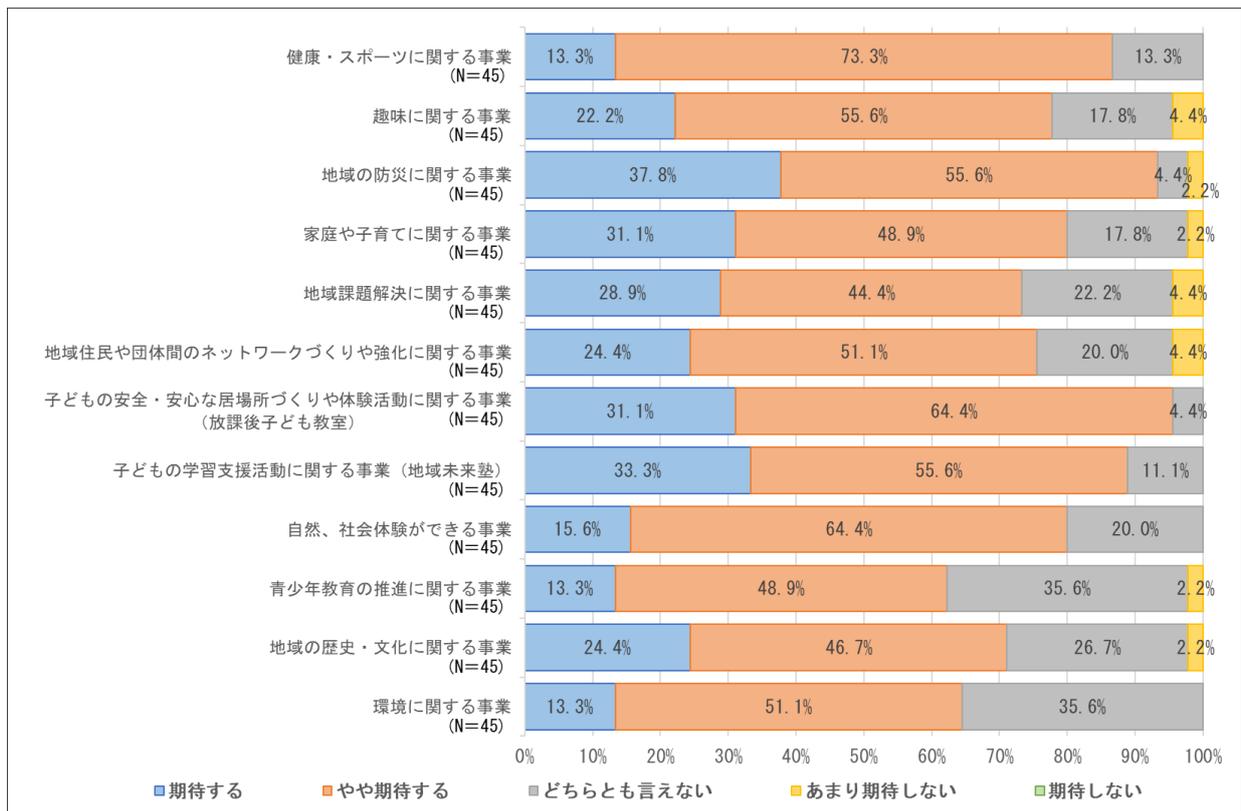
図表 5-16 公民館における事業別期待度 (西条地区)



図表 5-17 公民館における事業別期待度 (東予地区)



図表 5-18 公民館における事業別期待度 (丹原地区)



図表 5-19 公民館における事業別期待度 (小松地区)

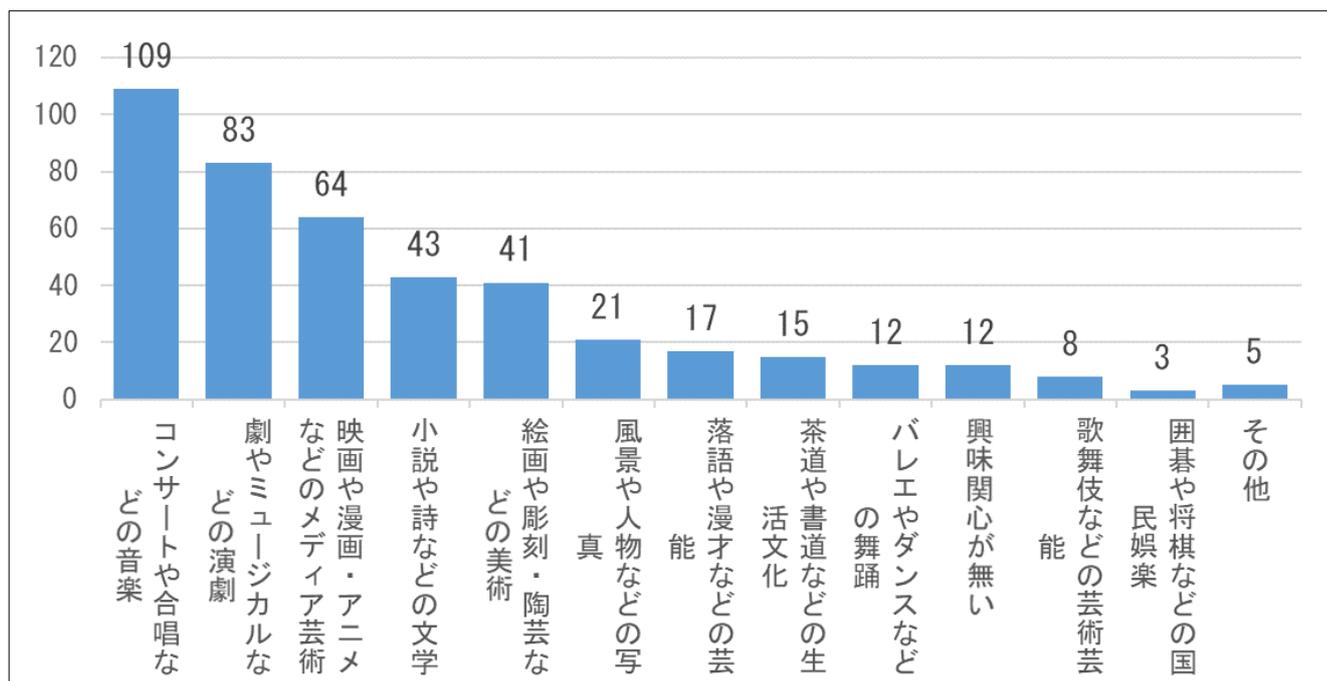
6 地域文化・歴史文化について

(1) 小学校教員における芸術文化に対する興味関心

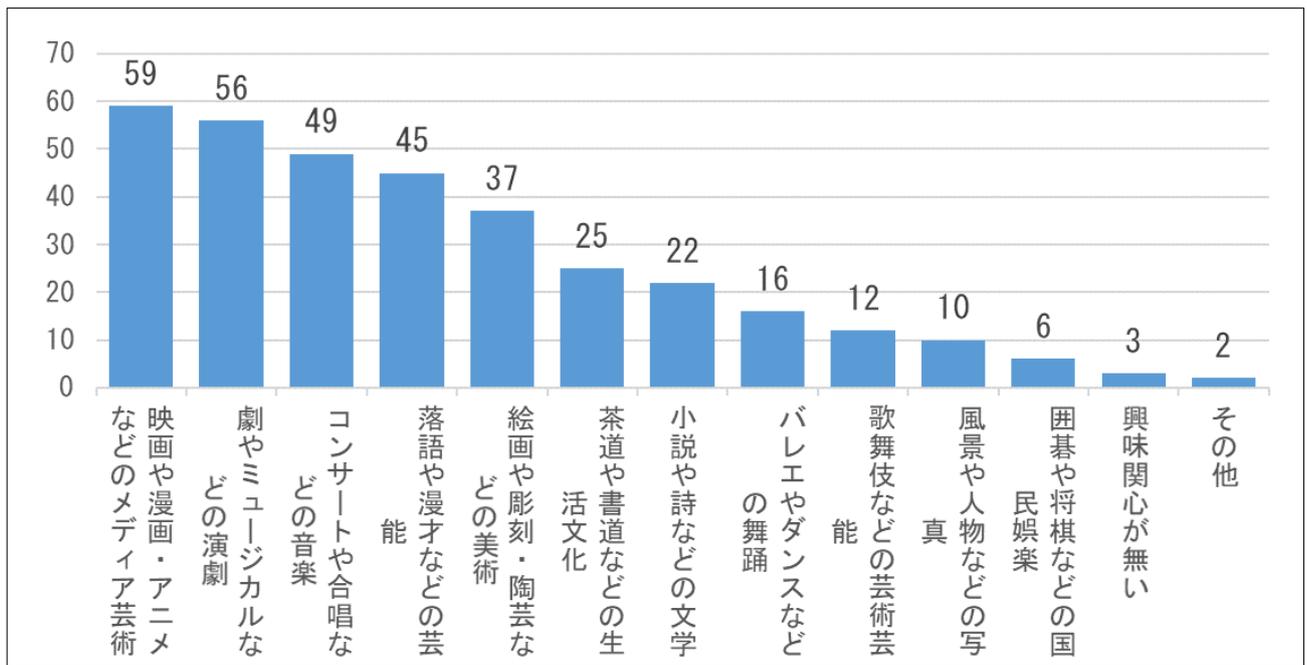
【結果概要】

- 「コンサートや合唱などの音楽」「劇やミュージカルなどの演劇」など、学校教育と密接に関係する項目が高くなる中、男性や29歳以下においては、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」が高くなる傾向がみられました。(図表6-1、6-3、6-4参照)
- 所属する小学校の地区によって、興味関心を抱く項目に差異が生じています。(図表6-5参照)

図表6-1によると、「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が最も多くなり、次いで「劇やミュージカルなどの演劇」「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が多くなりました。また、図表6-2によると、第2選択でも同じく「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「劇やミュージカルなどの演劇」「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が多くなりました。

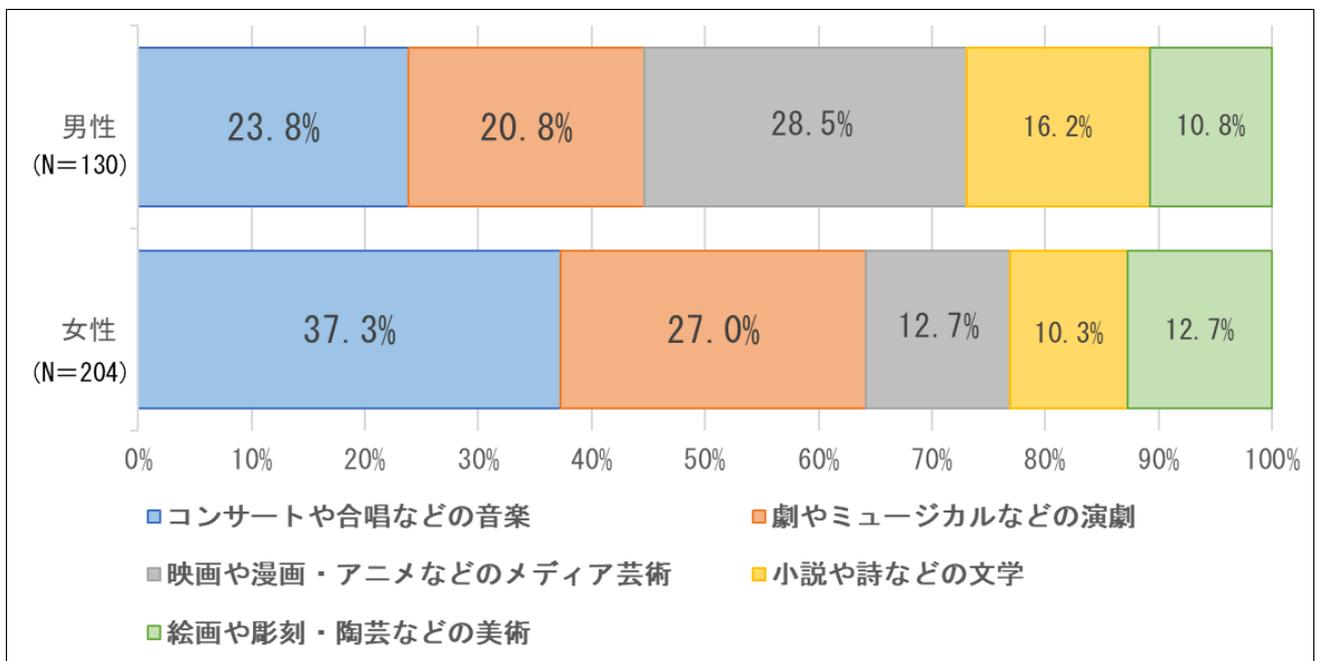


図表6-1 芸術文化に対する興味関心（第1選択・単純集計）（N=433）



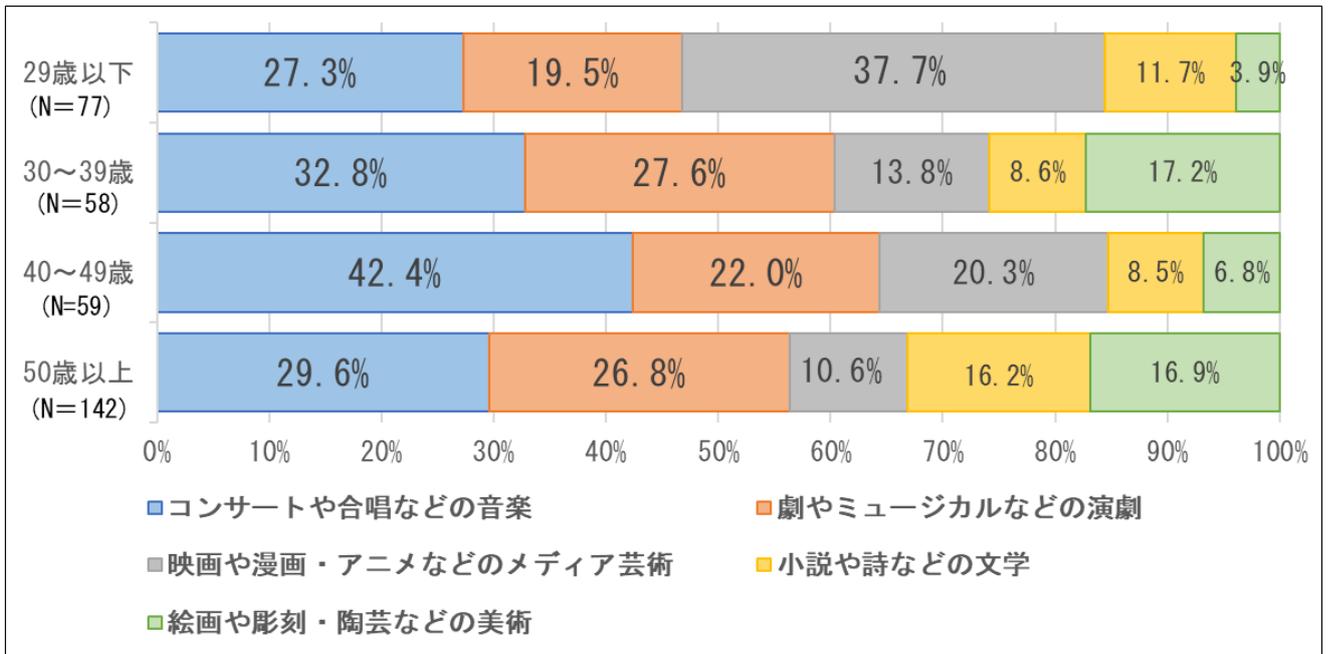
図表6-2 芸術文化に対する興味関心（第2選択・単純集計）（N=342）

図表6-3によると、男性では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が最も高くなり、女性では「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなりました。



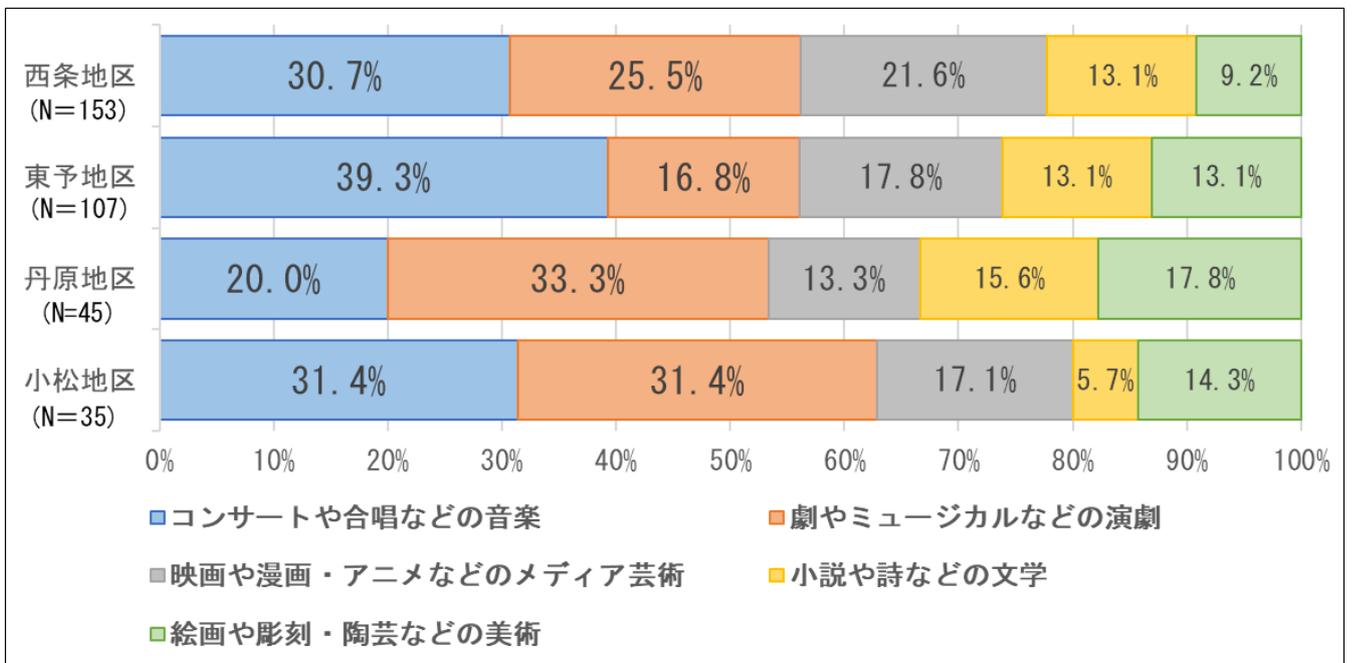
図表6-3 芸術文化に対する興味関心（第1選択上位5項目・男女別）

図表6-4によると、29歳以下では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が最も高くなり、30歳以上のすべての年齢で「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 6-4 芸術文化に対する興味関心（年齢別）

図表 6-5 によると、西条地区と東予地区で「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなる一方で、丹原地区では「劇やミュージカルなどの演劇」と回答した比率が最も高くなる傾向がみられました。また、小松地区では「コンサートや合唱などの音楽」と「劇やミュージカルなどの演劇」と回答した比率が同じとなりました。



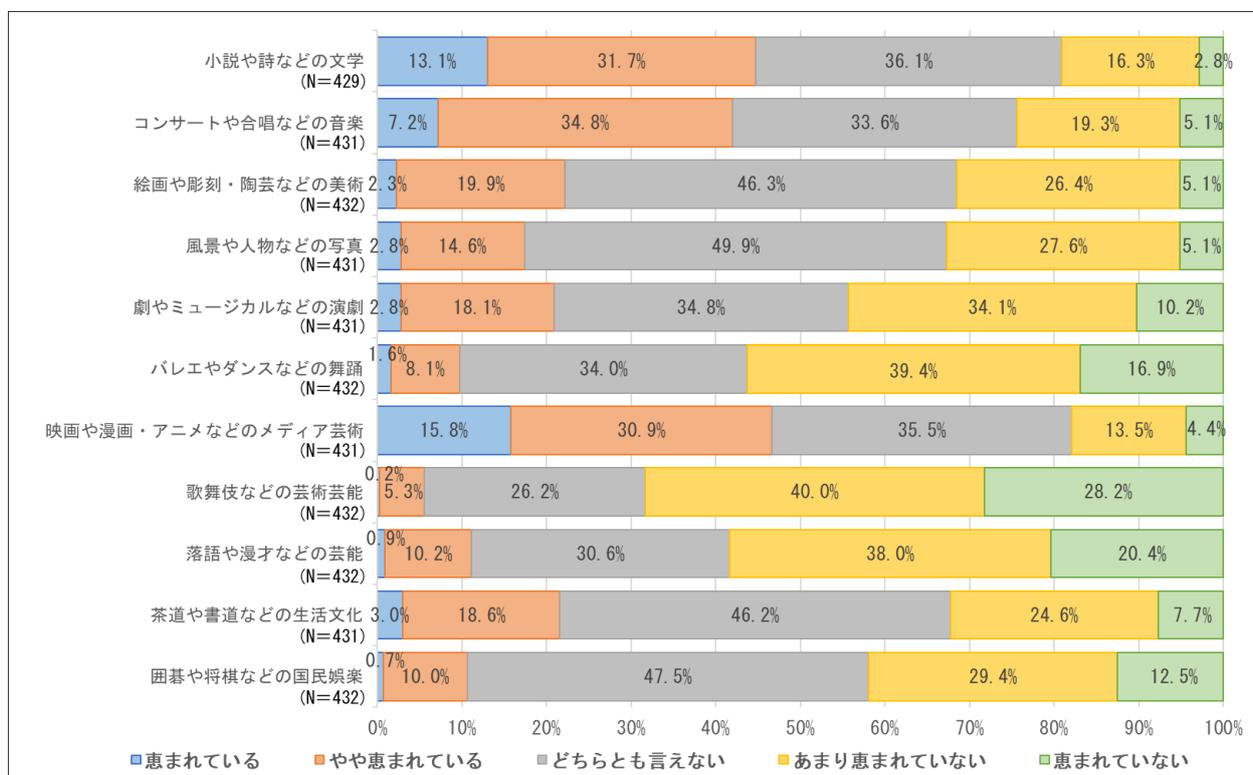
図表 6-5 芸術文化に対する興味関心（所属する小学校の地区別）

(2) 小学校教員における芸術文化に触れる機会の充実度

【結果概要】

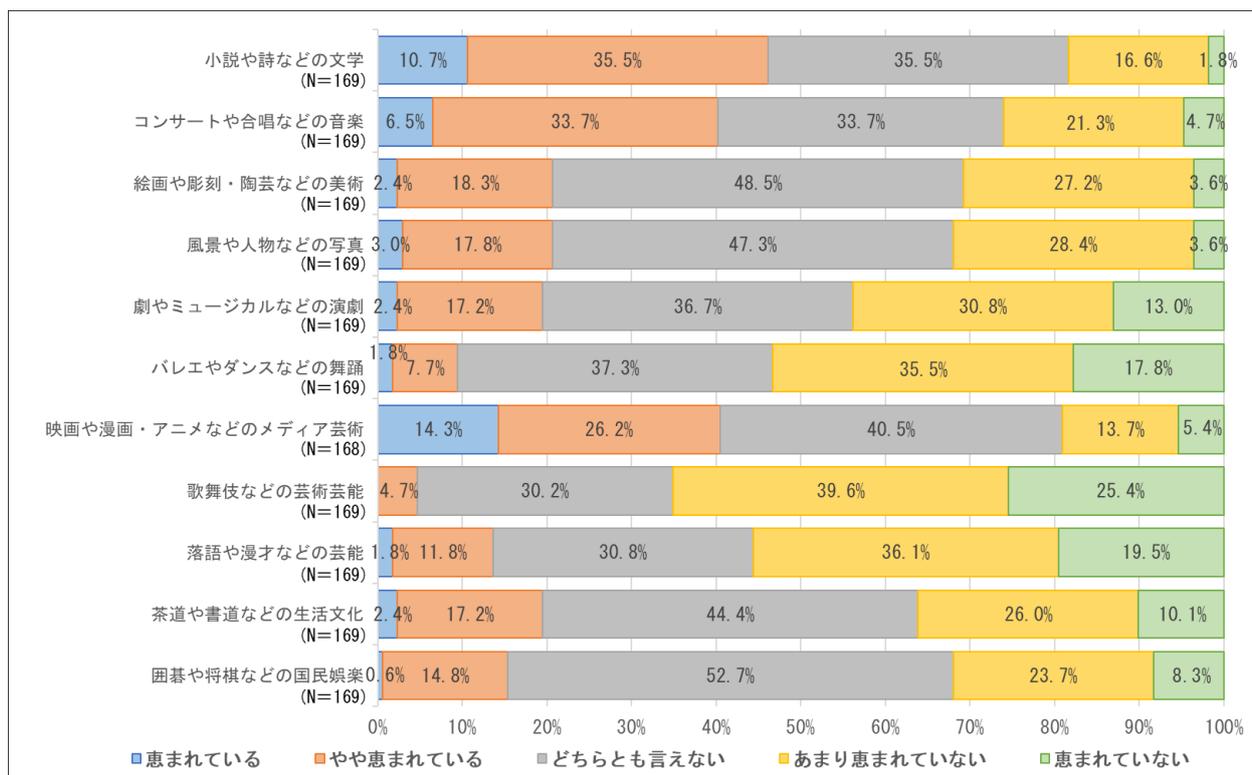
- 男女、年齢、所属する小学校の地区に関係無く、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「小説や詩などの文学」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなる傾向がみられました。(図表 6-6、6-7、6-8、6-9、6-10、6-11、6-12、6-13、6-14、6-15 参照)
- 年齢別にみると、総じて 30～49 歳において芸術文化に触れる機会の充実度が高くなりました。(図表 6-9、6-10、6-11 参照)
- 所属する小学校の地区別にみると、他地区と比較して小松地区で異なる傾向を示し、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が低くなる傾向がみられました。(図表 6-12、6-13、6-14、6-15 参照)

図表 6-6 によると、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「小説や詩などの文学」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。

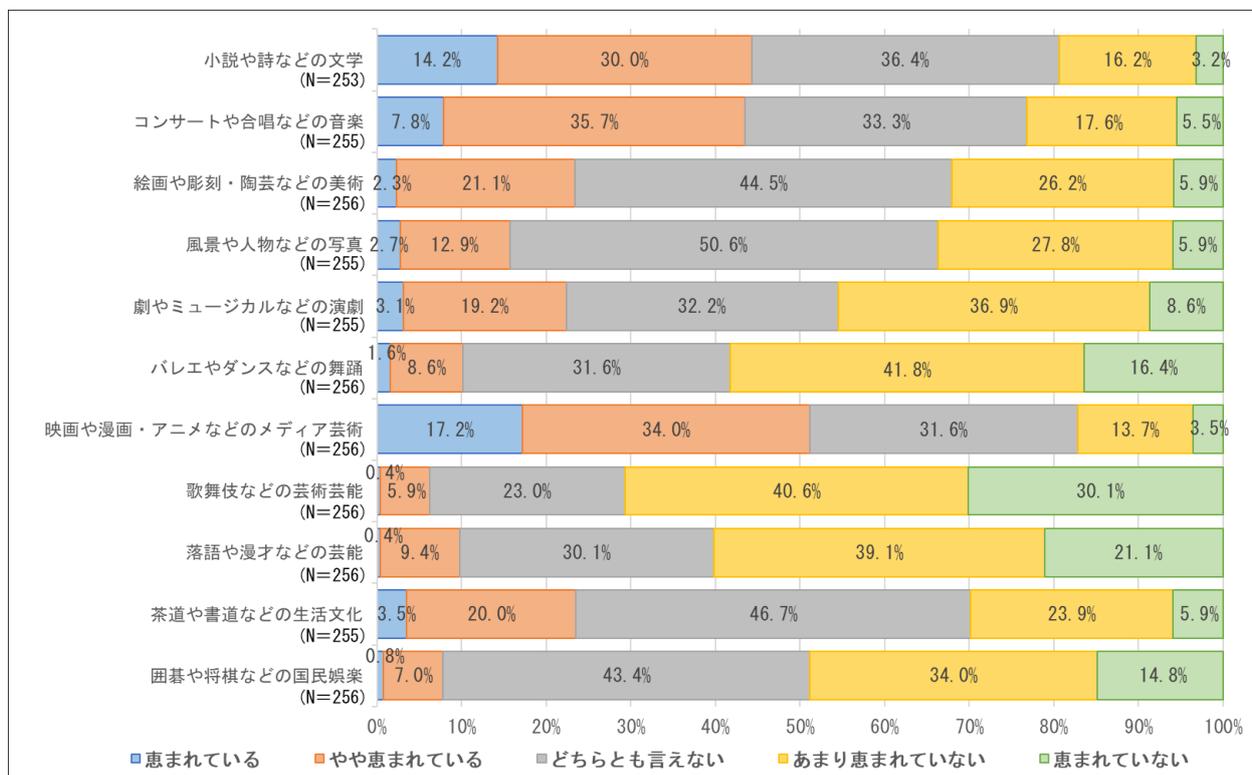


図表 6-6 芸術文化に触れる機会の充実度 (単純集計)

図表 6-7、6-8 によると、男女別で若干違いがみられるものの、概ね同じ傾向を示しました。

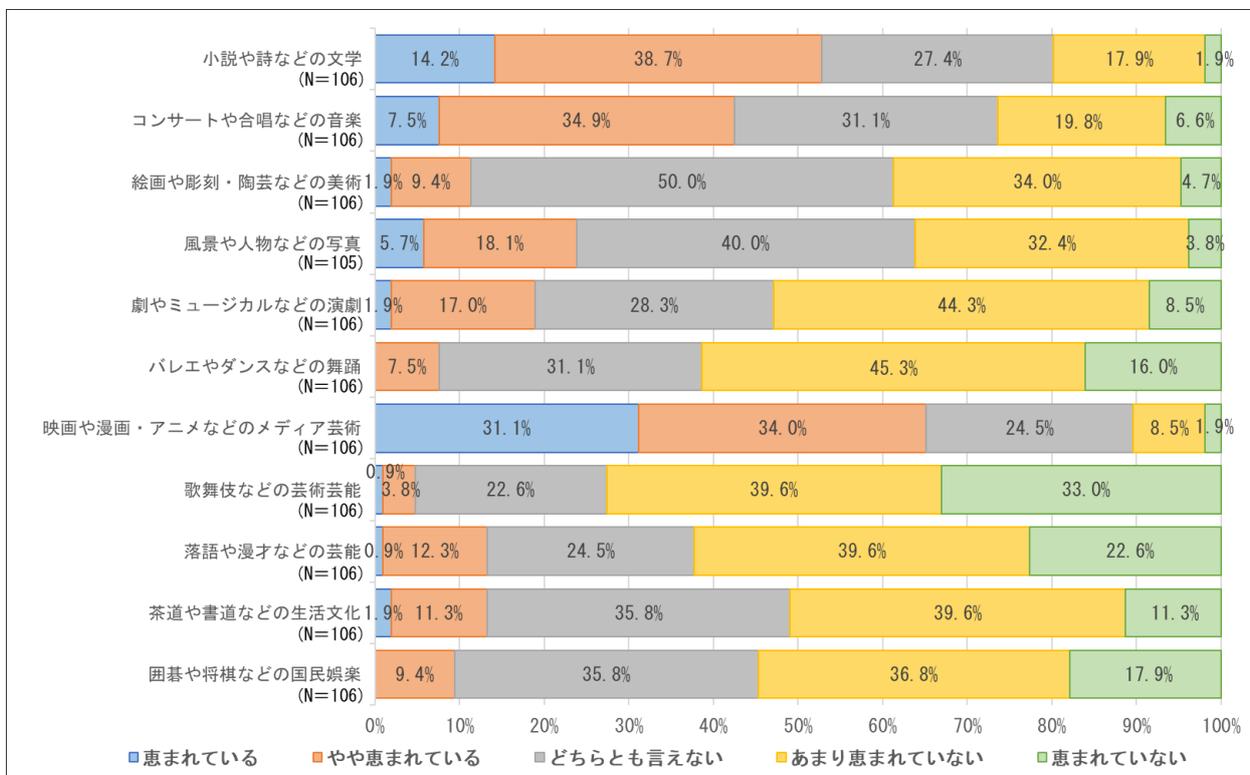


図表 6-7 芸術文化に触れる機会の充実度（男性）

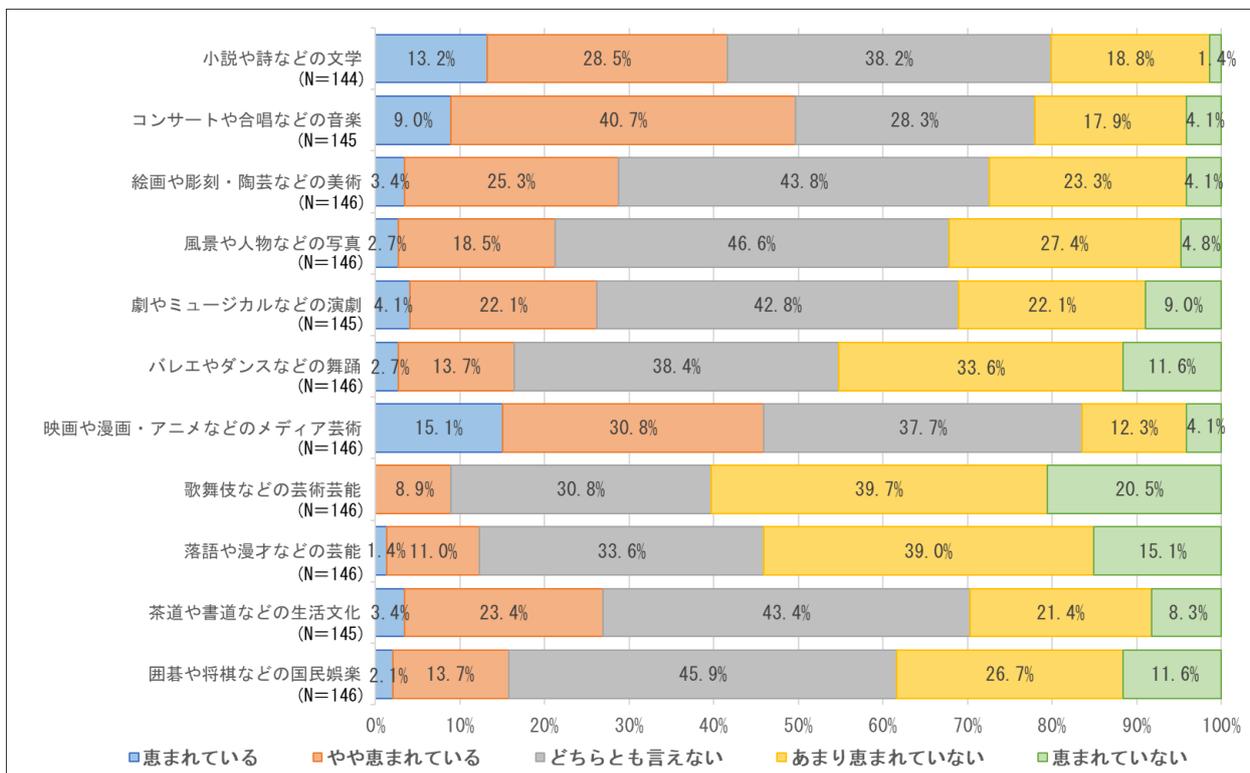


図表 6-8 芸術文化に触れる機会の充実度（女性）

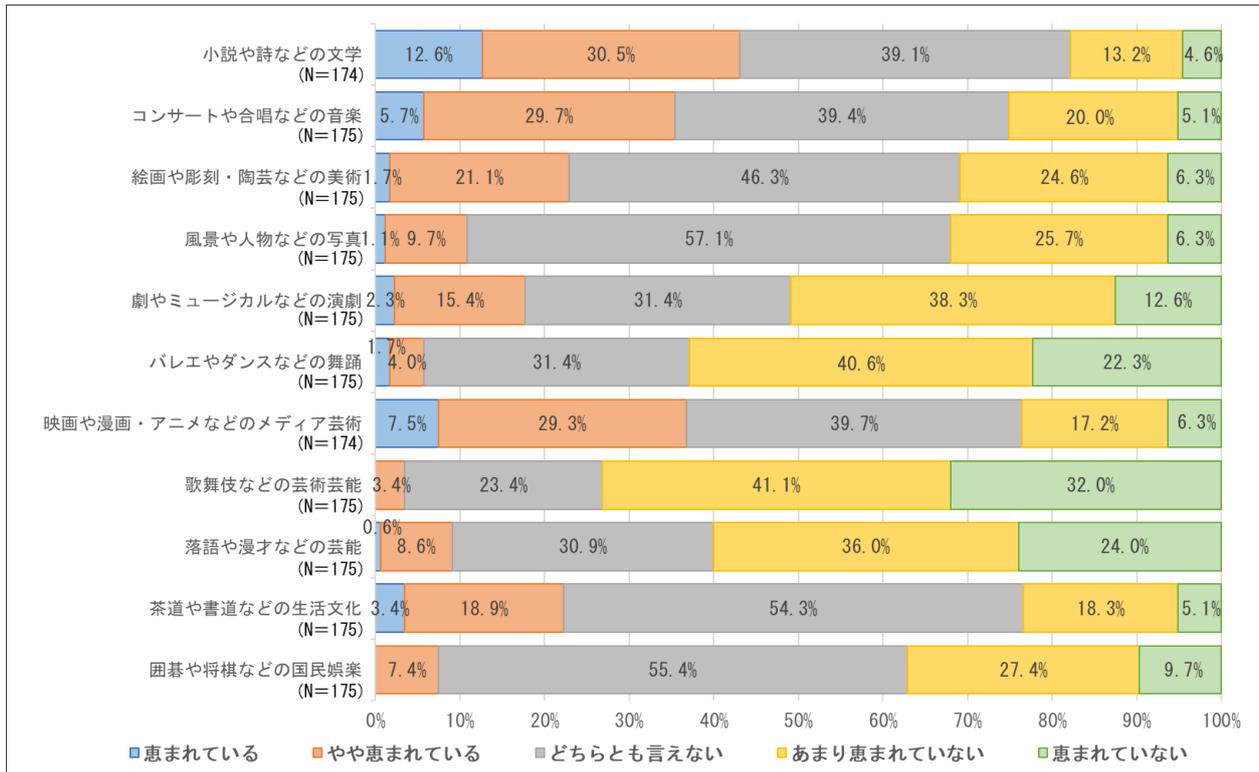
図表 6-9、6-10、6-11 によると、29 歳以下で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて低くなる傾向がみられました。また、30～49 歳においては、他の年齢と比較し、総じて芸術文化に触れる機会の充実度が高くなる傾向がみられました。



図表 6-9 芸術文化に触れる機会の充実度（29 歳以下）

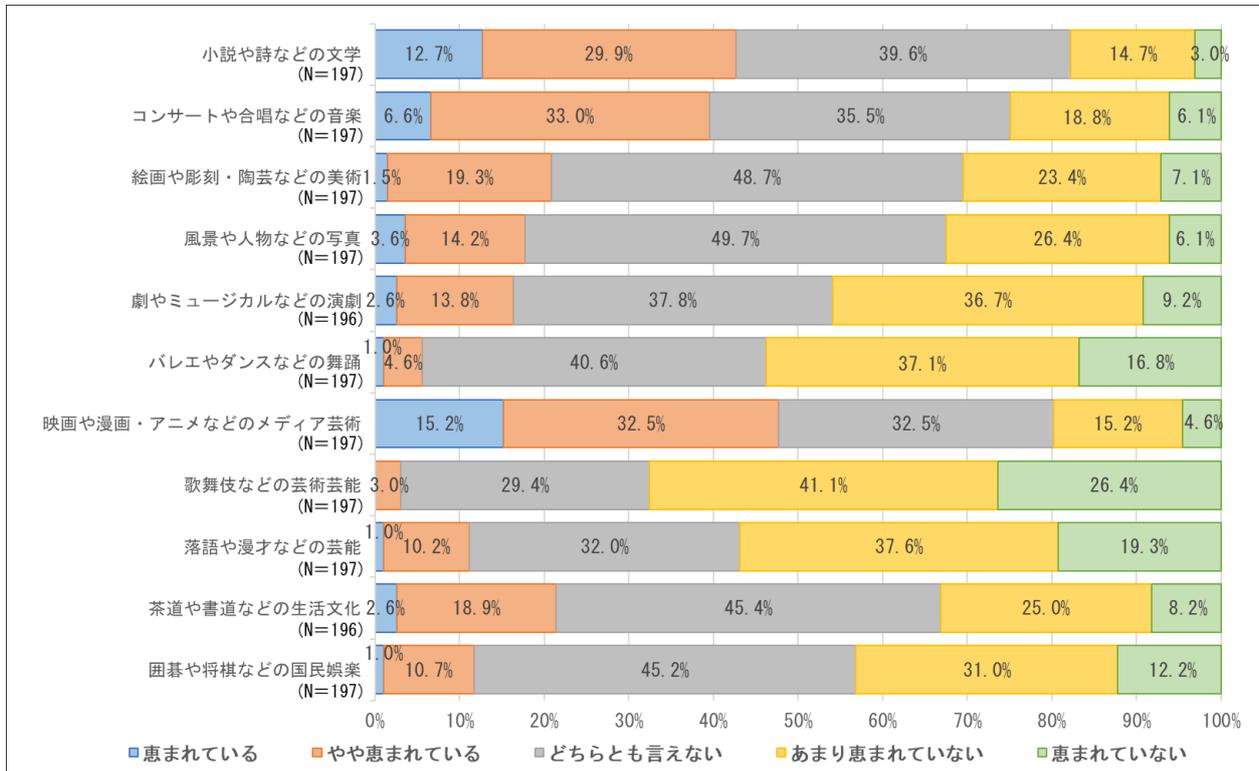


図表 6-10 芸術文化に触れる機会の充実度（30～49 歳）

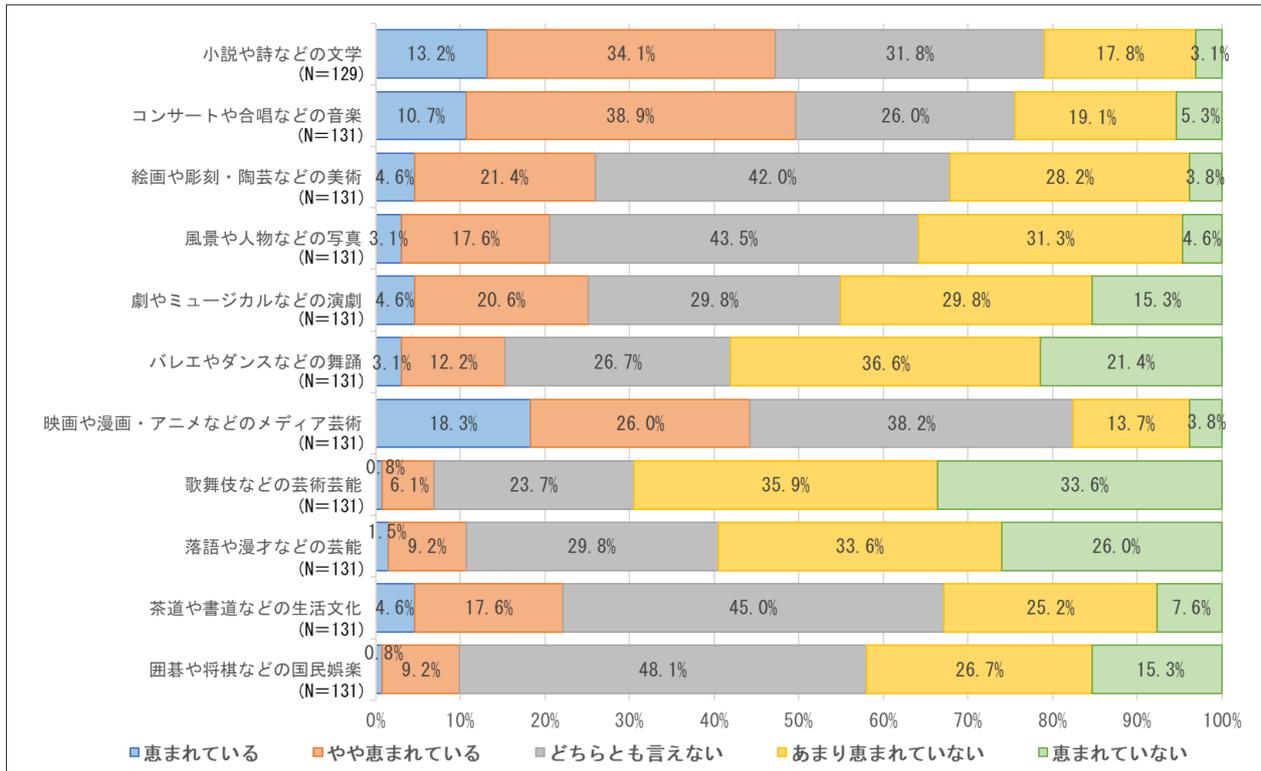


図表 6-11 芸術文化に触れる機会の充実度（50歳以上）

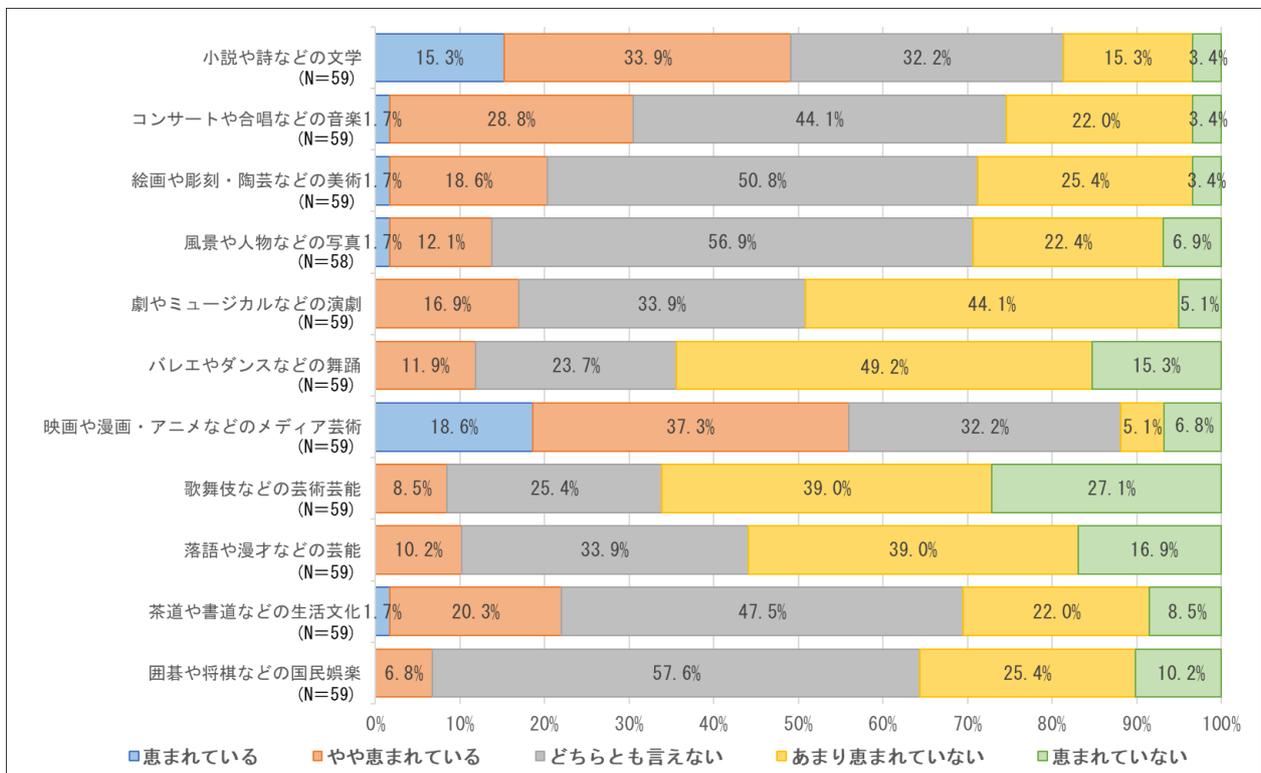
図表 6-12、6-13、6-14、6-15 によると、西条地区、東予地区、丹原地区では若干の差異がみられるものの、総じて同じ傾向を示しました。一方で、小松地区では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が低くなるなど、他地区と比較して異なる傾向がみられました。



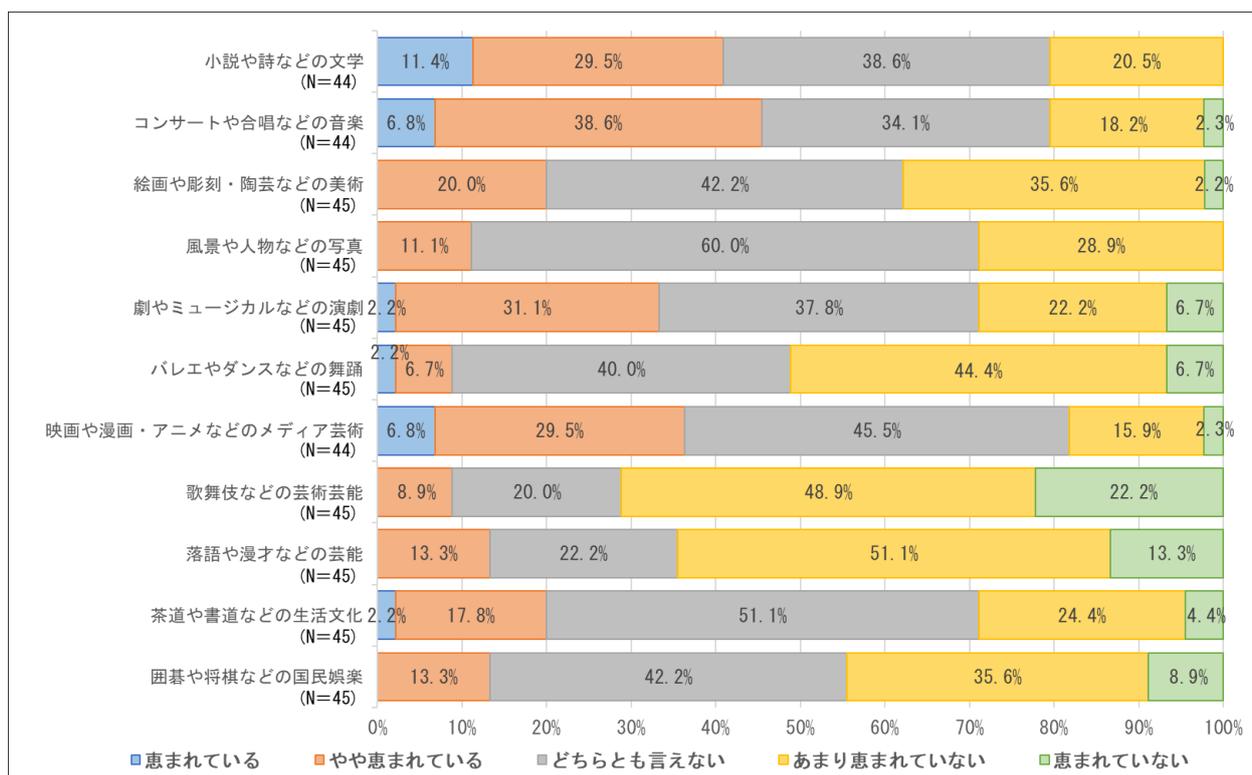
図表 6-12 芸術文化に触れる機会の充実度（西条地区）



図表 6-13 芸術文化に触れる機会の充実度（東予地区）



図表 6-14 芸術文化に触れる機会の充実度（丹原地区）



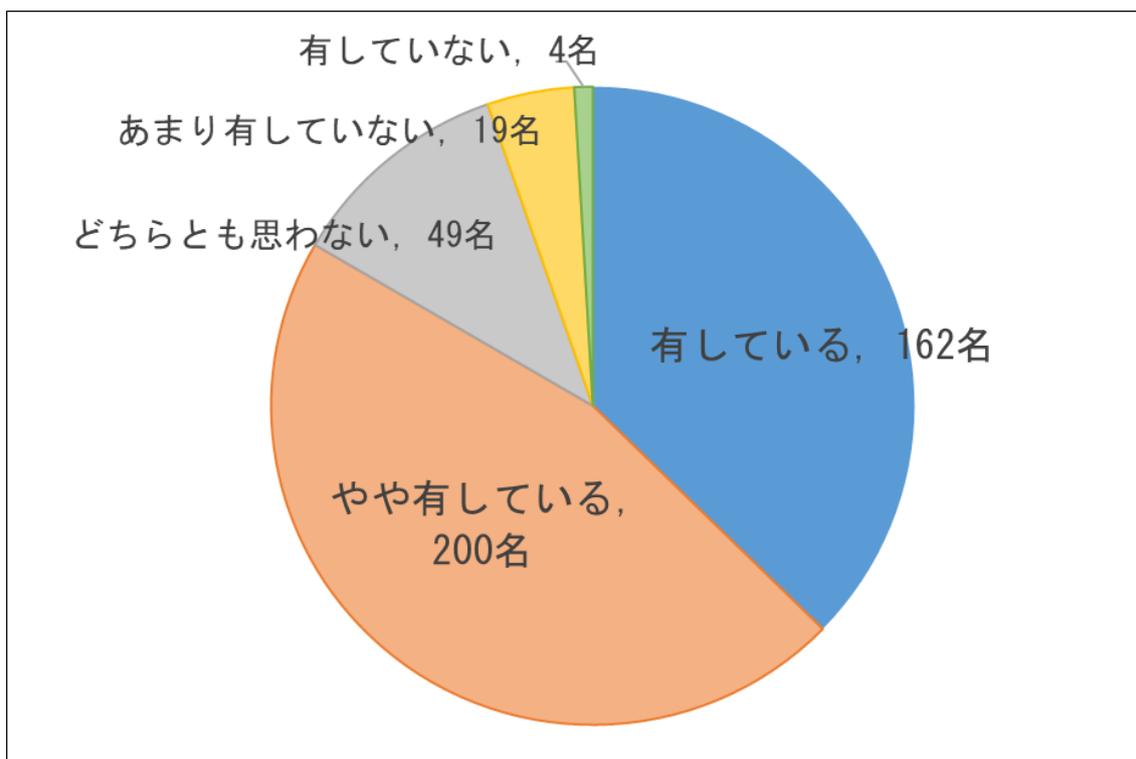
図表 6-15 芸術文化に触れる機会の充実度（小松地区）

（3）小学校教員におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度

【結果概要】

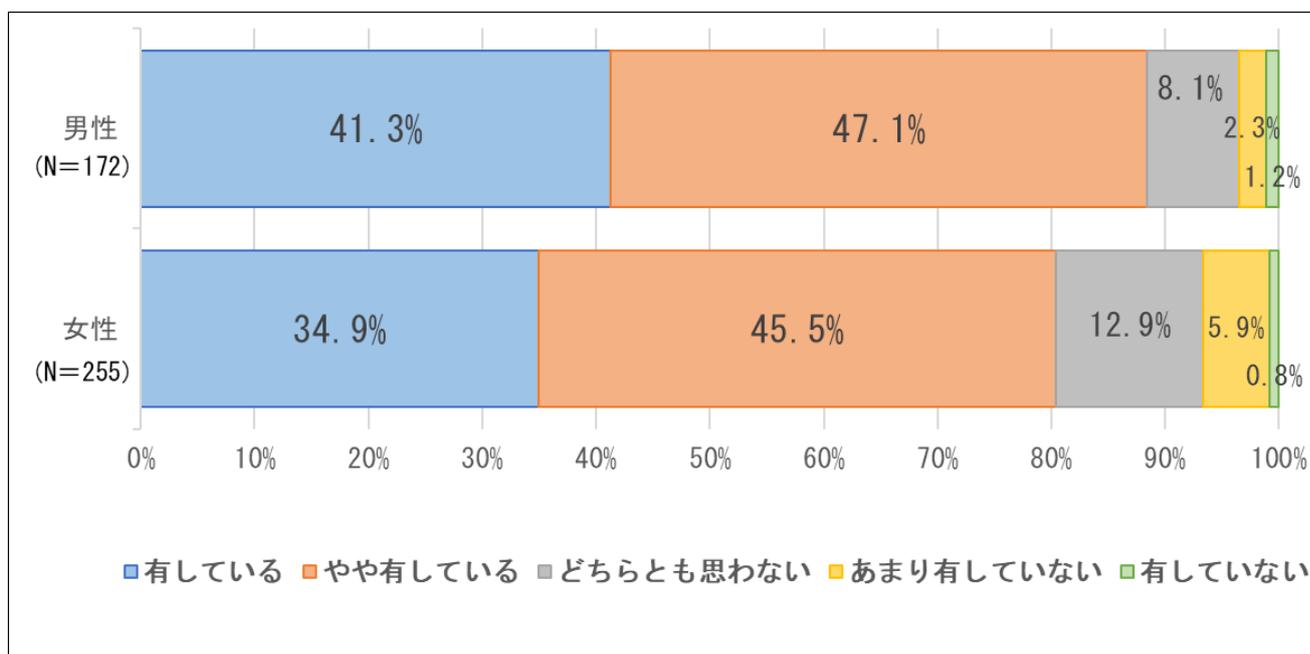
- 多くの教員がふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を有していると回答する結果となりました。（図表 6-16 参照）
- 年齢が低くなるにつれて、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「あまり有していない」「有していない」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。（図表 6-18 参照）

図表 6-16 によると、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度を「有している」「やや有している」と回答した方が多くなり、「あまり有していない」「有していない」と回答した方を大きく上回りました。



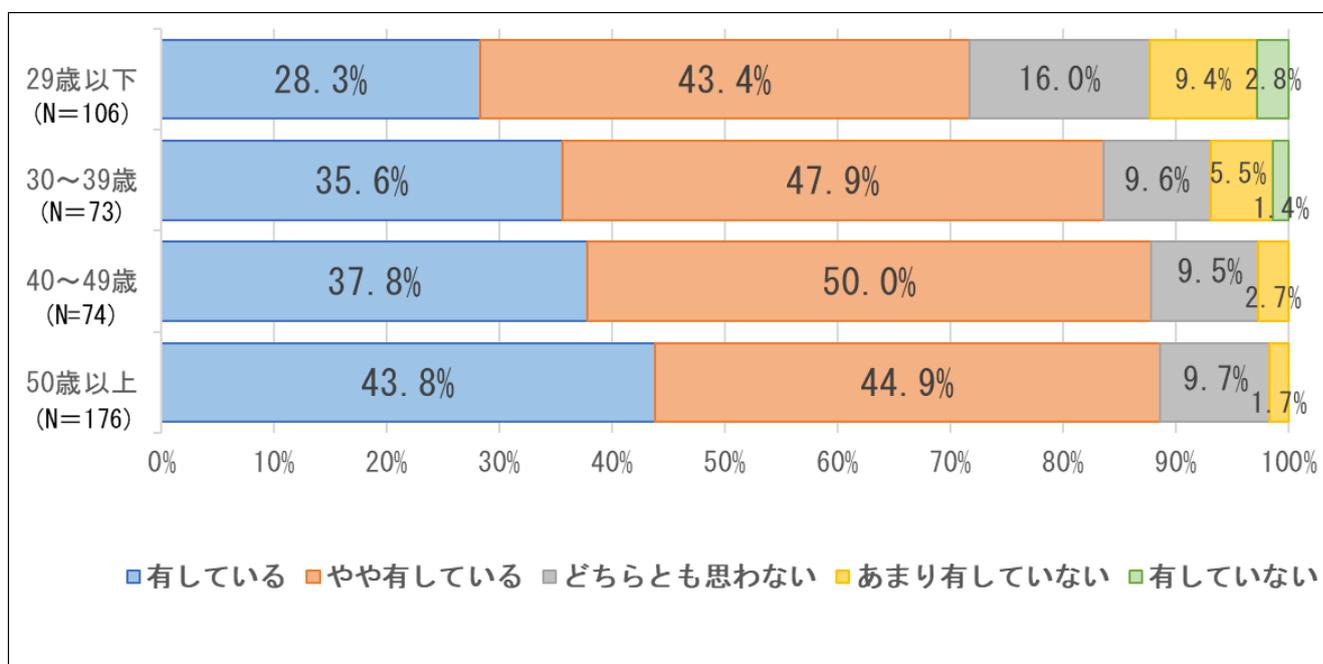
図表 6-16 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（単純集計）（N=434）

図表 6-17 によると、女性と比較して男性の方において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が高くなりました。



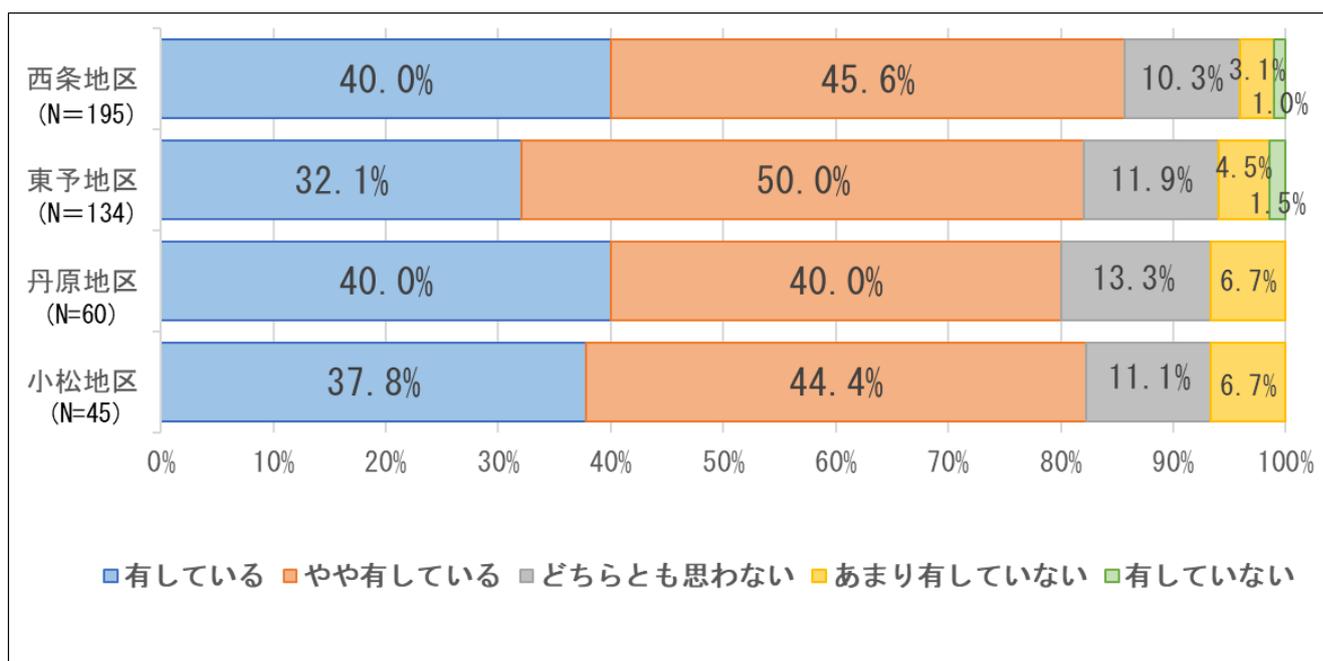
図表 6-17 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（男女別）

図表 6-18 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、29歳以下では、約1割の方が「あまり有していない」「有していない」と回答する結果となりました。



図表 6-18 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（年齢別）

図表 6-19 によると、すべての地区を通じて大きな差異はみられませんでした。



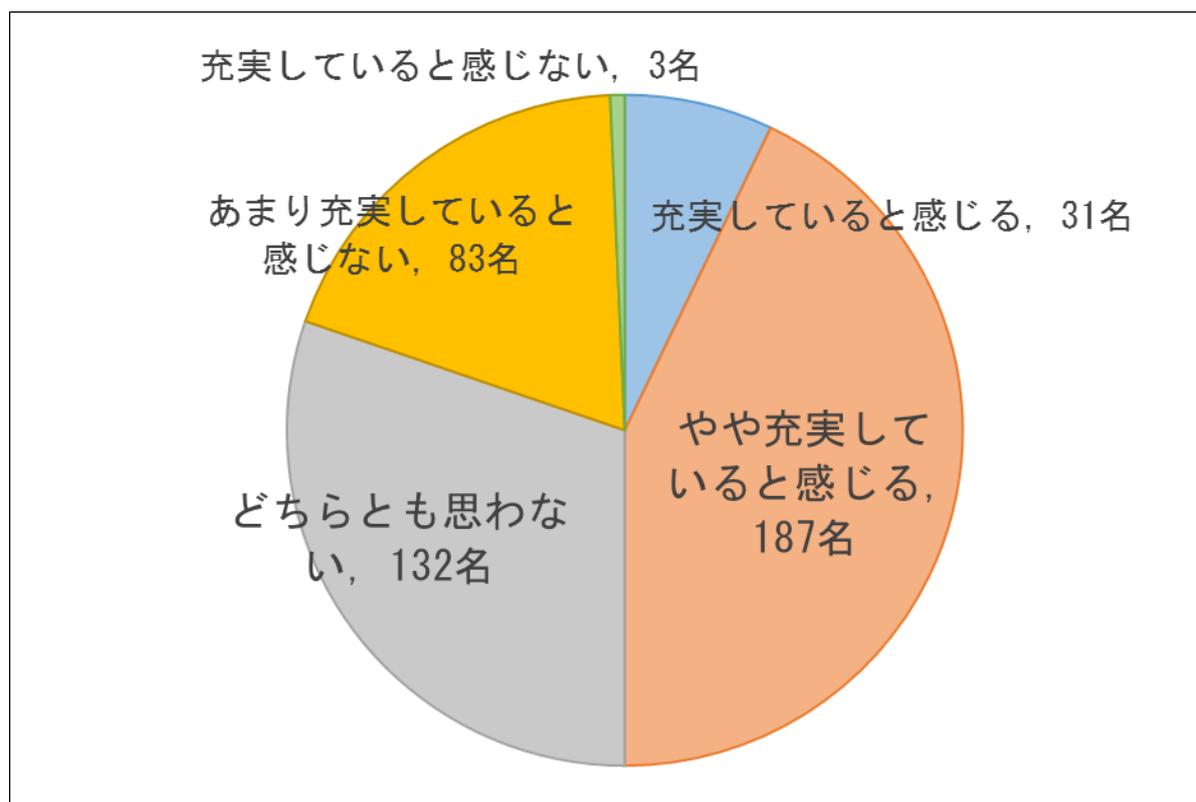
図表 6-19 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（所属する小学校の地区別）

(4) 小学校教員におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度

【結果概要】

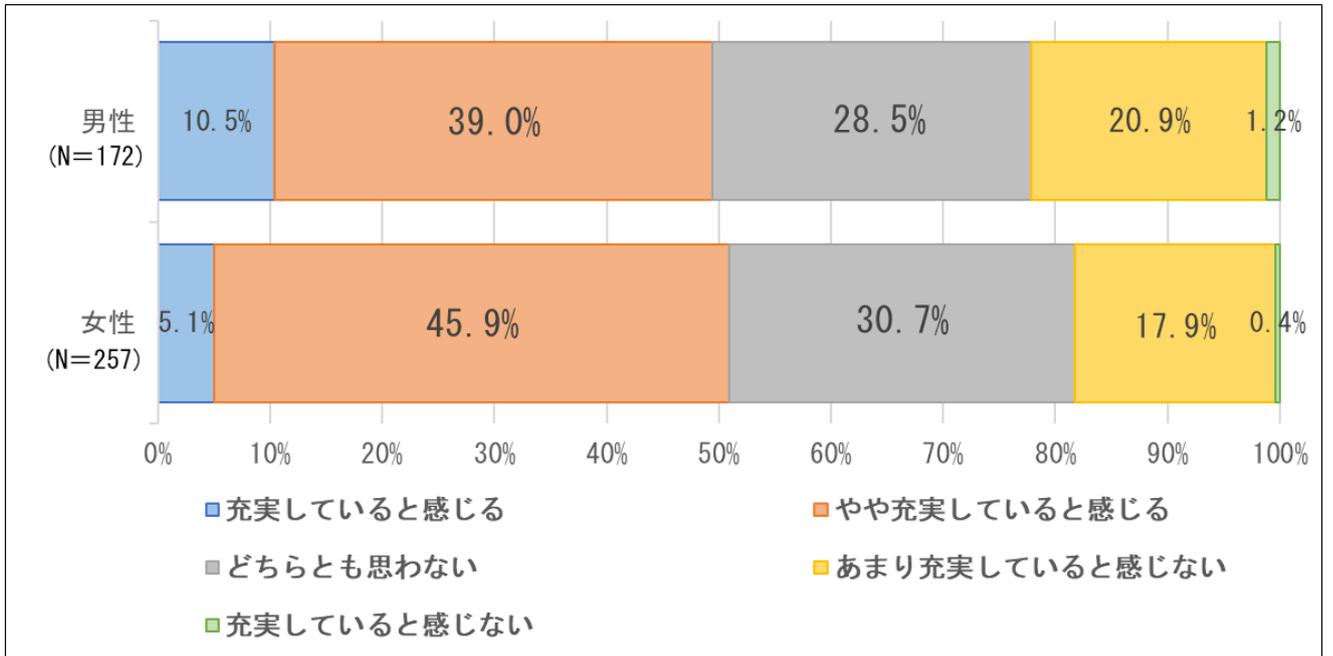
- ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると回答した方が約半数となり、充実していないと感じる方を上回りました。(図表 6-20 参照)
- 年齢が低くなるにつれて、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していないと感じる傾向がみられ、特に 29 歳以下においてはその傾向が顕著にみられました。(図表 6-22 参照)
- 地区別にみると、特に小松地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じる傾向がみられました。(図表 6-23 参照)

図表 6-20 によると、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した方が約半数となり、「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した方を上回りました。



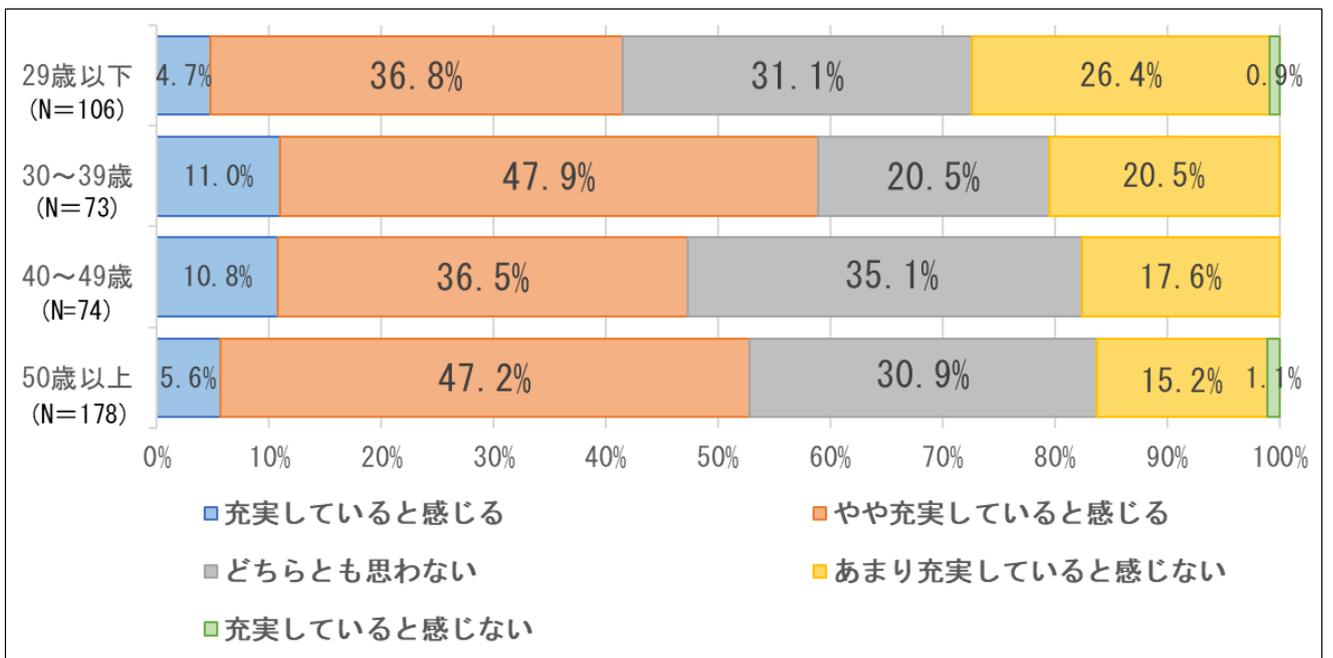
図表 6-20 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度 (単純集計) (N=436)

図表 6-21 よると、男女別に大きな差異は見られませんでした。



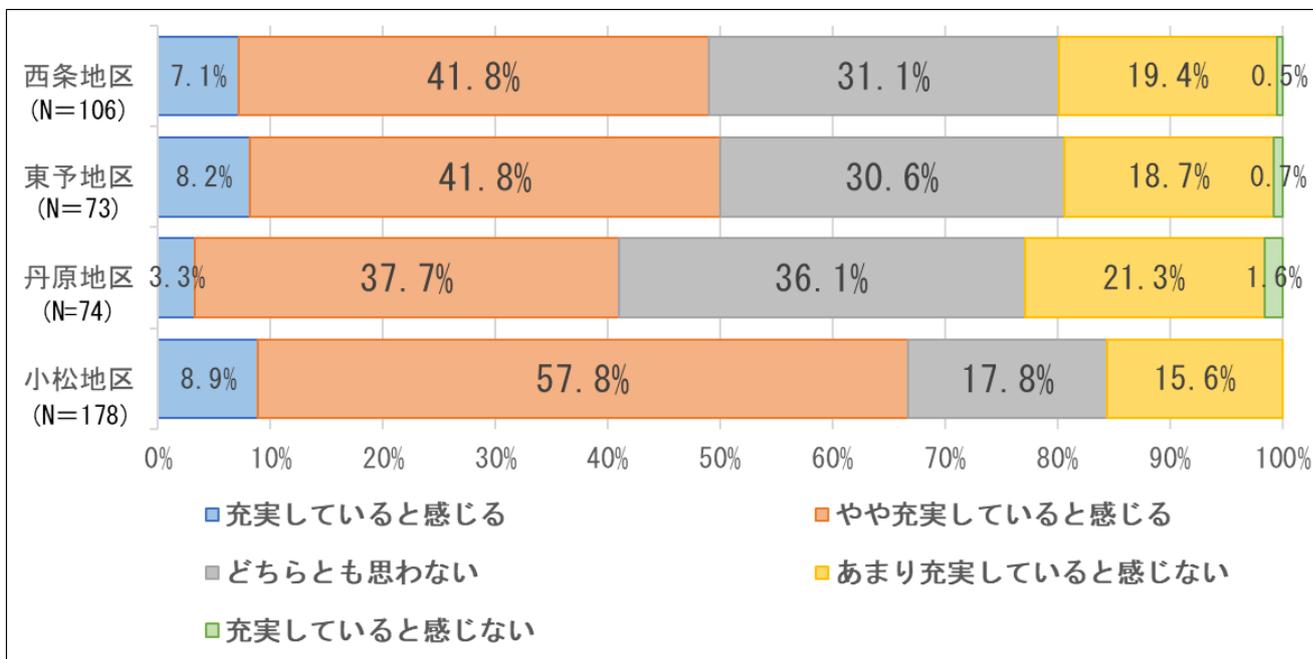
図表 6-21 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（男女別）

図表 6-22 によると、29 歳以下でふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が最も低くなりました。また、年齢が低くなるにつれて、「あまり充実していると感じない」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 6-22 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（年齢別）

図表 6-23 によると、小松地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が最も高くなりました。一方で、丹原地区においては、「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が最も低くなるとともに、「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した比率が高くなりました。



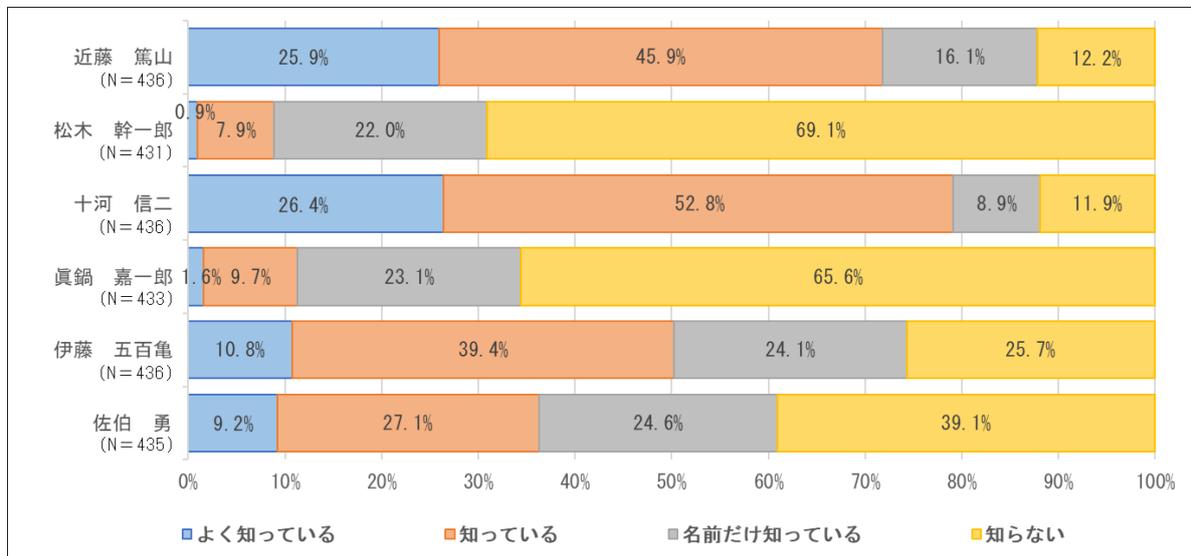
図表 6-23 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（所属する小学校の地区別）

(5) 小学校教員におけるふるさとの先人に対する知識

【結果概要】

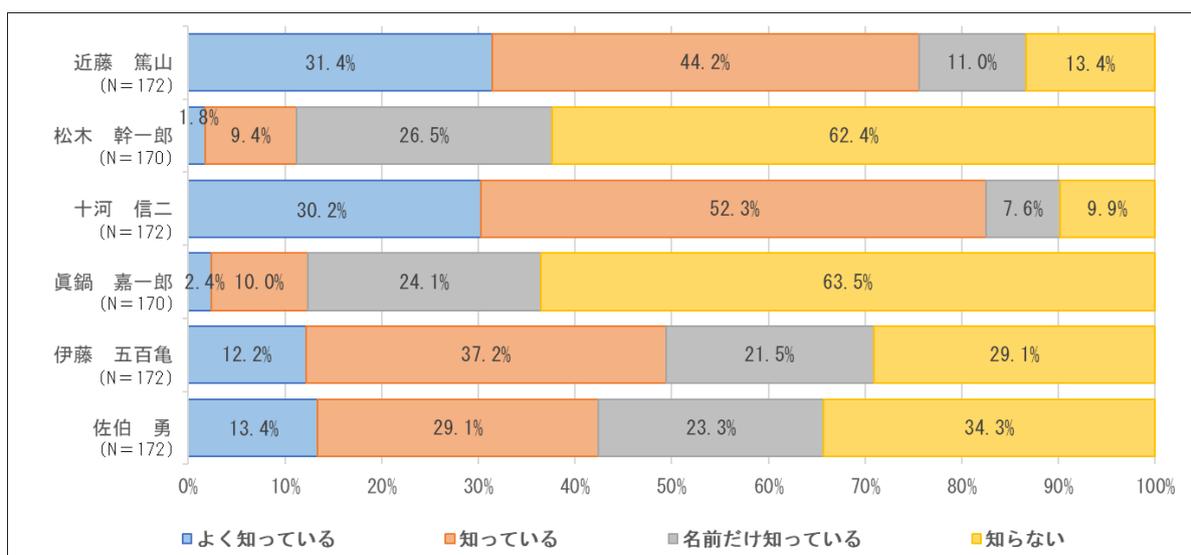
- 男女、年齢、所属する小学校の地区に関係無く、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。（図表 6-24、6-25、6-26、6-27、6-28、6-29、6-30、6-31、6-32、6-33 参照）
- 男女別にみると、女性と比較してわずかながら男性において、先人に対する知識を有している傾向がみられました。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、先人に対する知識を有している傾向がみられました。（図表 6-25、6-26、6-27、6-28、6-29 参照）
- 所属する小学校の地区別において、当該地区との縁やゆかりのある先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなるなどの違いがみられました。（図表 6-30、6-31、6-32、6-33 参照）

図表 6-24 によると、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなる一方で、「松木幹一郎」「眞鍋嘉一郎」については名前も知らないという回答の方が半数を超える結果となりました。

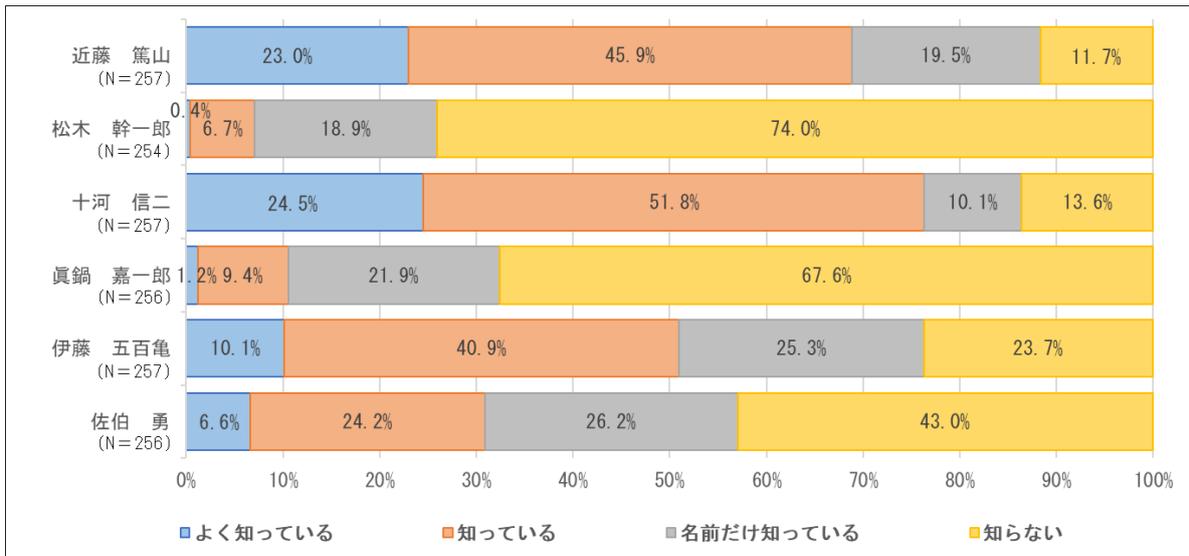


図表 6-24 ふるさとの先人に対する知識（単純集計）

図表 6-25、6-26 によると、男女別に大きな差異はみられませんが、女性と比較して男性において、ふるさとの先人に対する知識を有している傾向がみられました。

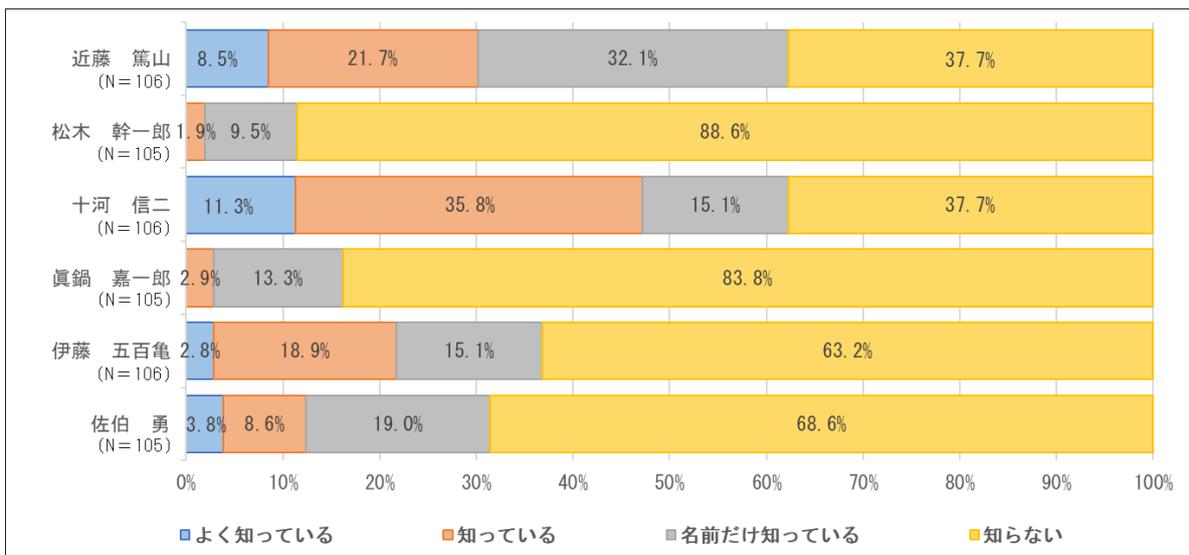


図表 6-25 ふるさとの先人に対する知識（男性）

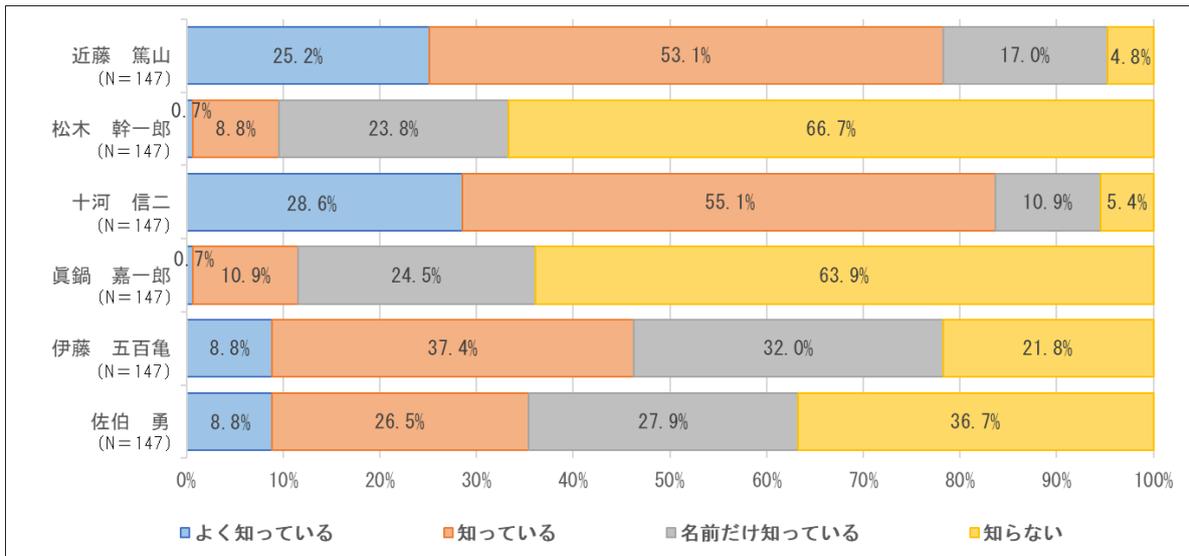


図表 6-26 ふるさとの先人に対する知識（女性）

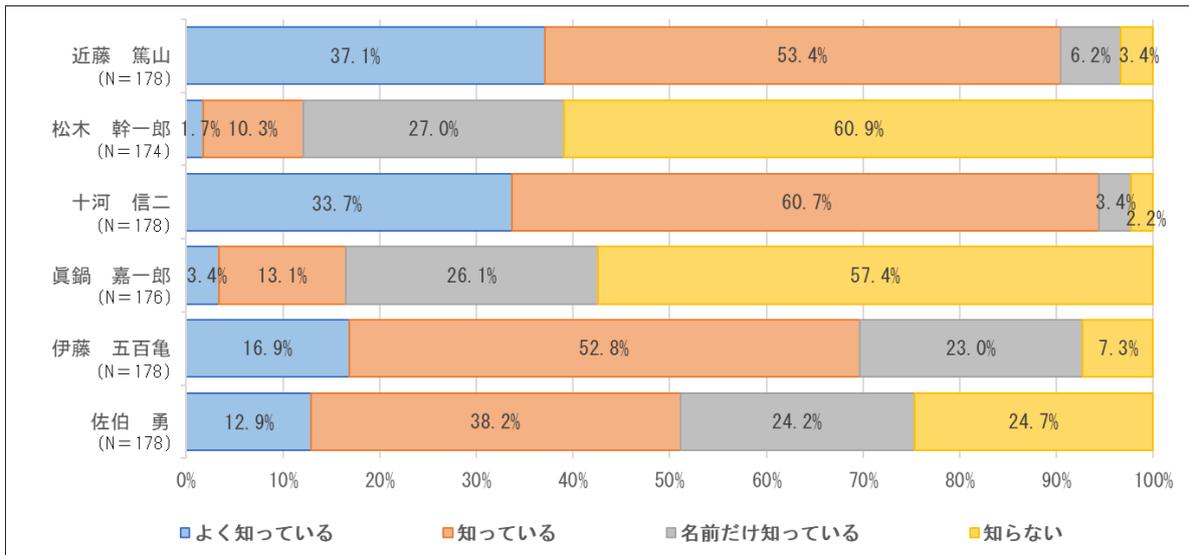
図表 6-27、6-28、6-29 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなる傾向にある中、「近藤篤山」「十河信二」については、総じて知識を有していると回答した比率が高くなりました。また、50 歳以上においては、「伊藤五百亀」「佐伯勇」においても、半数以上の方が「よく知っている」「知っている」「名前だけ知っている」と回答する結果となりました。



図表 6-27 ふるさとの先人に対する知識（29 歳以下）

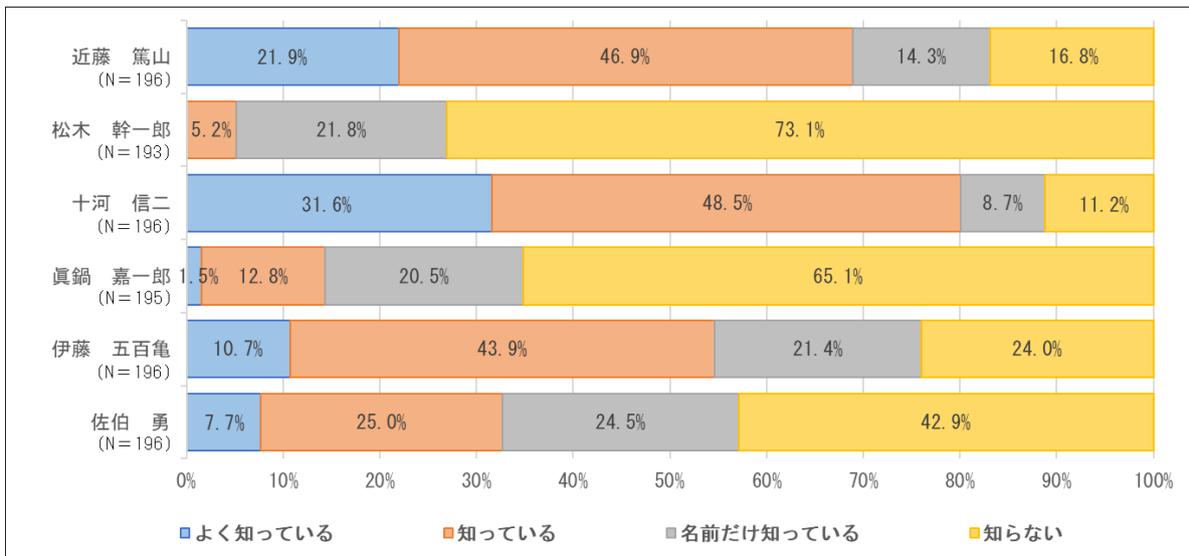


図表 6-28 ふるさとの先人に対する知識（30～49歳）

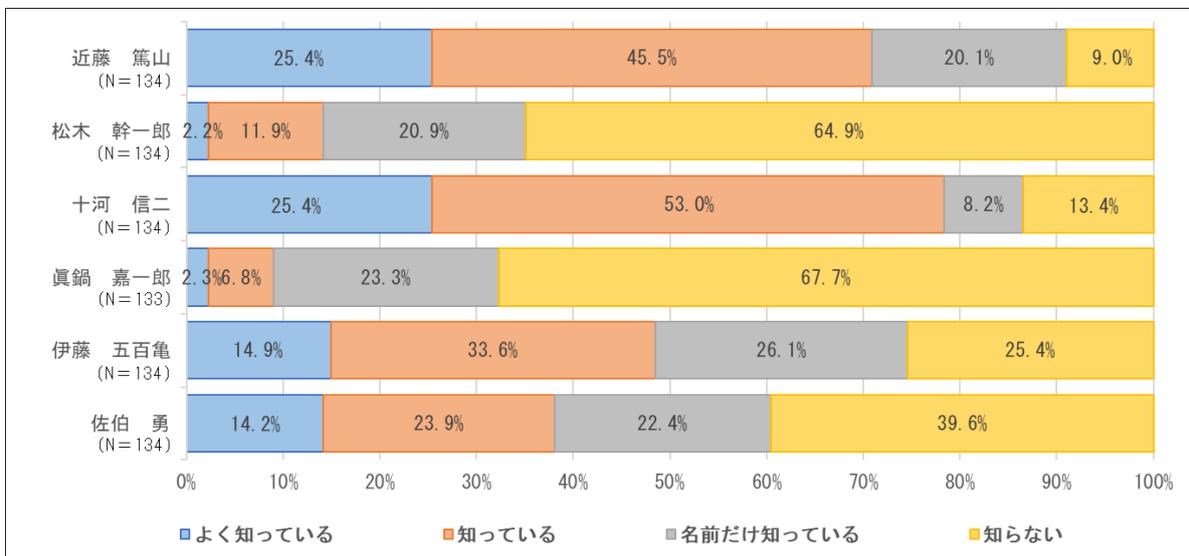


図表 6-29 ふるさとの先人に対する知識（50歳以上）

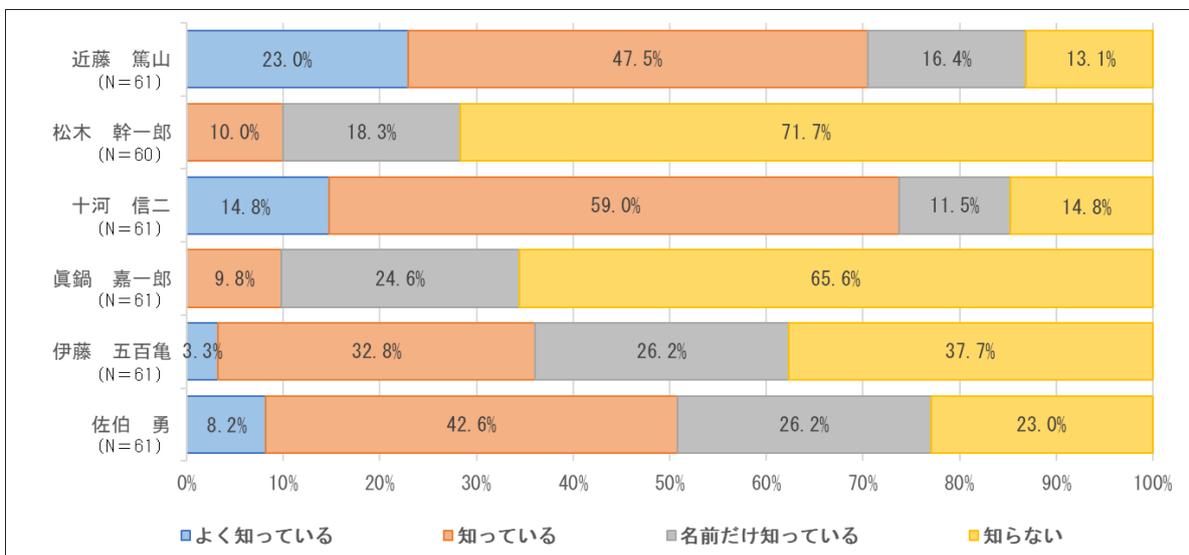
図表 6-30、6-31、6-32、6-33 によると、すべての地区を通じて「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。また、丹原地区では「佐伯勇」、小松地区では「近藤篤山」と回答した比率が高くなるなど、所属する小学校の地区によって先人に対する知識の充実度に違いがみられました。



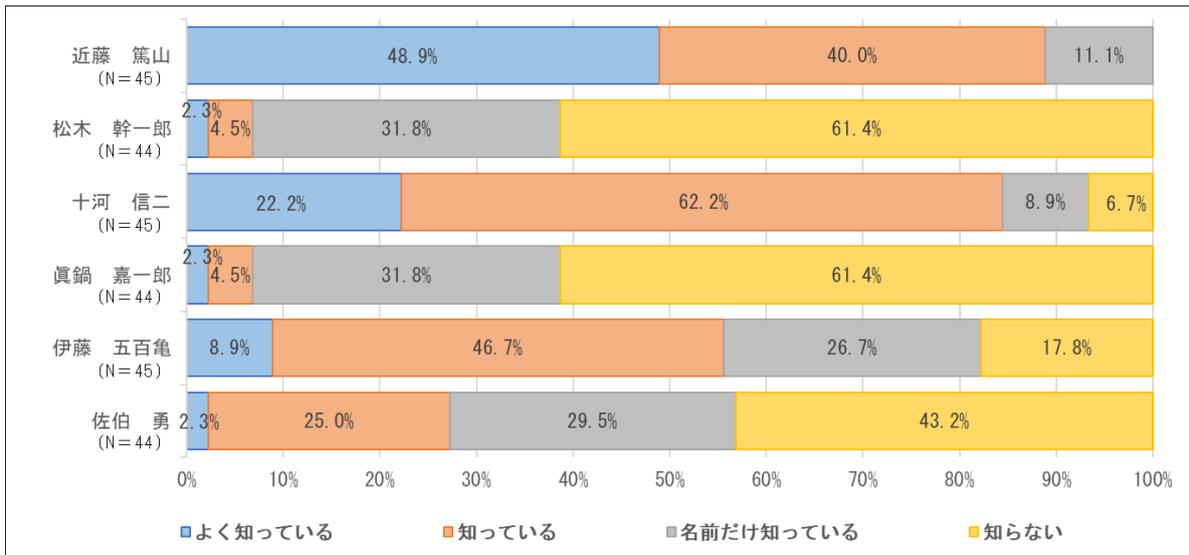
図表 6-30 ふるさとの先人に対する知識（西条地区）



図表 6-31 ふるさとの先人に対する知識（東予地区）



図表 6-32 ふるさとの先人に対する知識（丹原地区）



図表6-33 ふるさとの先人に対する知識（小松地区）

7 参考資料（アンケート用紙）

西条市の教育に関するアンケート調査へのご協力をお願い (小学校 教員用(校長先生、教頭先生も含みます)) ～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に向けて、国、県、関係団体等との連携のもと、豊かな心をはぐくむ教育・文化を実感できるまちづくりを進めています。

令和2年度は、西条市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改定する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的に、本アンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月 西条市長 玉井 敏久 西条市教育長 伊藤 隆志

調査の概要

- 1 この調査用紙は、西条市立の小学校に勤務されている教員の方を対象（事務員除く）に配布しています。
- 2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。
日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。
- 3 必ずご本人がご回答ください。
- 4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、12月9日(水曜日)までに各学校で集約していただき、以下の担当までご返送ください。
- 5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※なお、本アンケートにつきましては、本市が策定する「第2期西条市総合計画」第5章「豊かな心を育む教育文化のまちづくり」の体系にもとづき実施いたしますが、そのうち人権・同和教育の内容については、令和元年度に別の市民アンケート調査を実施しているため、そちらのデータを活用することとしています。

〒793-8601
西条市明屋敷164番地
西条市経営戦略部政策企画課（担当：大久保・石水）
TEL：(0897)56-5151（内線2150）
E-mail：seisakukikaku@saijo-city.jp

西条市の教育に関するアンケート調査票

質問1 最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを1つ選び数字を○で囲んでください。

① あなたの性別を教えてください。

1 男性	2 女性	3 答えたくない
------	------	----------

② あなたの年齢を教えてください。

1 29歳以下	2 30～34歳	3 35～39歳	4 40～44歳
5 45～49歳	6 50～54歳	7 55～59歳	8 60～64歳
9 65～69歳	10 70歳以上		

③ あなたが勤務されている小学校を教えてください。

1 玉津	2 飯岡	3 西条	4 神拝	5 大町
6 神戸	7 禎瑞	8 橘	9 氷見	10 周布
11 吉井	12 多賀	13 壬生川	14 国安	15 吉岡
16 庄内	17 三芳	18 楠河	19 丹原	20 徳田
21 田野	22 中川	23 田滝	24 小松	25 石根

質問2 学校教育についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

① あなたは小学校がどのようなところであるべきだと思いますか。

- 1 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学ぶところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ
- 7 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

② あなたは小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度は何だと思いますか。

- 1 英語を聞いたり話したりする力
- 2 環境やエネルギーを大切にしている意識
- 3 健康や安全を自己管理する力
- 4 生き方や進路について考える力
- 5 教科の基礎学力
- 6 自ら学び、考え、主体的に行動する力
- 7 新しいものを生み出す創造力
- 8 表現力やコミュニケーション力
- 9 社会生活に必要な常識やマナー
- 10 社会に役立つ心や公共心
- 11 地域の伝統や文化を大切に国や郷土を愛する心
- 12 体力や運動能力
- 13 人間関係を築く力
- 14 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

③ ②で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策は何だと思いますか。

- 1 英語教育の推進
- 2 環境やエネルギーを大切にしている教育の推進
- 3 体力向上や健康教育の推進
- 4 道徳教育の推進
- 5 食育の推進
- 6 いじめ・不登校対策の推進
- 7 こどもの貧困対策
- 8 教員の資質向上
- 9 ICT教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）
- 10 教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保
- 11 学校の施設や設備の充実
- 12 学校支援ボランティアなど家庭や地域が学校を支える仕組みの充実
- 13 学校の教育活動や運営状況に関する情報発信
- 14 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

④ あなたは小学校の学習環境を考える上で何を重視すべきだと思いますか。

- 1 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 2 異学年間の交流が生まれやすい
- 3 学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる
- 4 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 6 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統を生かした教育が受けられる
- 7 クラス替えができる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることのできる
- 9 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 10 男女比の偏りが生じにくい
- 11 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

⑤ 現在、西条市内の小学校には、様々な規模の学年・学級が存在していますが、あなたはどの規模が小学校の教育環境として最も望ましいと思いますか。

- 1 複式学級が望ましい
- 2 1学年1学級が望ましい
- 3 1学年2学級が望ましい
- 4 1学年3学級が望ましい
- 5 1学年4学級以上が望ましい

選択欄

質問3 図書館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑥ あなたは、平均して1年間でどの程度、市内図書館を利用していますか。

- 1 ほぼ毎日
- 2 週2～3回程度
- 3 週1回程度
- 4 月2～3回程度
- 5 月1回程度
- 6 半年に2～3回程度
- 7 年2～3回程度
- 8 年1回程度
- 9 利用していない

選択欄

矢印の部分は⑥で1回でも市内の図書館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。

⑦ あなたは、図書館の利用環境に満足されましたか。

- 1 満足した
- 2 やや満足した
- 3 どちらとも思わない
- 4 やや不満足だ
- 5 不満足だ

選択欄

⑧ あなたは、主にどちらの図書館を利用しましたか。

- 1 西条図書館
- 2 東予図書館
- 3 丹原図書館
- 4 小松温芳図書館
- 5 移動図書館

選択欄

⑨ あなたは、主に何を目的に図書館を利用しましたか。

- 1 本を借りる
- 2 雑誌を借りる
- 3 CDやDVDを借りる
- 4 館内で本を読む
- 5 館内で新聞や新刊雑誌を読む
- 6 予約やリクエスト、読書相談をする
- 7 趣味や娯楽、生活のための調べ物をする
- 8 勉強や仕事、研究のための調べ物をする
- 9 地域社会での活動に役立つ調べ物をする
- 10 特集コーナーや本の展示を見る
- 11 学習コーナーで勉強する
- 12 図書館で開催されたイベントに参加する
- 13 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

ここまで

⑩ あなたは図書館に関連して、今後力を入れるべき点は何だと思えますか。

- 1 貸出および閲覧書籍の充実
- 2 雑誌・新聞の充実
- 3 図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入
- 4 館内や屋外広場を使用した様々なイベントの充実
- 5 館内での飲食を可能とする
- 6 館内での会話を可能とする
- 7 自分が住むまちの情報の充実
- 8 調べ物や読書などの相談ができる環境の充実
- 9 閲覧席の更なる充実
- 10 学習の場の更なる充実
- 11 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

質問4 公民館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑪ あなたは、平均して1年間でどの程度、あなたが勤務されている小学校区の公民館を利用していますか。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週2～3回程度 |
| 3 週1回程度 | 4 月2～3回程度 |
| 5 月1回程度 | 6 半年に2～3回程度 |
| 7 年2～3回程度 | 8 年1回程度 |
| 9 利用していない | |

選択欄

矢印の部分は⑪で1回でも公民館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。



⑫ あなたは、公民館の利用環境に満足されましたか。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 満足した | 2 やや満足した |
| 3 どちらとも思わない | 4 やや不満足だ |
| 5 不満足だ | |

選択欄

⑬ あなたは公民館にどのような事業を期待しますか。以下の1から12までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項目		期待度				
		期待する	やや期待する	どちらとも言えない	あまり期待しない	期待しない
(記入例) ○○○の○○○○○○○○事業		5	4	3	2	1
ここから下が質問です						
1	健康・スポーツに関する事業	5	4	3	2	1
2	趣味に関する事業	5	4	3	2	1
3	地域の防災に関する事業	5	4	3	2	1
4	家庭や子育てに関する事業	5	4	3	2	1
5	地域課題解決に関する事業	5	4	3	2	1
6	地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業	5	4	3	2	1
7	子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)	5	4	3	2	1
8	子どもの学習支援活動に関する事業 (地域未来塾)	5	4	3	2	1
9	自然、社会体験ができる事業	5	4	3	2	1
10	青少年教育の推進に関する事業	5	4	3	2	1
11	地域の歴史・文化に関する事業	5	4	3	2	1
12	環境に関する事業	5	4	3	2	1

質問5 地域文化・歴史文化についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑭ あなたは、どのジャンルの芸術文化に興味関心がありますか。

- 1 小説や詩などの文学
- 2 コンサートや合唱などの音楽
- 3 絵画や彫刻・陶芸などの美術
- 4 風景や人物などの写真
- 5 劇やミュージカルなどの演劇
- 6 バレエやダンスなどの舞踊
- 7 映画や漫画・アニメなどのメディア芸術
- 8 歌舞伎などの芸術芸能
- 9 落語や漫才などの芸能
- 10 茶道や書道などの生活文化
- 11 囲碁や将棋などの国民娯楽
- 12 興味関心が無い
- 13 その他（ ）

第一選択欄
第二選択欄

⑮ あなたは次のジャンルの芸術文化について、どの程度触れる機会（鑑賞や参加など）に恵まれていると感じますか。以下の1から11までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項目		充実度				
		恵まれている	やや恵まれている	どちらとも言えない	あまり恵まれている	恵まれていない
1	小説や詩などの文学	5	4	3	2	1
2	コンサートや合唱などの音楽	5	4	3	2	1
3	絵画や彫刻・陶芸などの美術	5	4	3	2	1
4	風景や人物などの写真	5	4	3	2	1
5	劇やミュージカルなどの演劇	5	4	3	2	1
6	バレエやダンスなどの舞踊	5	4	3	2	1
7	映画や漫画・アニメなどのメディア芸術	5	4	3	2	1
8	歌舞伎などの芸術芸能	5	4	3	2	1
9	落語や漫才などの芸能	5	4	3	2	1
10	茶道や書道などの生活文化	5	4	3	2	1
11	囲碁や将棋などの国民娯楽	5	4	3	2	1

⑯ あなたはふるさとの歴史文化に誇りや愛着を有していますか。

- 1 有している 2 やや有している
 3 どちらとも思わない 4 あまり有していない
 5 有していない

選択欄

⑰ あなたはふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じますか。

- 1 充実していると感じる 2 やや充実していると感じる
 3 どちらとも思わない 4 あまり充実していると感じない
 5 充実していると感じない

選択欄

⑱ あなたは次のふるさとの先人について、どの程度の知識を有していますか。以下の1から6までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項目		認知度			
		よく知っている	知っている	名前だけ知っている	知らない
1	近藤 篤山	4	3	2	1
2	松木 幹一郎	4	3	2	1
3	十河 信二	4	3	2	1
4	眞鍋 嘉一郎	4	3	2	1
5	伊藤 五百亀	4	3	2	1
6	佐伯 勇	4	3	2	1

アンケートは以上です。
 ご協力ありがとうございました。